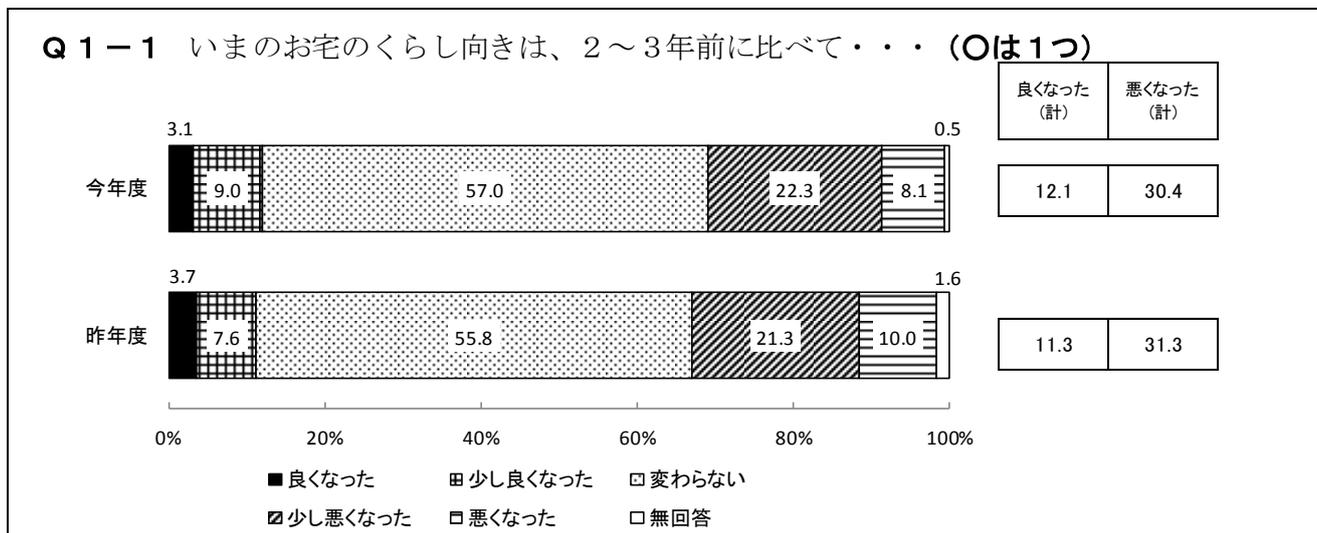


II. 調査結果

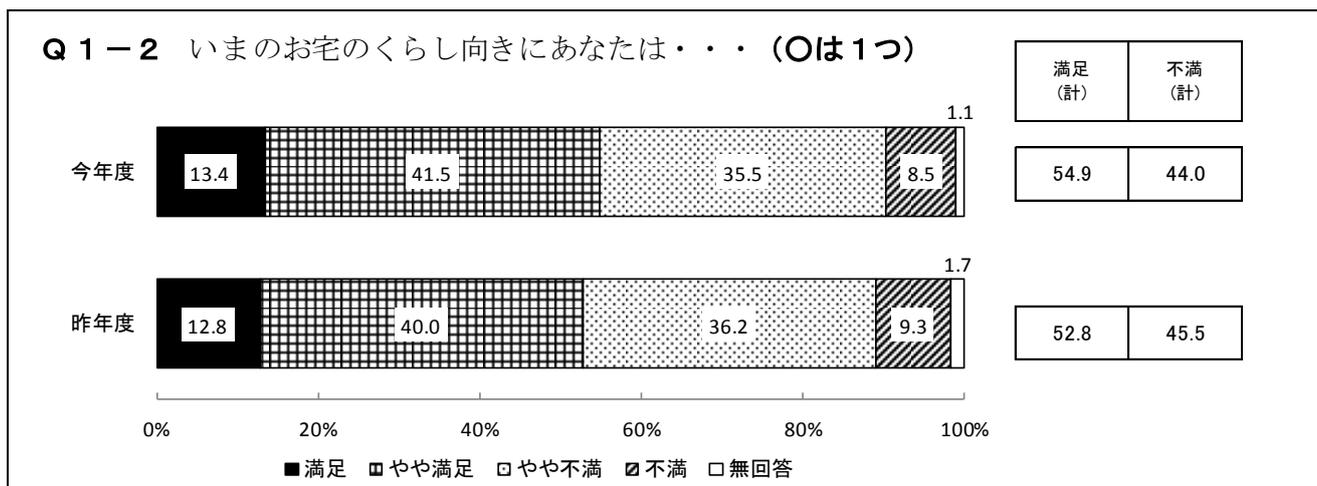
1. 県民の生活実感

1-1. 暮らし向きの変化



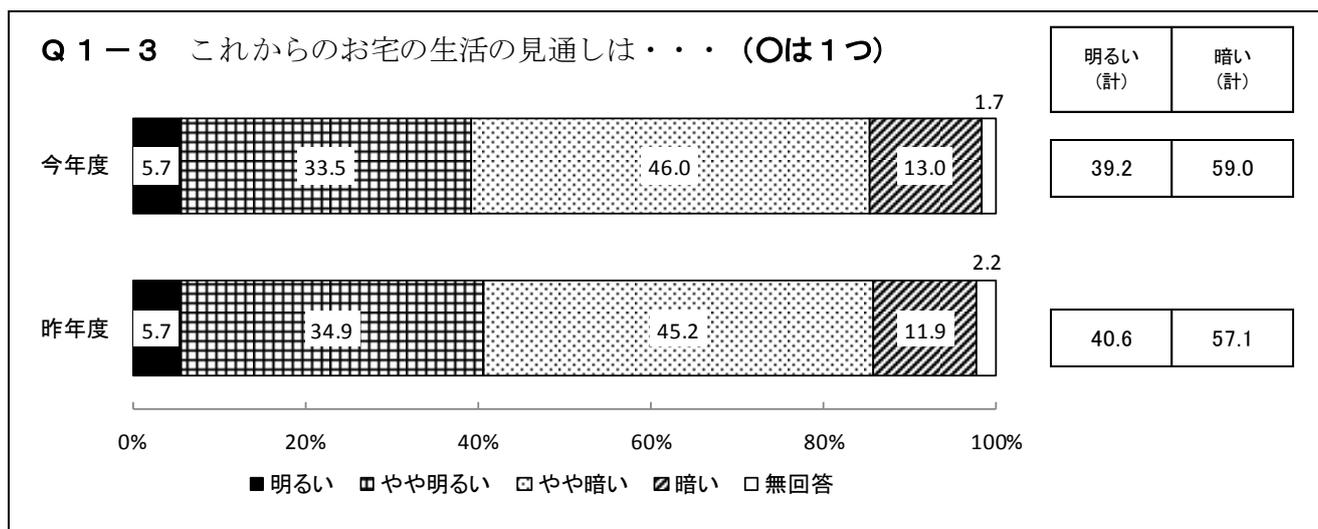
2～3年前に比べた暮らし向きは、「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた『良くなった（計）』が12.1%、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた『悪くなった（計）』が30.4%となっている。昨年度と比較すると、『悪くなった（計）』は0.9ポイント低下している。

1-2. 暮らしの満足度



現在の暮らし向きに関する満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足（計）』が54.9%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満（計）』が44.0%となっている。昨年度と比較すると、『満足（計）』が2.1ポイント上昇し、『不満（計）』が1.5ポイント低下している。

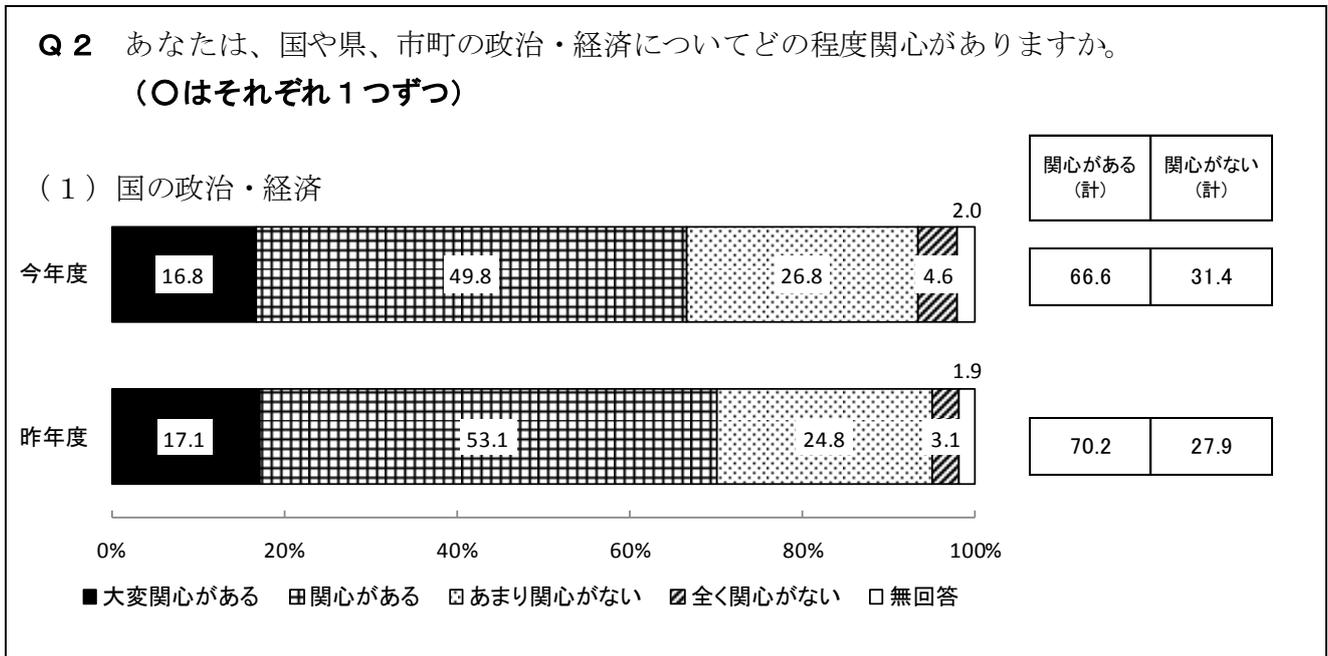
1-3. 今後の生活の見通し



今後の生活の見通しについて、「明るい」と「やや明るい」を合わせた『明るい(計)』が39.2%、「暗い」と「やや暗い」を合わせた『暗い(計)』が59.0%となっている。昨年度と比較すると、『明るい(計)』が1.4ポイント低下し、『暗い(計)』が1.9ポイント上昇した。

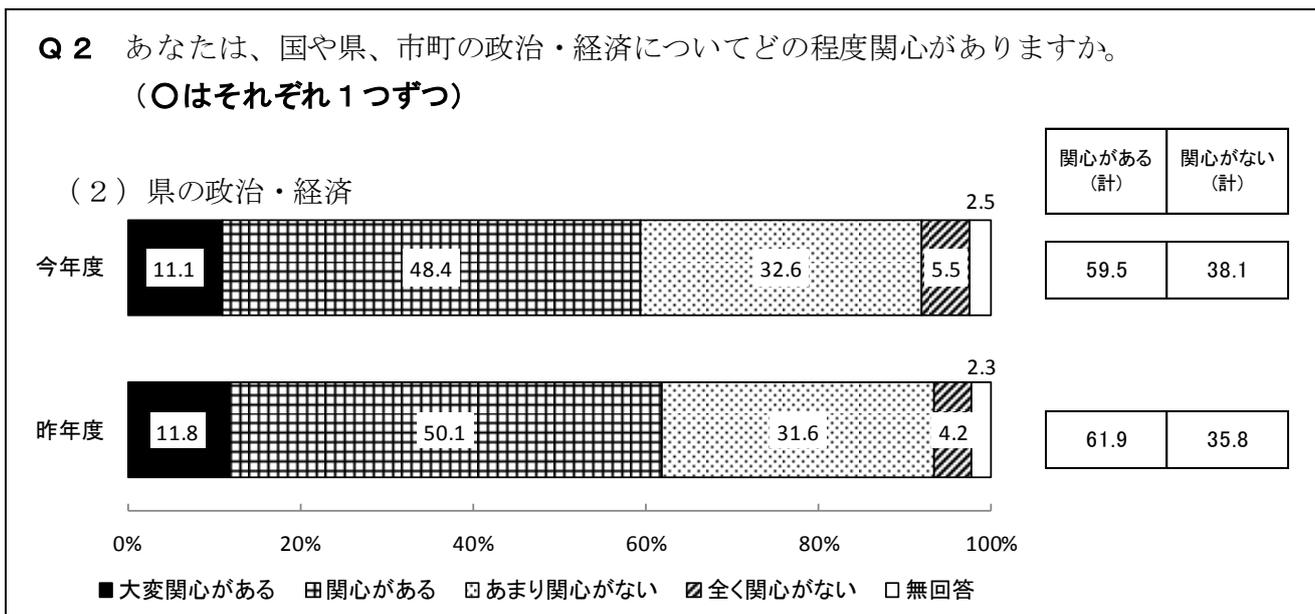
2. 政治や経済への関心

2-1. 国の政治や経済への関心



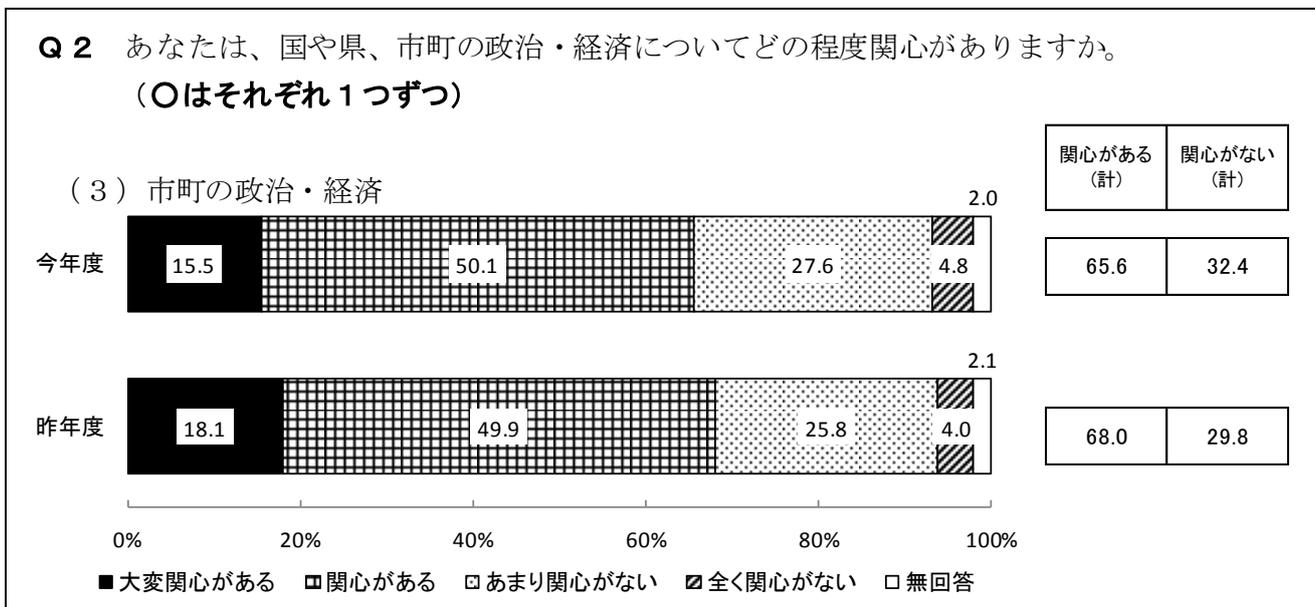
国の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 66.6%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 31.4%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 3.6 ポイント低下し、『関心がない(計)』は 3.5 ポイント上昇している。

2-2. 県の政治や経済への関心



県の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 59.5%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 38.1%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 2.4 ポイント低下、『関心がない (計)』は 2.3 ポイント上昇している。

2-3. 市町の政治や経済への関心

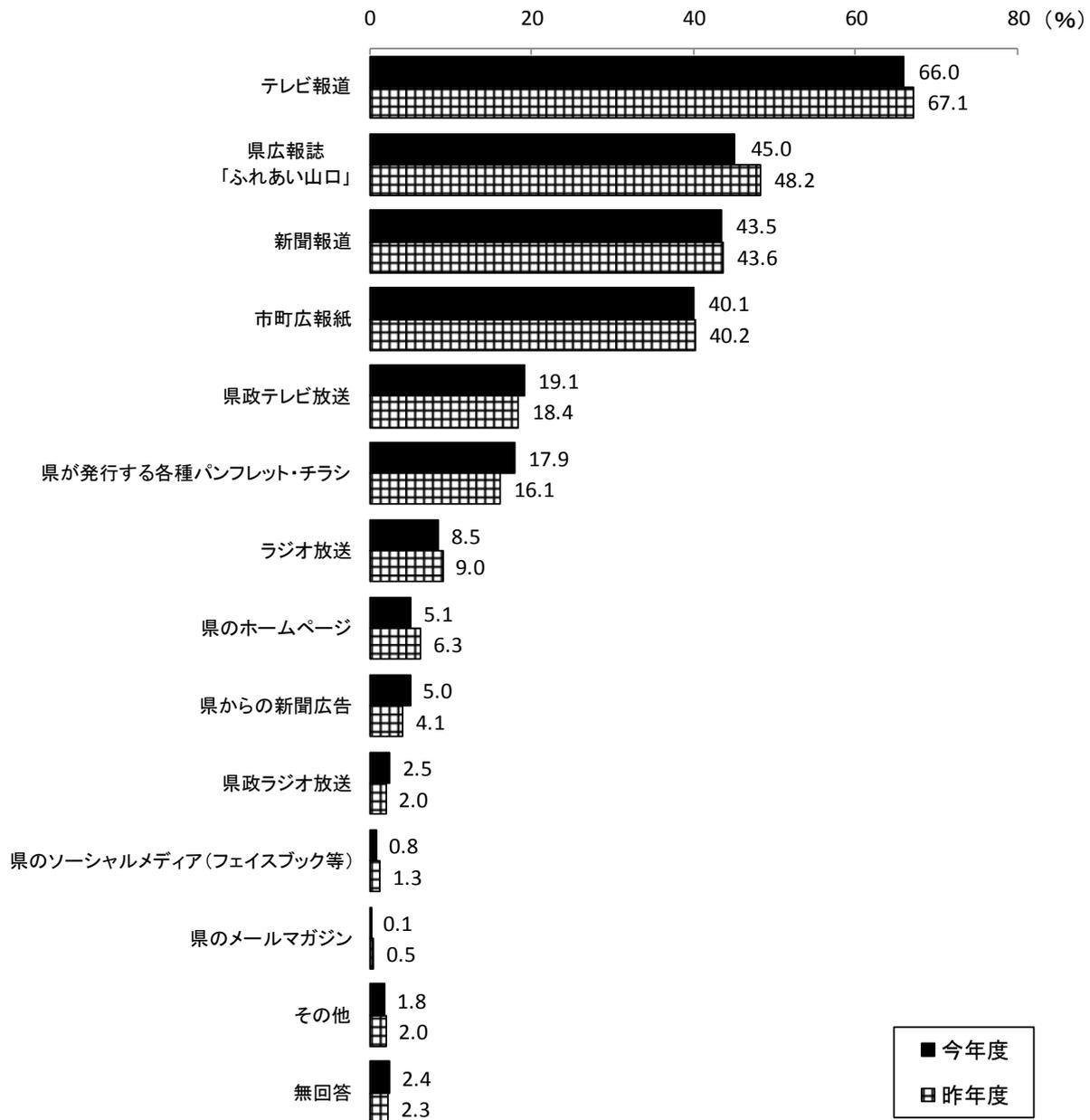


市町の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 65.6%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 32.4%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 2.4 ポイント低下、『関心がない (計)』は 2.6 ポイント上昇している。

3. 県が行っている広報

3-1. 県の仕事の認知媒体

Q3-1 あなたは日頃、県が行っている仕事などの県政情報を何によって知ることが多いですか。（〇はいくつでも）



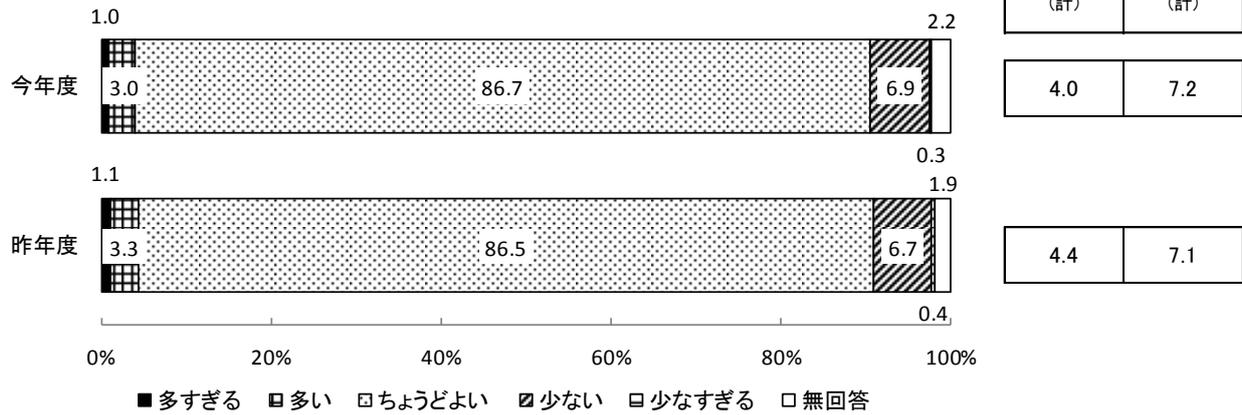
県の仕事の認知媒体について、「テレビ報道」が66.0%と最も多く、次いで「県広報誌『ふれあい山口』」が45.0%、「新聞報道」が43.5%、「市町広報紙」が40.1%、「県政テレビ放送」が19.1%、「県が発行する各種パンフレット・チラシ」が17.9%などの順となっている。昨年度と比較すると、「県広報誌『ふれあい山口』」は3.2ポイント低下している。

3-3. 「ふれあい山口」の内容に対する評価

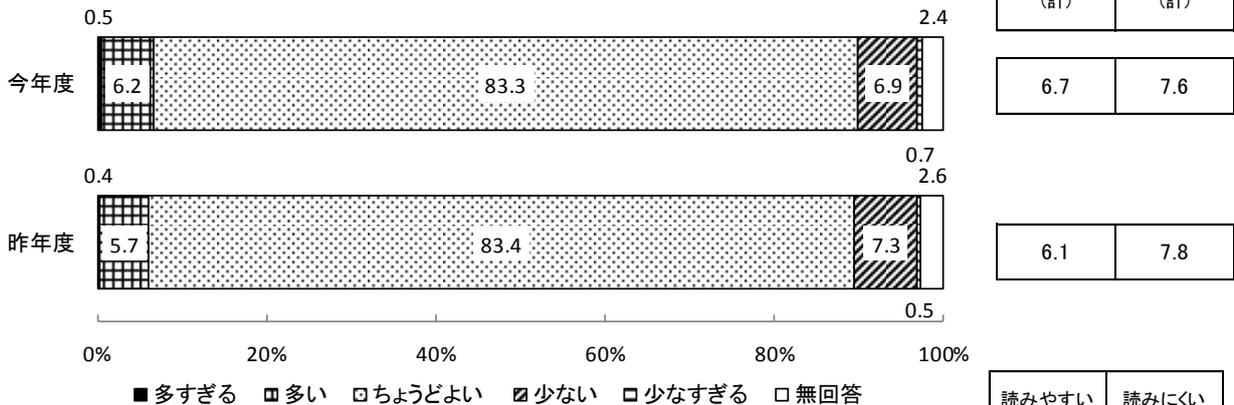
【Q3-2で「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答した方に】 (n=915)

Q3-3 「ふれあい山口」は、平成30年度から発行回数を6回から4回に減らし、各号の情報量を増やす見直しを行いました。見直し後の「ふれあい山口」についておたずねします。(〇はそれぞれ1つずつ)

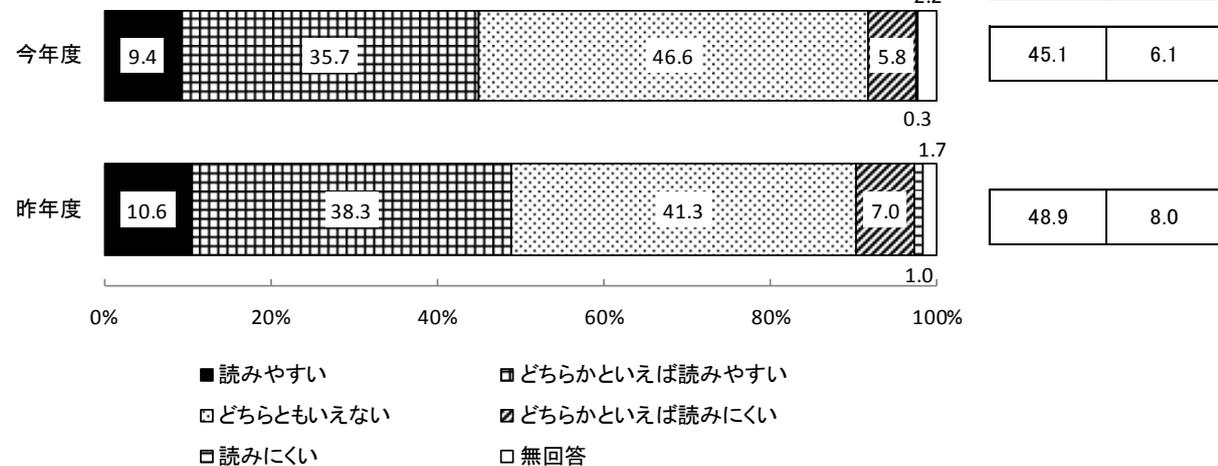
(1) 発行回数【現状】季刊発行(年4回発行)



(2) 各号の情報量【現状】年2回:12ページ 年2回:8ページ



(3) 紙面の読みやすさ



Q3-2で「ふれあい山口」を「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答された方に、「ふれあい山口」の内容に対する評価について質問すると、発行回数は「ちょうどよい」が86.7%と最も多く、情報量については「ちょうどよい」が83.3%と最も多くなっている。昨年度と比較すると、発行回数「少ない」が0.1ポイント上昇、情報量「多い」が0.6ポイント上昇となっている。また読みやすさについては、「読みやすい」と「どちらかといえば読みやすい」を合わせた『読みやすい(計)』が45.1%となっている。

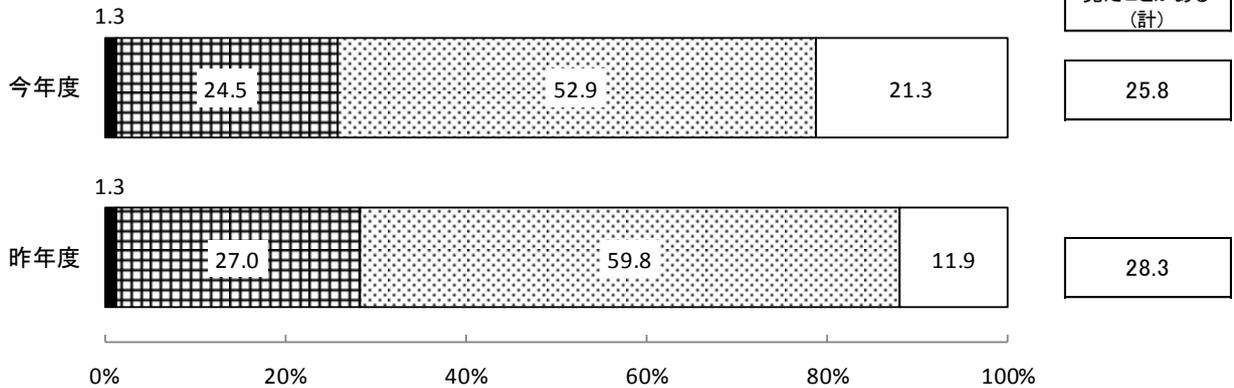
3-4. 各テレビ番組・各ラジオ番組の視聴（聴取）状況及び印象

Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

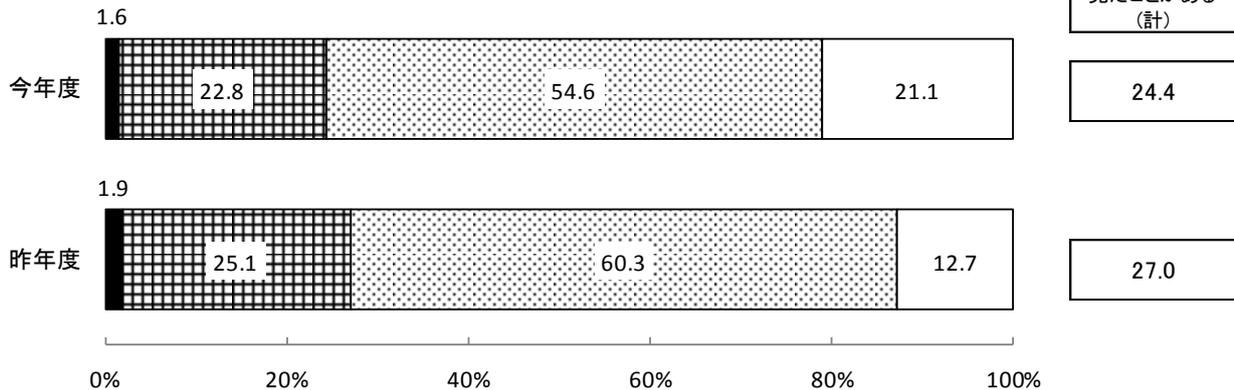
(1) 次の番組を視聴（または聴取）されたことがありますか。

1、2、3から選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

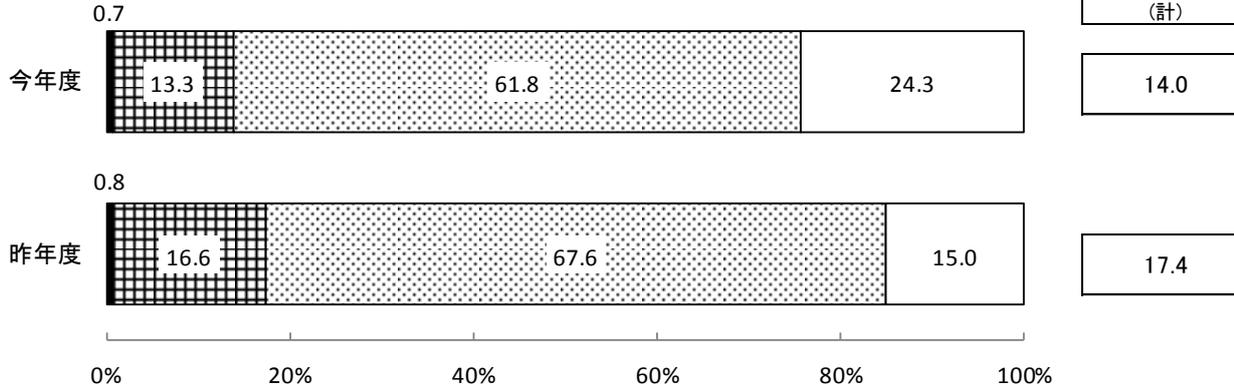
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）



(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）

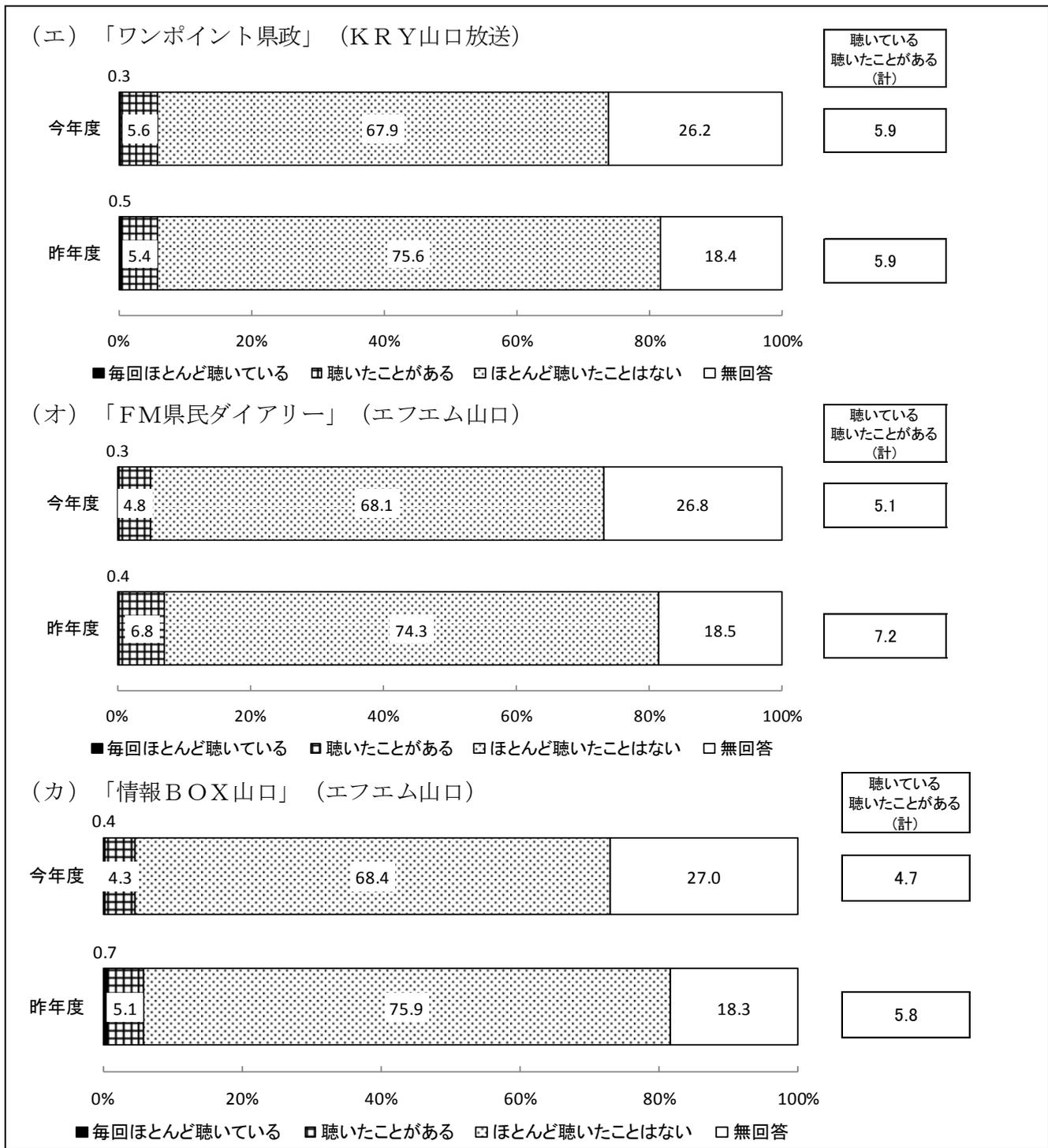


(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）



■ 毎回ほとんど見ている □ 見たことがある □ ほとんど見たことはない □ 無回答

県が提供している県政テレビ番組の視聴状況について、「毎回ほとんど見ている」と「見たことがある」を合わせた『見ている・見たことがある（計）』が、「元気創出！やまぐち」は25.8%、「大好き！やまぐち」は24.4%、「イキイキ！山口」は14.0%と、昨年度に比べ全番組で低下している。

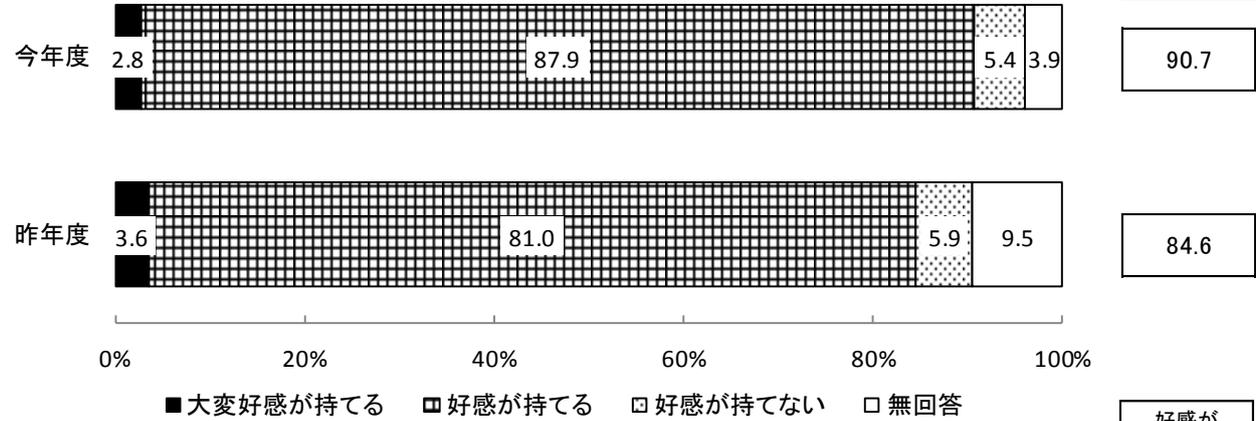


県が提供している県政ラジオ番組の聴取状況について、「毎回ほとんど聴いている」と「聴いたことがある」を合わせた『聴いている・聴いたことがある (計)』が、「ワンポイント県政」は5.9%、「FM県民ダイアリー」は5.1%、「情報BOX山口」は4.7%と、昨年度に比べ、「FM県民ダイアリー」と「情報BOX山口」はともに低下している。

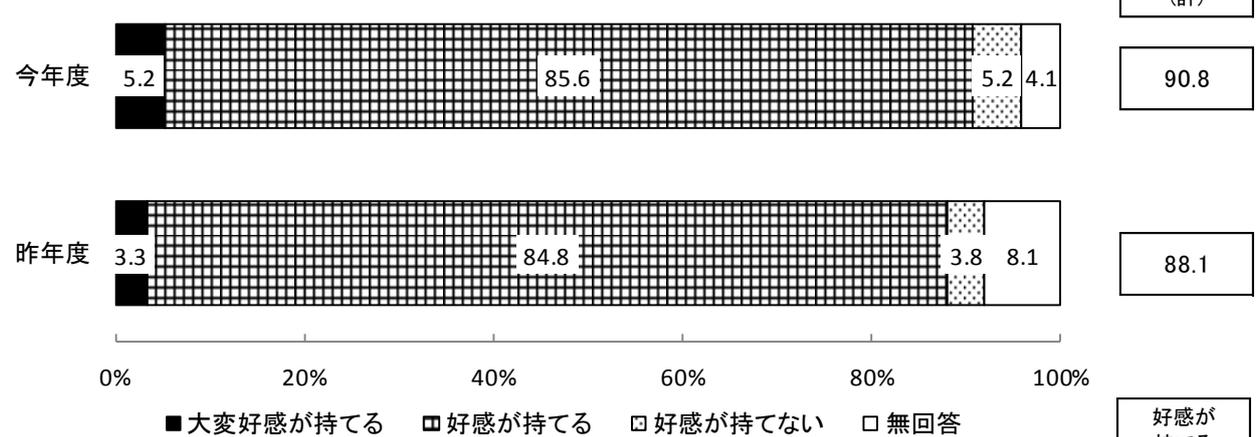
Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(2) 視聴（または聴取）されたことがある場合は、その番組の印象をア、イ、ウから選んでください。（〇はそれぞれ1つずつ）

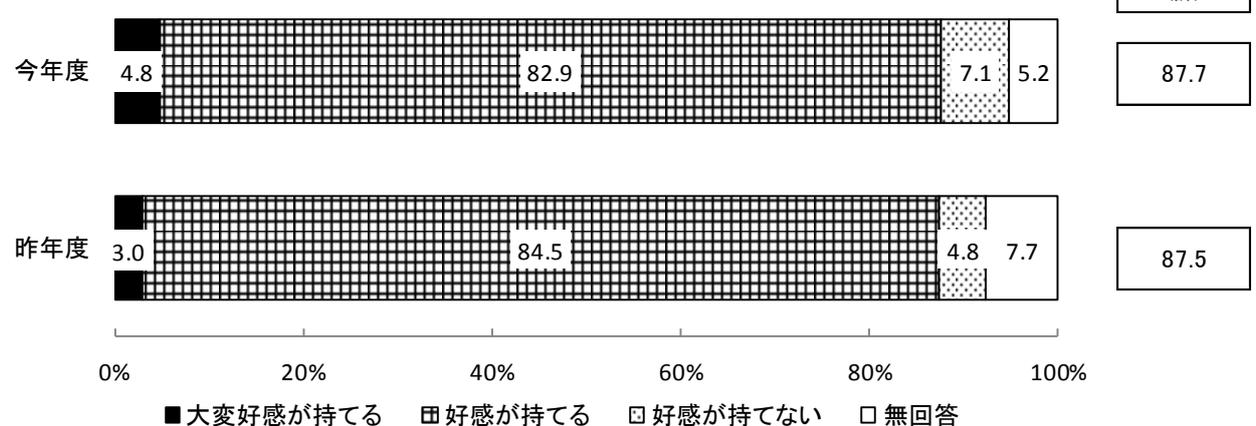
(ア) 「元気創出！やまぐち」(KRY山口放送) (n=388)



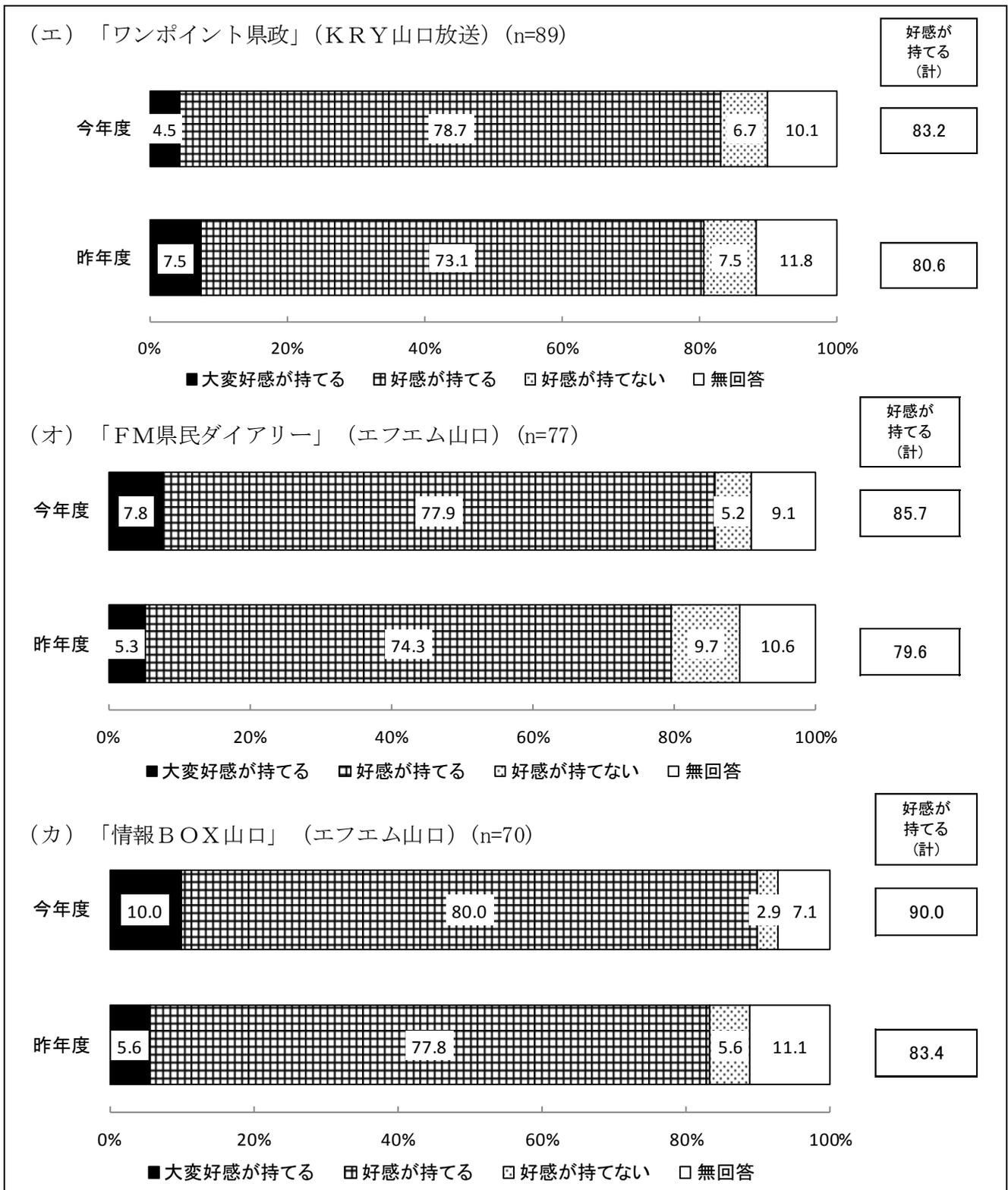
(イ) 「大好き！やまぐち」(TYSテレビ山口) (n=367)



(ウ) 「イキイキ！山口」(YAB山口朝日放送) (n=210)

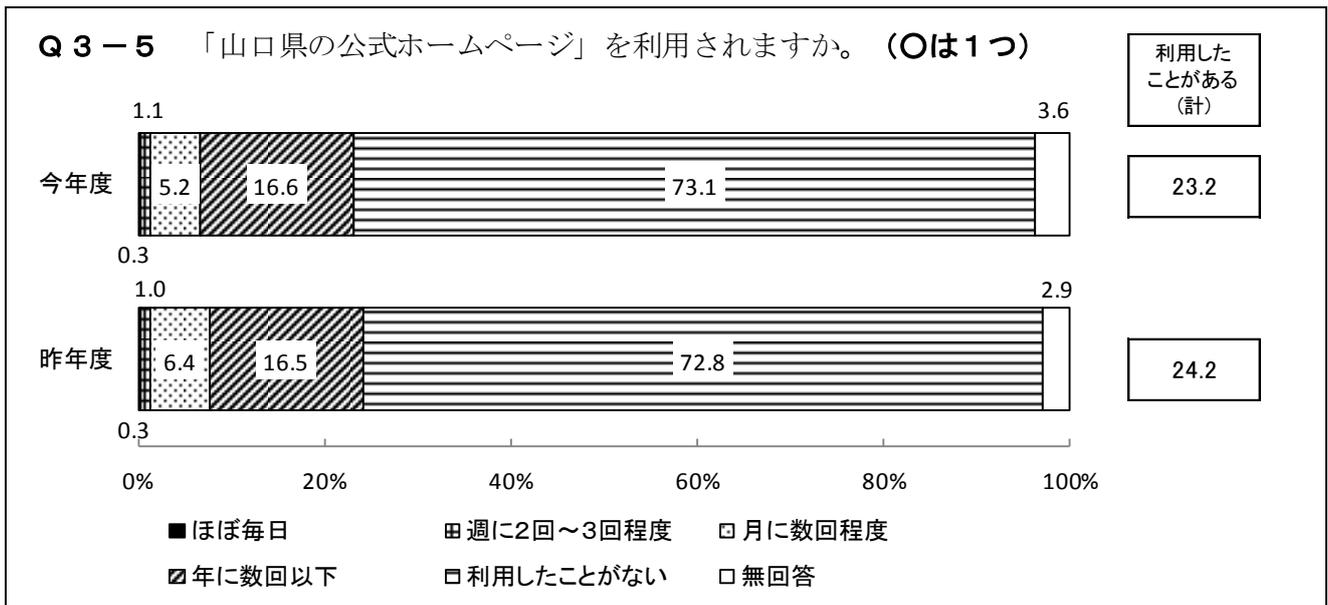


県が提供している県政テレビ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる(計)』が9割前後となっており、全ての番組で上昇している。



県が提供している県政ラジオ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』が8割以上となっており、全ての番組で上昇している。

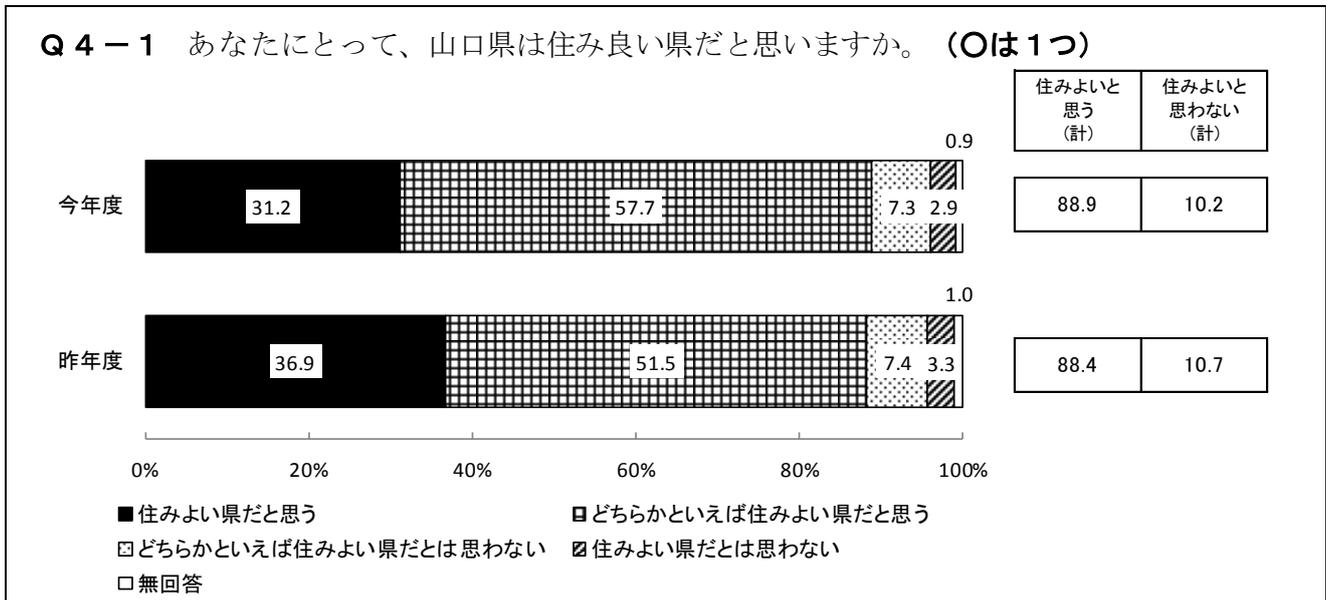
3-5. 「山口県の公式ホームページ」の利用頻度



「山口県の公式ホームページ」の利用頻度について、「ほぼ毎日」、「週に2回~3回程度」、「月に数回程度」、「年に数回以下」を合わせた『利用したことがある(計)』が23.2%、「利用したことがない」が73.1%となっている。昨年度と比較して、『利用したことがある(計)』は1.0ポイント低下している。

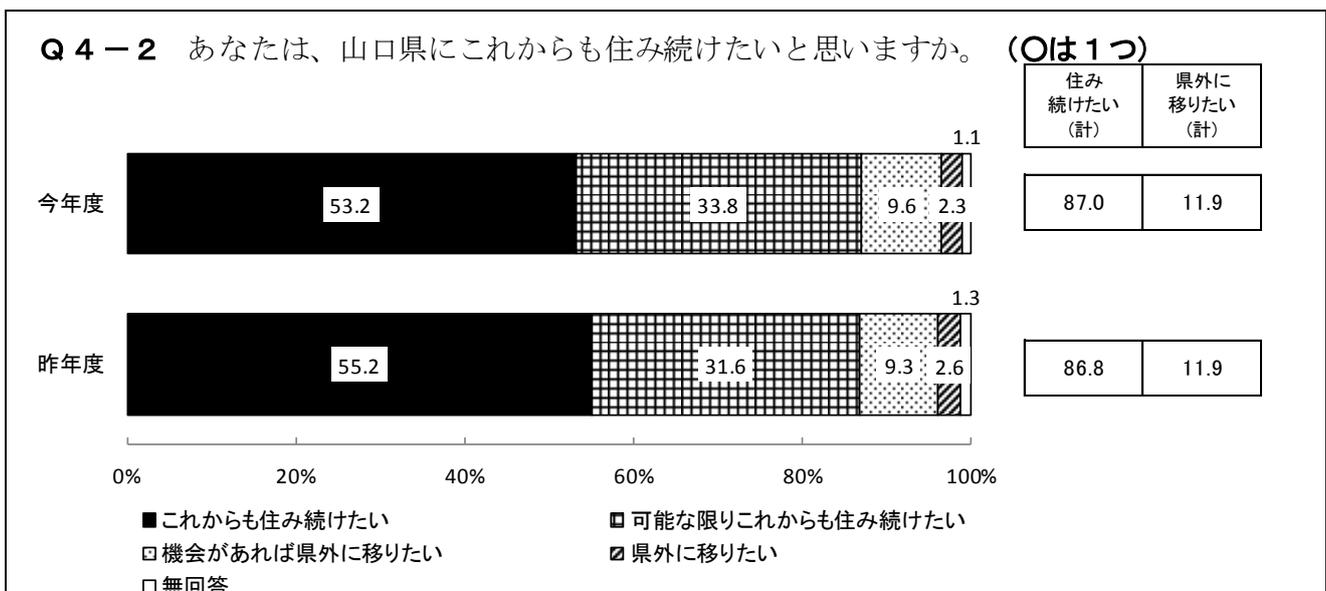
4. 県の取組に対する実感

4-1. 山口県の住み良さ



山口県の住み良さについて、「住みよい県だと思う」と「どちらかといえば住みよい県だと思う」を合わせた『住みよいと思う (計)』が 88.9%となっており、昨年度と比較すると、0.5 ポイント上昇している。

4-2. 今後の山口県への居留意向



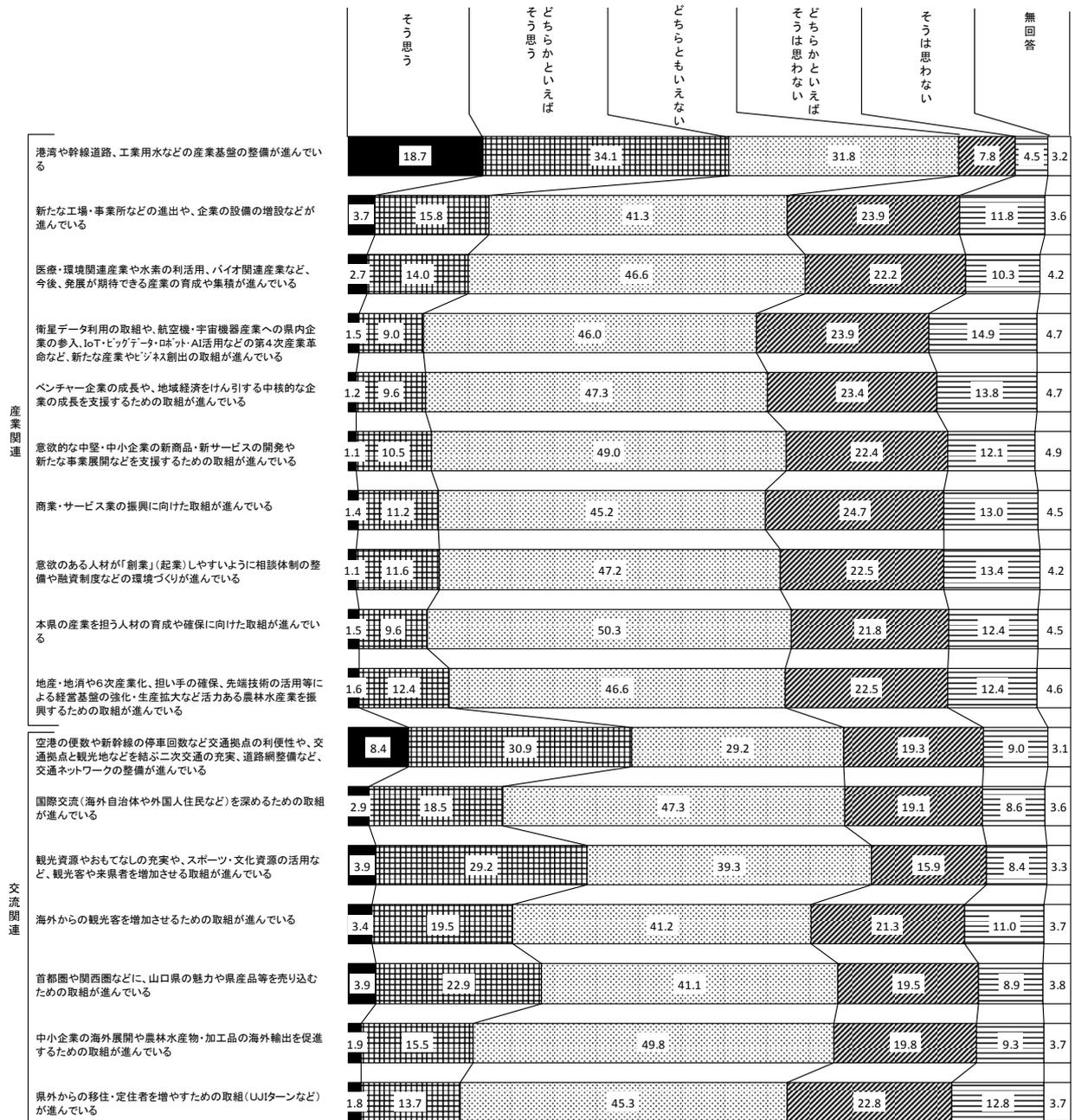
今後の山口県への居留意向について、「これからも住み続けたい」と「可能な限りこれからも住み続けたい」を合わせた『住み続けたい (計)』が 87.0%となっており、昨年度と同様、高水準である。

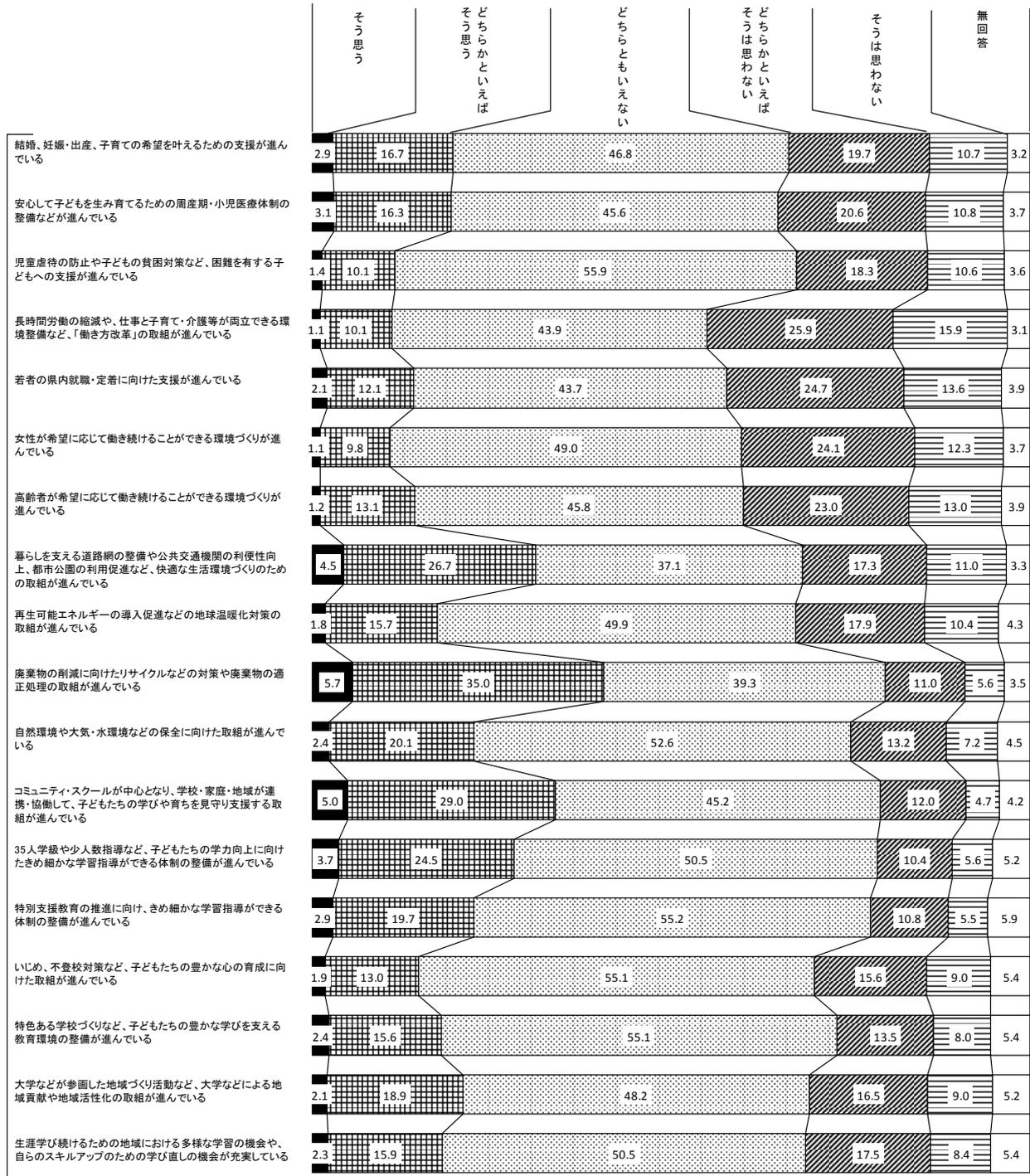
4-3. 県の取組に対する実感

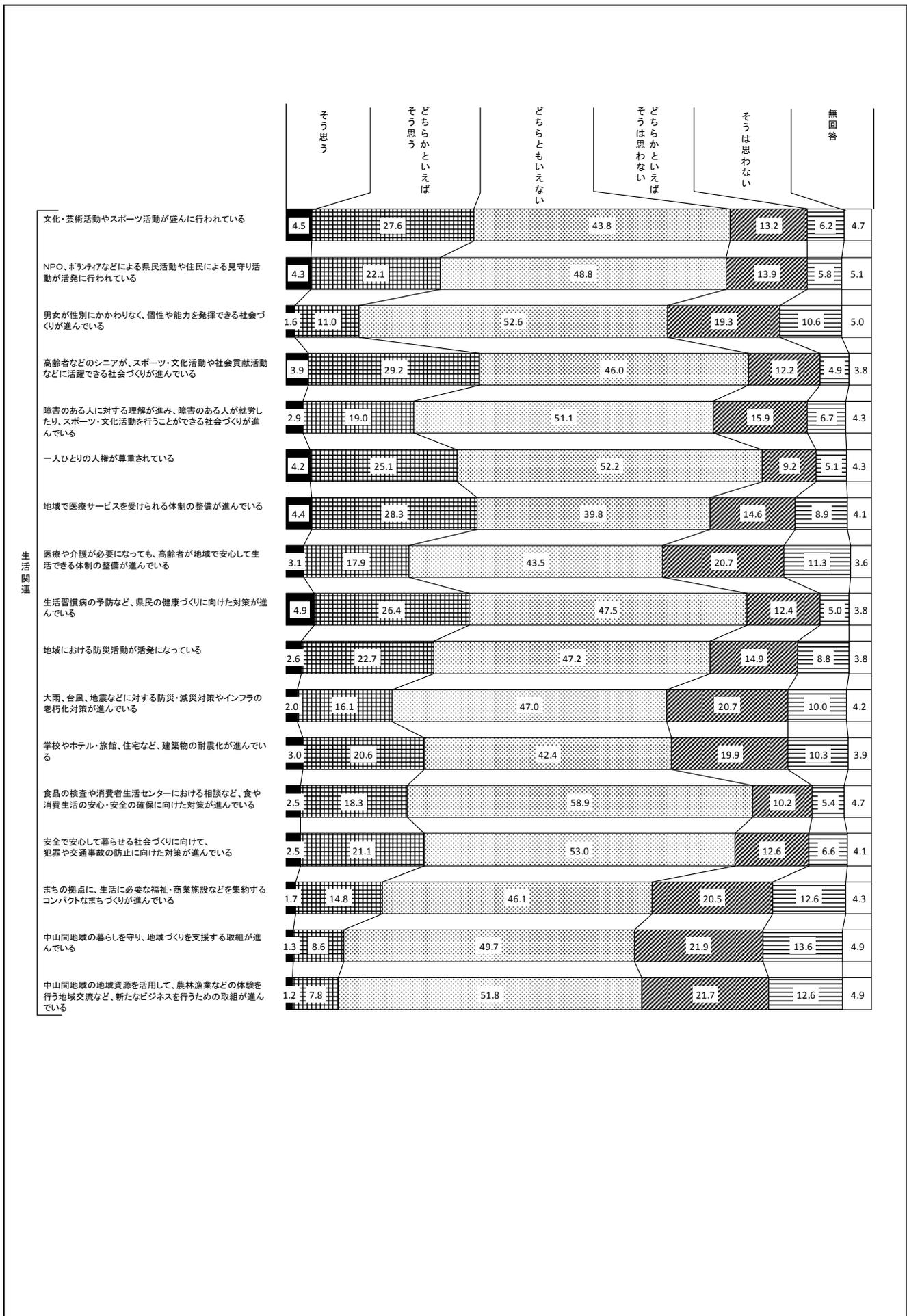
Q 4-3 次の各項目におけるあなたの実感についておたずねします。

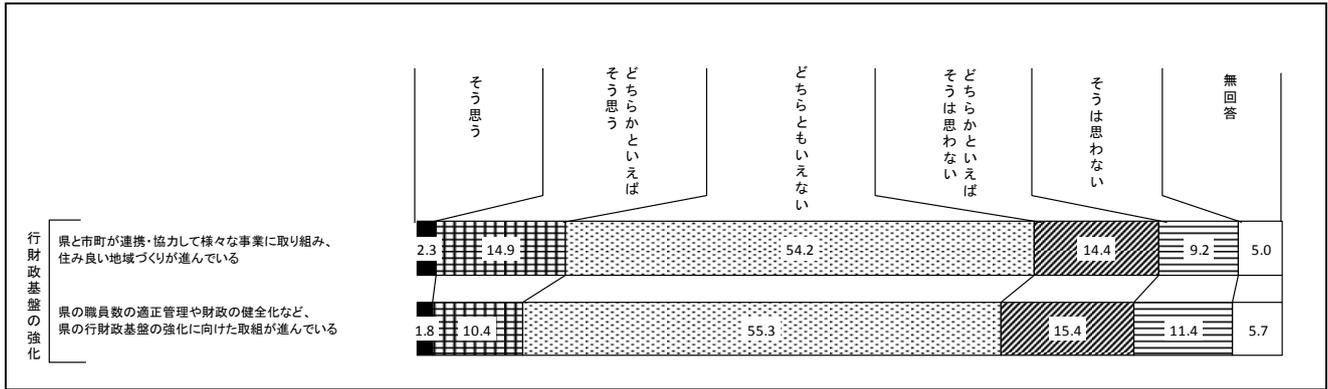
いずれか1つを○で囲んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)









県の取組に対する実感について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う（計）』の割合は、【産業関連】分野の「港湾や幹線道路、工業用水などの産業基盤の整備が進んでいる」が52.8%、【生活関連】分野の「廃棄物の削減に向けたリサイクルなどの対策や廃棄物の適正処理の取組が進んでいる」が40.7%、【交通関連】分野の「空港の便数や新幹線の停車回数など交通拠点の利便性や、交通拠点と観光地などを結ぶ二次交通の充実、道路網整備など、交通ネットワークの整備が進んでいる」が39.3%などで高くなっている。

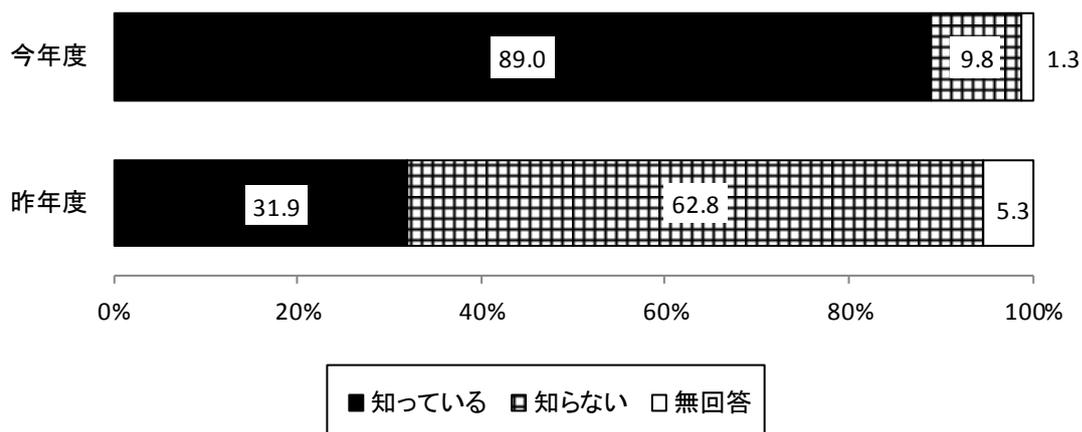
一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『思わない（計）』の割合は、【生活関連】分野の「長時間労働の縮減や、仕事と子育て・介護等が両立できる環境整備など、「働き方改革」の取組が進んでいる」が41.8%、「若者の県内就職・定着に向けた支援が進んでいる」が38.3%、【産業関連】分野の「衛星データ利用の取組や、航空機・宇宙機器産業への県内企業の参入、I o T・ビッグデータ・ロボット・A I活用などの第4次産業革命など、新たな産業やビジネス創出の取組が進んでいる」が38.8%などで高くなっている。

『その他、県が取組を進めている12項目』

5. 「山口ゆめ花博」について

5-1. 「山口ゆめ花博」開催の認知状況

Q5-1 あなたは、平成30年9月14日(金)～11月4日(日)の52日間、山口きらら博記念公園(山口市)で開催される「山口ゆめ花博」をご存じですか。(〇は1つ)

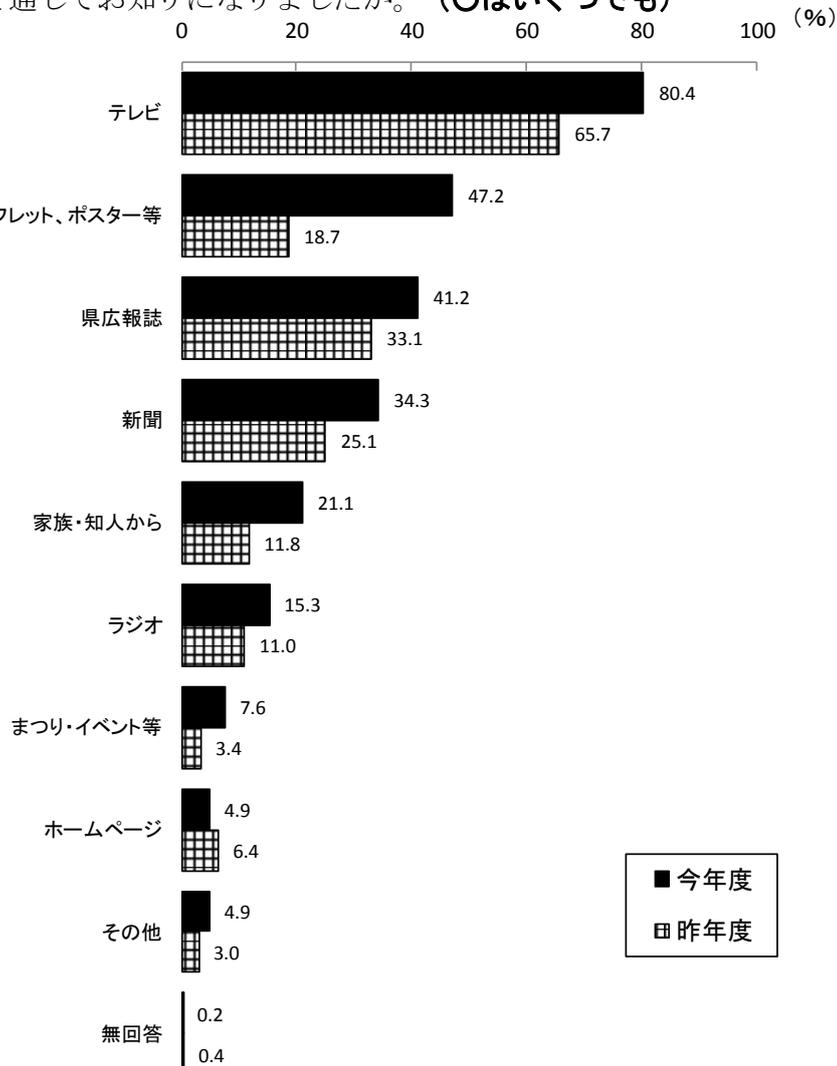


「山口ゆめ花博」開催の認知状況について、「知っている」が89.0%、「知らない」は9.8%となっている。昨年度に比べて、開催が近づいていたこともあり、「知っている」が57.1ポイント上昇している。

5-2. 「山口ゆめ花博」開催の認知媒体

【Q5-1で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=1,339)

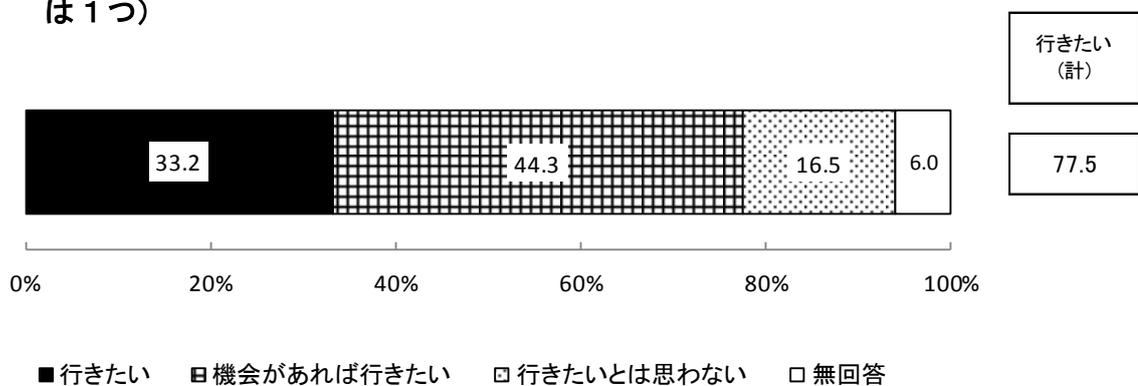
Q5-2 それは、何を通じてお知りになりましたか。(〇はいくつでも)



「山口ゆめ花博」開催を何を通じて知ったかについて、「テレビ」が80.4%と最も高く、次いで「『山口ゆめ花博』のリーフレット、ポスター等」が47.2%、「県広報誌」が41.2%、「新聞」が34.3%、「家族・知人から」が21.1%、「ラジオ」が15.3%などの順となっている。昨年度と比べると、「ホームページ」以外のポイントは上昇している。

5-3. 「山口ゆめ花博」への意向

Q5-3 「ゆめの未来公園はじまる」をキャッチフレーズに、6つの特徴をはじめとした博覧会的な展開を図ることとしている「山口ゆめ花博」へ行ってみたいと思いますか。(〇は1つ)

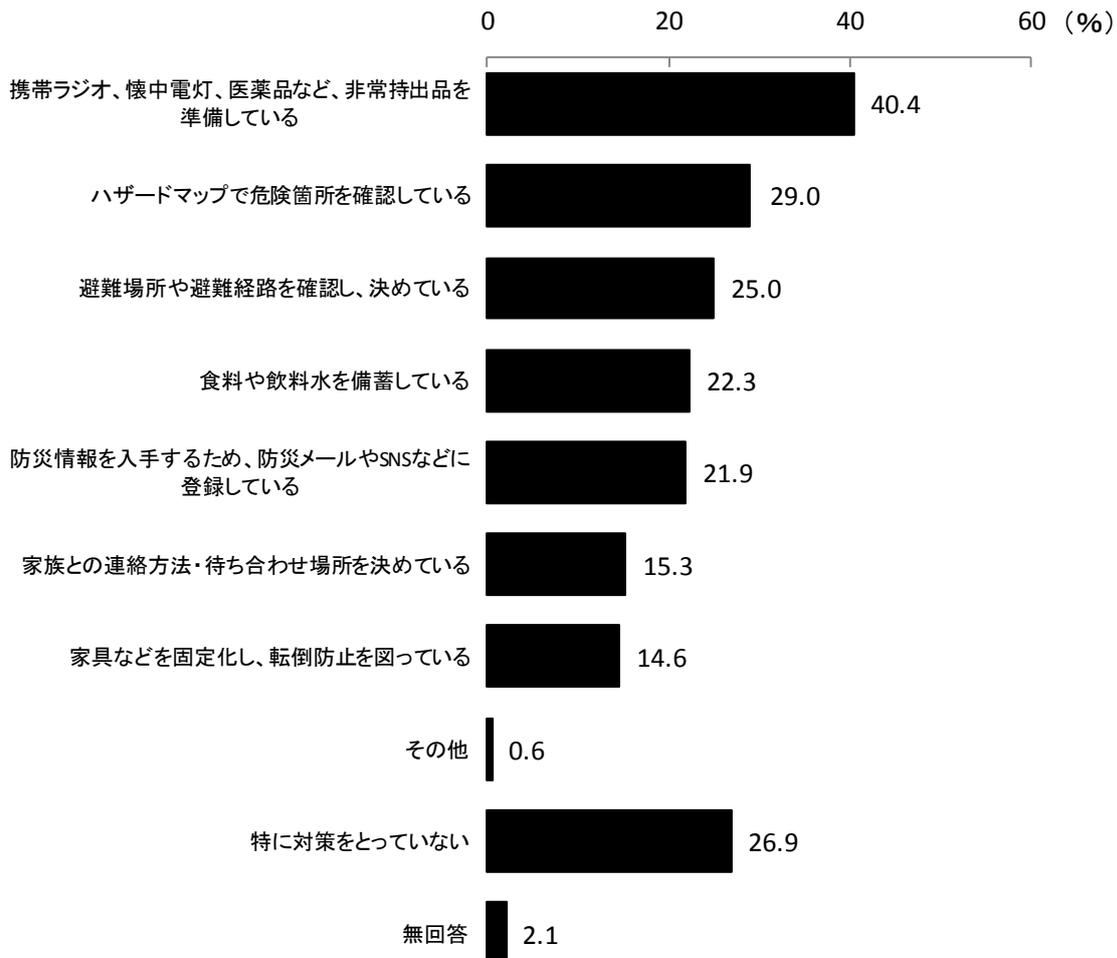


「山口ゆめ花博」への意向について、「行きたい」と「機会があれば、行きたい」を合わせた『行きたい』は77.5%、「行きたいとは思わない」は16.5%となっている。

6. 防災・減災対策について

6-1. 実行している防災対策

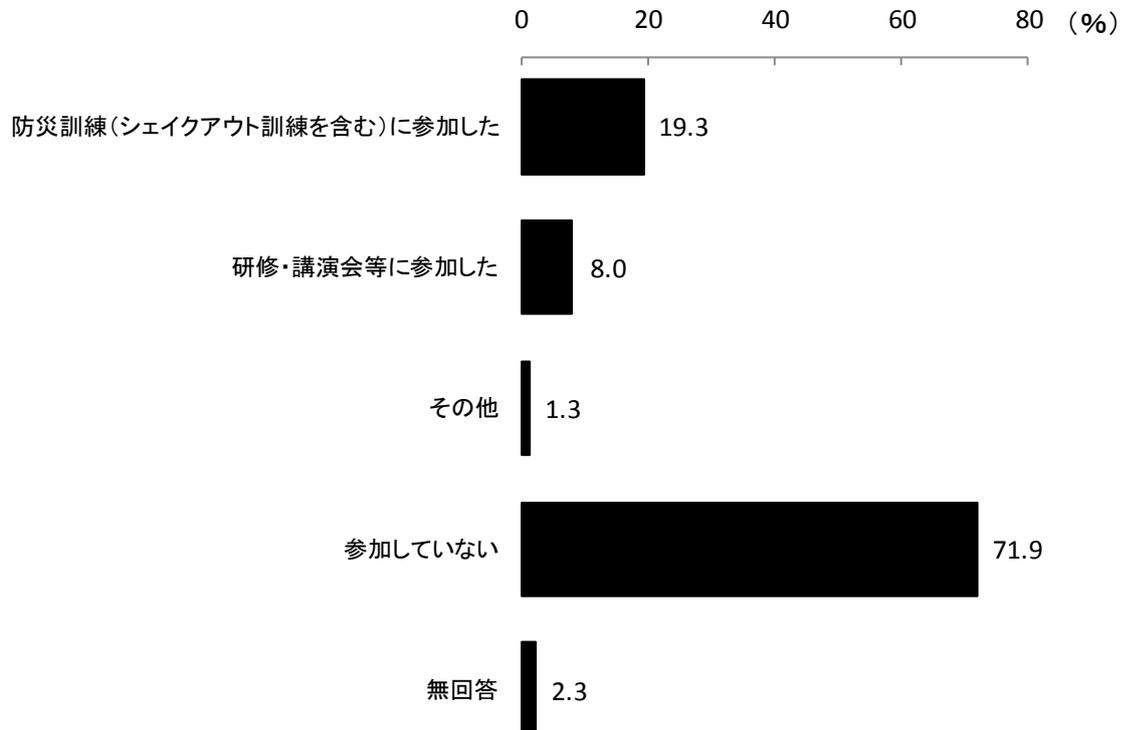
Q6-1 あなたの家庭では、台風や地震などの災害に備え、どのような防災対策を行っていますか。(〇はいくつでも)



行っている防災対策について、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など、非常持出品を準備している」が40.4%と最も高く、次いで「ハザードマップで危険箇所を確認している」が29.0%、「避難場所や避難経路を確認し、決めている」が25.0%などの順となっている。また、「特に対策をとっていない」も26.9%を占めている。

6-2. 参加した防災活動

Q 6-2 あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場などでの防災活動（シェイクアウト訓練※）、防災訓練、研修・講演などへの参加）に参加したことがありますか。
（〇はいくつでも）



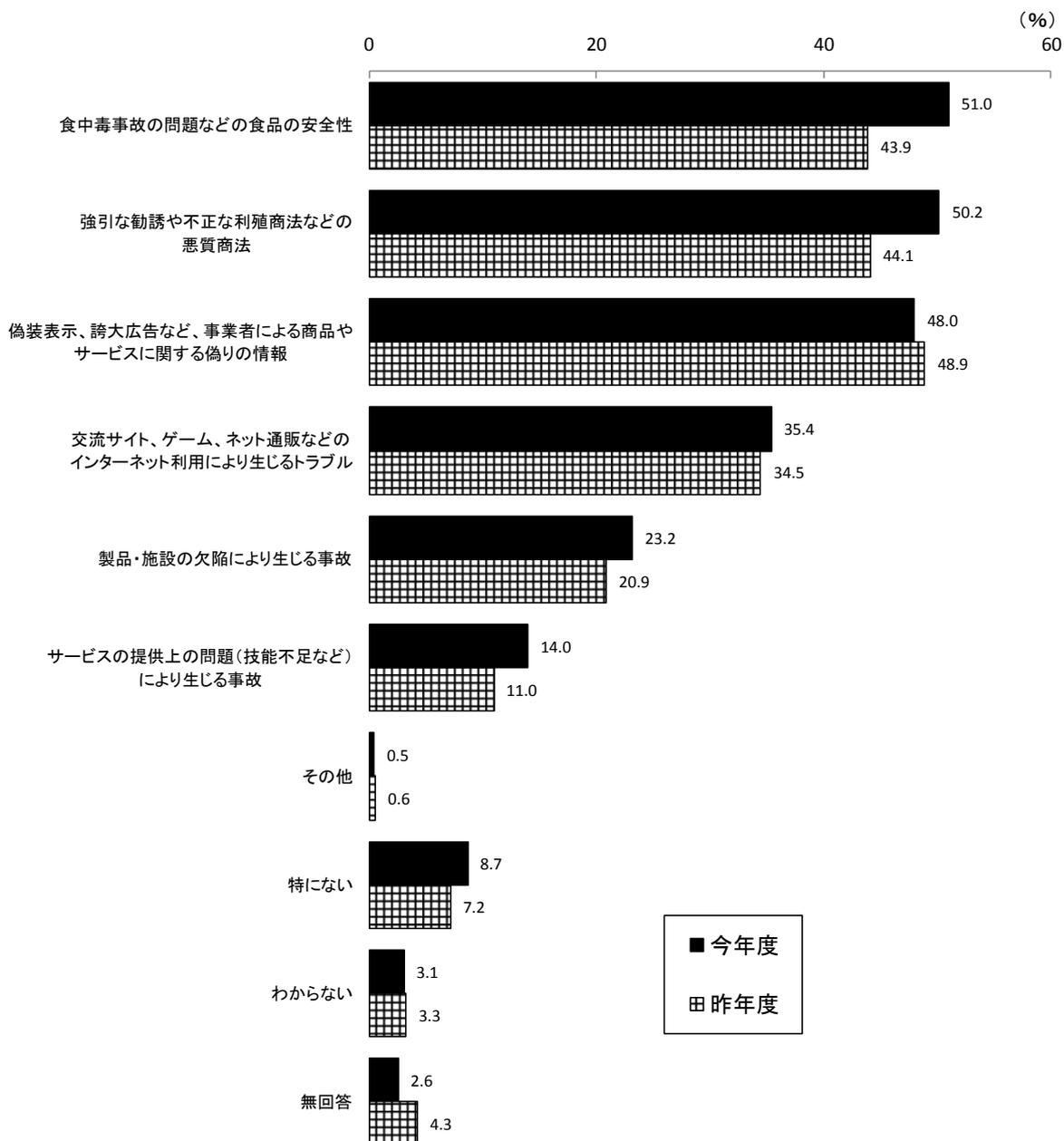
過去1年間に、防災活動に「参加していない」が71.9%と最も高い。参加した中では、「防災訓練（シェイクアウト訓練を含む）に参加した」が19.3%、「研修会・講演会等に参加した」が8.0%、その他が1.3%の順となっている。

※「シェイクアウト訓練」：合図に併せ、「DROP!(まず低く!)」、「COVER!(頭を守り!)」、「HOLD ON!(動かない)」の三つの行動をとる訓練

7. 消費生活に関することについて

7-1. 関心がある消費者問題

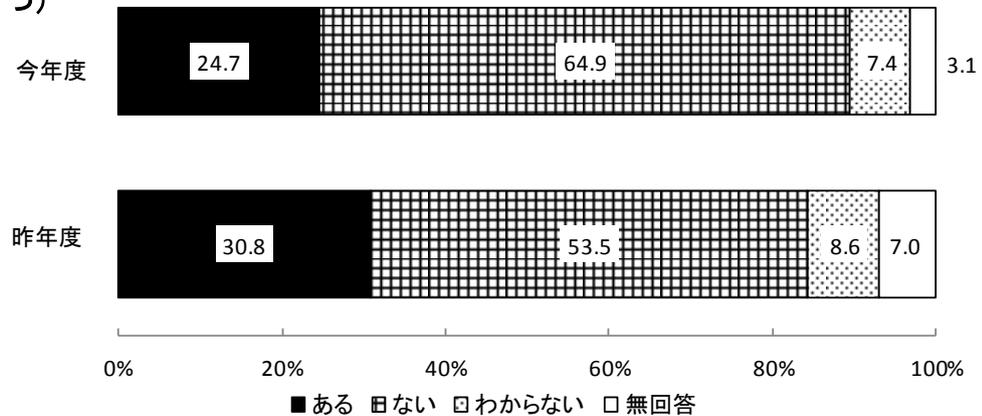
Q7-1 あなたは、どういった分野の消費者問題に対して関心がありますか。(〇はいくつでも)



関心がある消費者問題について、「食中毒事故の問題などの食品の安全性」が 51.0%と最も高く、次いで「強引な勧誘や不正な利殖商法などの悪質商法」が 50.2%、「偽装表示、誇大広告など、事業者による商品やサービスに関する偽りの情報」が 48.0%、「交流サイト、ゲーム、ネット通販などのインターネット利用により生じるトラブル」が 35.4%などの順となっている。昨年度と比較すると、「食中毒事故の問題などの食品の安全性」が 7.1 ポイント上昇している。

7-2. 宣伝だけでの商品利用・購入経験

Q 7-2 あなたは、店頭での広告やテレビでの宣伝、ホームページにおける表示など不特定多数に向けてなされる宣伝を見ただけで、商品・サービスの内容を確かめたり、相手方の事業者から直接説明を聞いたりすることなく、購入や利用をしたことはありますか。(○は1つ)

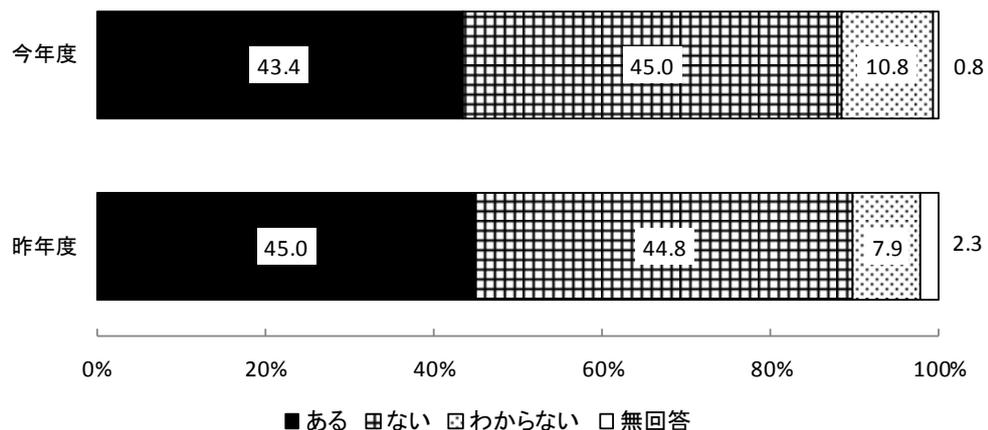


宣伝だけでの商品利用・購入経験について、「ある」は24.7%、「ない」は64.9%となっている。昨年度と比較すると、「ある」が6.1ポイント低下している。

7-3. 宣伝内容と商品・サービス内容の違い

【Q 7-2で「1. ある」と回答した方に】 (n=371)

Q 7-3 その場合に、宣伝の際の表示の内容と実際に買った商品・サービスの内容が異なっていたと思ったことはありますか。(○は1つ)

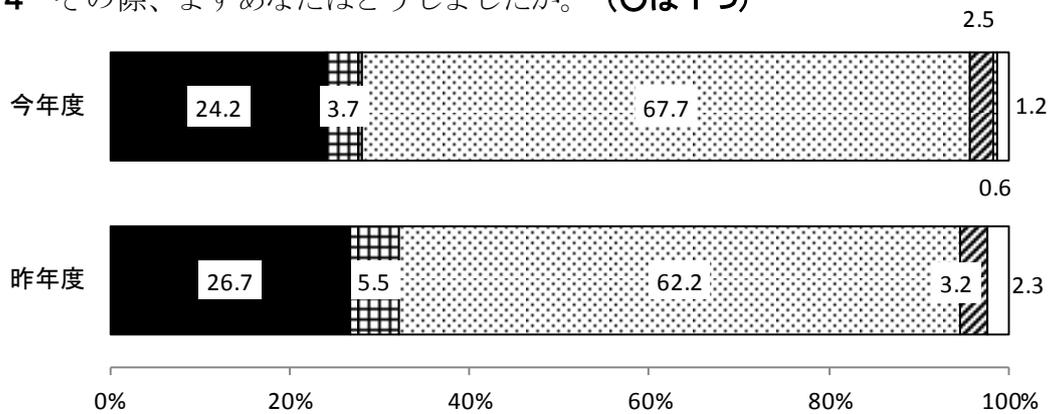


Q 7-2で宣伝だけでの商品利用・購入経験が「ある」と回答した人に、宣伝内容と商品・サービス内容の違いについて質問すると、「ある」が43.4%、「ない」が45.0%となっている。昨年度と比較すると、「ある」が1.6ポイント低下している。

7-4. 宣伝内容と商品・サービス内容が違った時にとった行動

【Q7-3で「1. ある」と回答した方に】 (n=161)

Q7-4 その際、まずあなたはどうしましたか。(〇は1つ)



■ 販売店やメーカーなどに苦情を申し出たり、返金や返品を求めたりした

田 消費生活センターなどの消費生活相談窓口、消費者団体、弁護士などに相談した

□ 何もしなかった

▣ その他

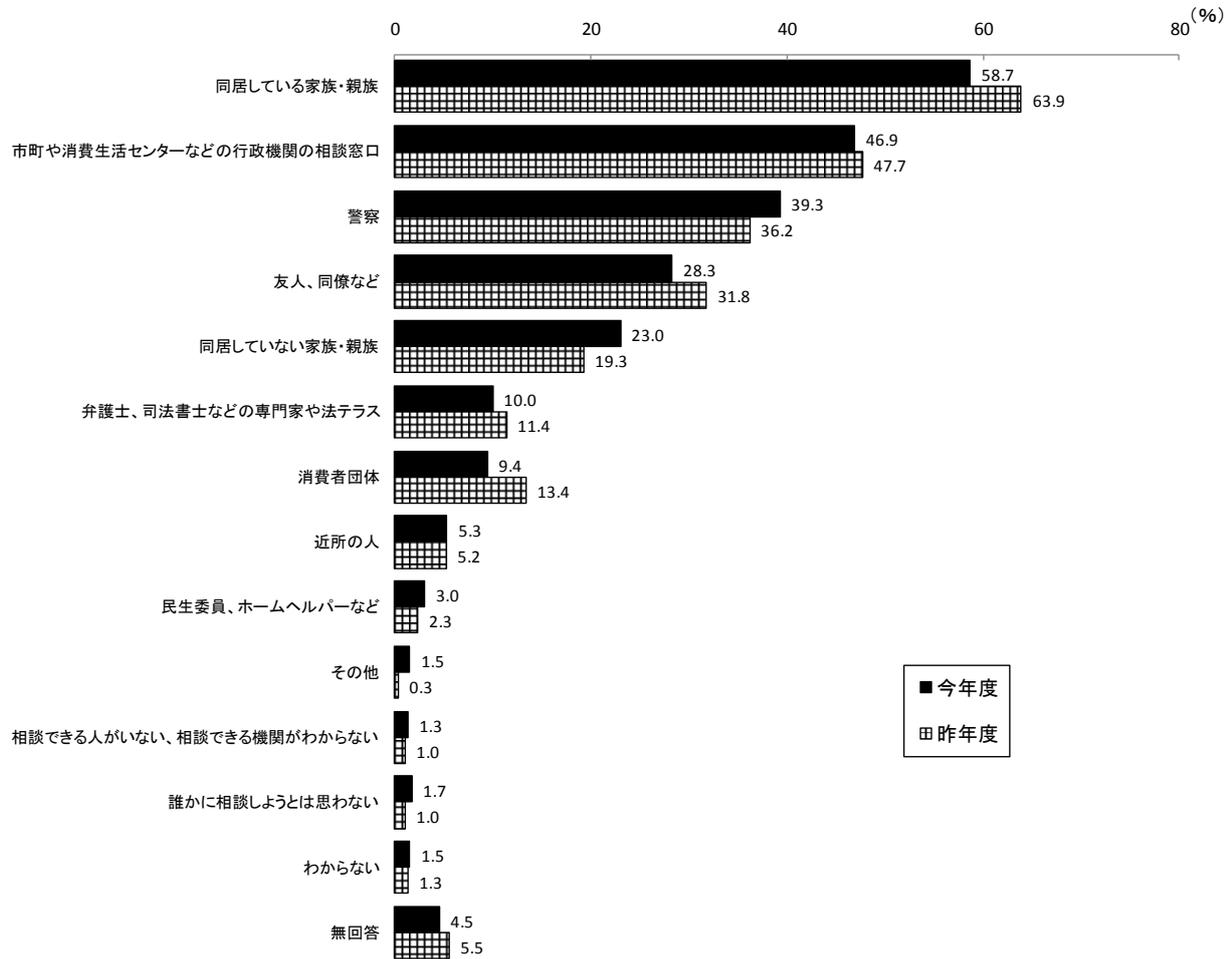
□ わからない

□ 無回答

宣伝内容と商品・サービス内容の違った時にとった行動について、「何もしなかった」は67.7%、「販売店やメーカーなどに苦情を申し出たり、返金や返品を求めたりした」は24.2%、「消費生活センターなどの消費生活相談窓口、消費者団体、弁護士などに相談した」は3.7%となっている。昨年度と比較すると、「何もしなかった」人が5.5ポイント上昇している。

7-5. 被害を受けた時の相談相手

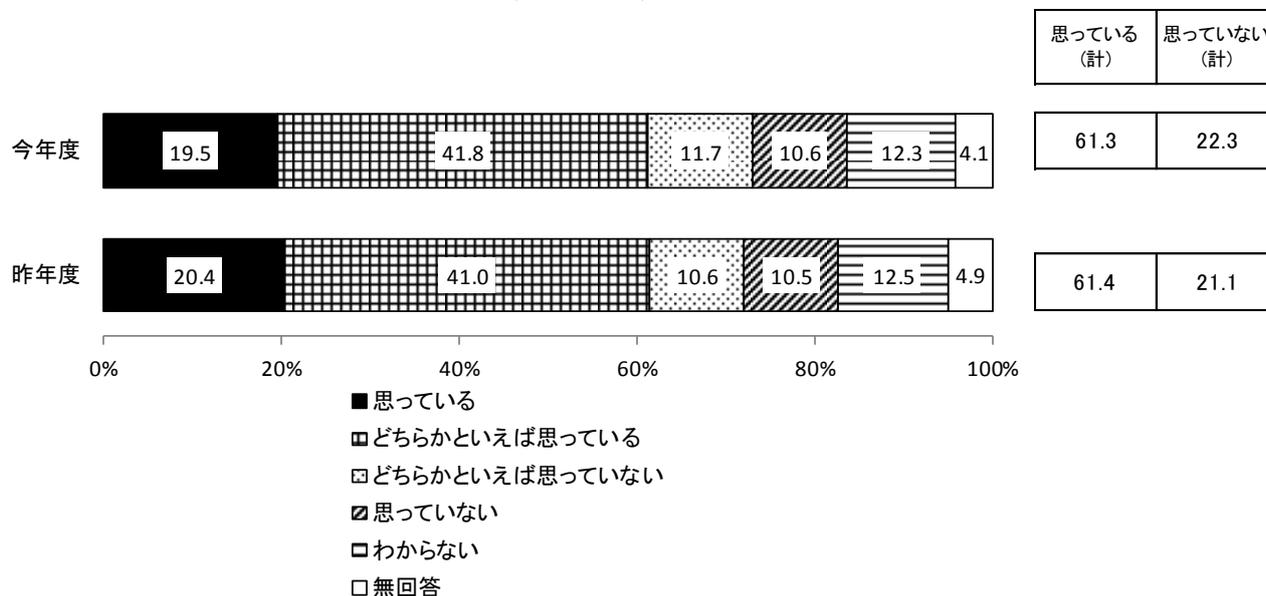
Q7-5 あなたは、強引な勧誘や詐欺的な勧誘を受けた場合や、そのような勧誘により契約を締結してしまった場合、誰に相談しようと思いますか。(〇はいくつでも)



被害を受けた時の相談相手について、「同居している家族・親族」が 58.7%と最も高く、次いで「市町や消費生活センターなどの行政機関の相談窓口」が 46.9%、「警察」が 39.3%、「友人、同僚など」が 28.3%などの順となっている。昨年度と比較すると、「同居している家族・親族」が 5.2 ポイント、「市町や消費生活センターなどの行政機関の相談窓口」が 0.8 ポイント低下し、「警察」が 3.1 ポイント、「同居していない家族・親族」が 3.7 ポイント上昇している。

7-6. 社会問題を意識しての商品サービス選択

Q7-6 あなたは、日頃、環境、食品ロス削減、地産・地消、被災地の復興、開発途上国の労働者の生活改善など、社会的課題につながることを意識して、商品・サービスを選択しようと思っていますか。(〇は1つ)

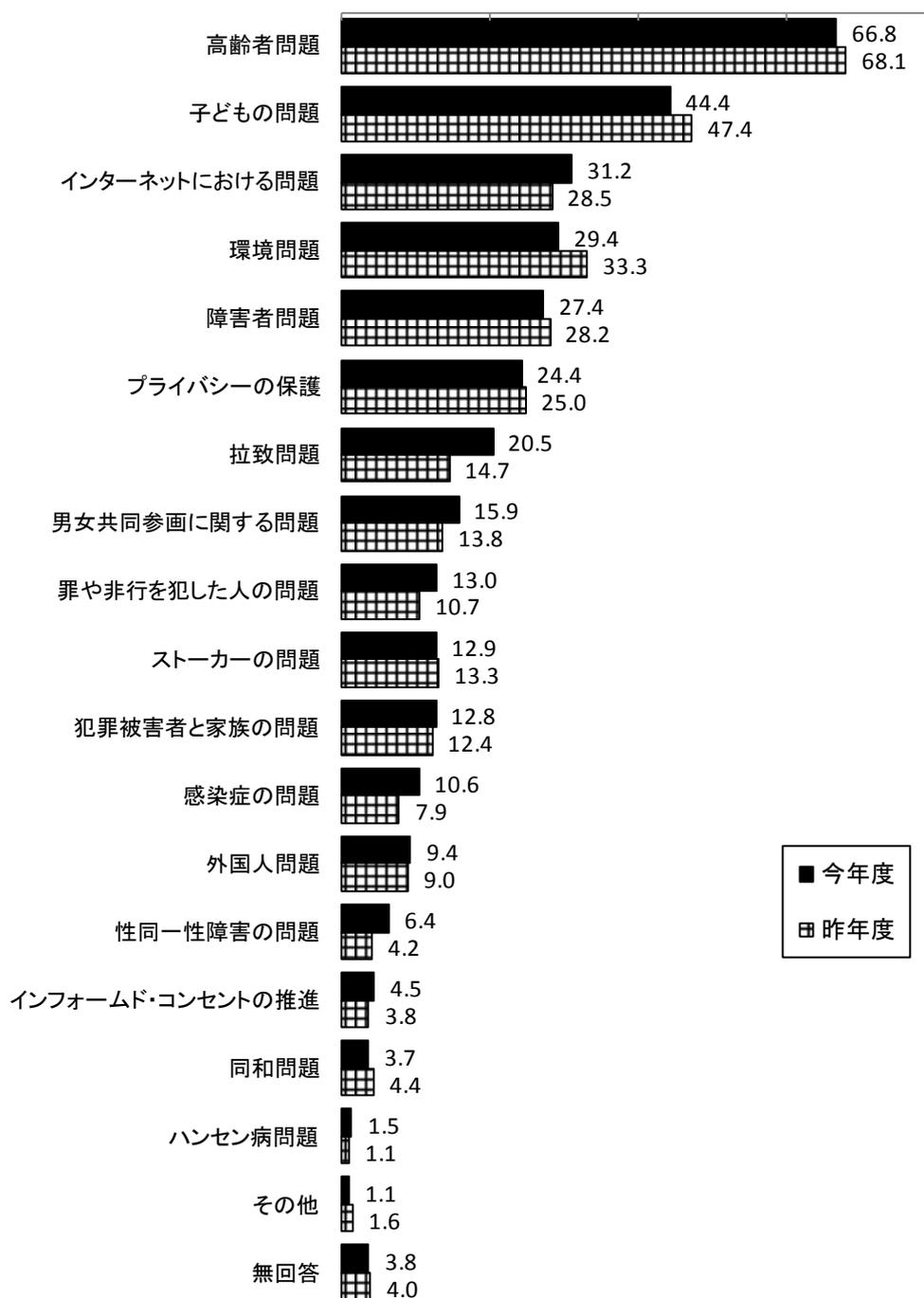


社会問題を意識しての商品サービス選択について、「思っている」と「どちらかといえば思っている」を合わせた『思っている (計)』は61.3%、「どちらかといえば思っていない」と「思っていない」を合わせた『思っていない (計)』は22.3%であり、社会問題を意識した上で商品サービス選択をしている人の割合が高い。しかし、昨年度と比較すると、『思っている (計)』が0.1ポイント低下、『思っていない (計)』が1.2ポイント上昇している。

8. 関心がある人権問題について

8-1. 関心がある人権問題

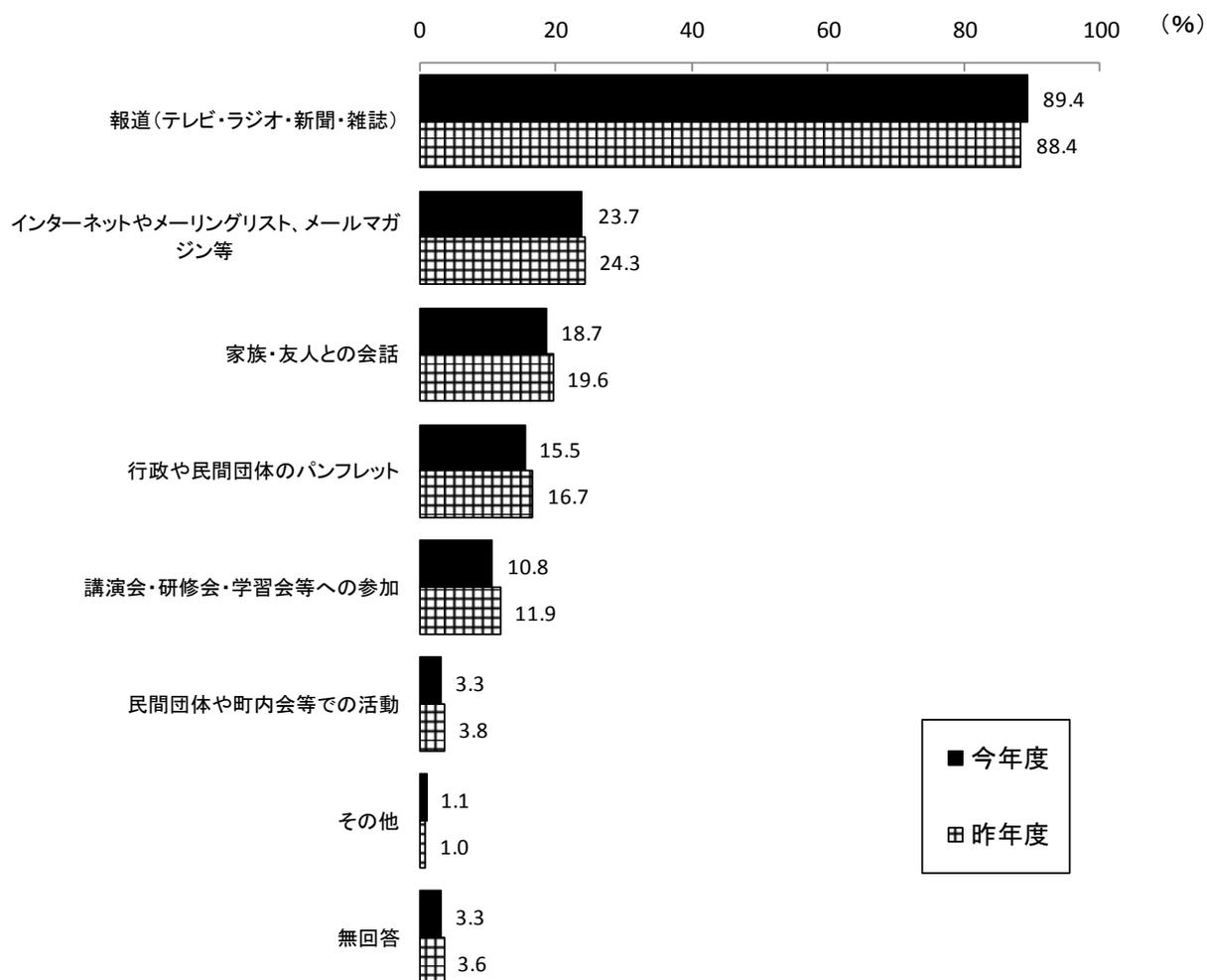
Q 8-1 あなたは、現在どのような人権問題に関心をお持ちですか。（〇はいくつでも）



関心がある人権問題について、「高齢者問題」が66.8%と最も高く、次いで「子どもの問題」が44.4%、「インターネットにおける問題」が31.2%、「環境問題」が29.4%、「障害者問題」が27.4%などの順となっている。昨年度と比較すると、「拉致問題」が、5.8ポイント上昇している。

8-2. 人権問題に関する知識や情報の入手媒体

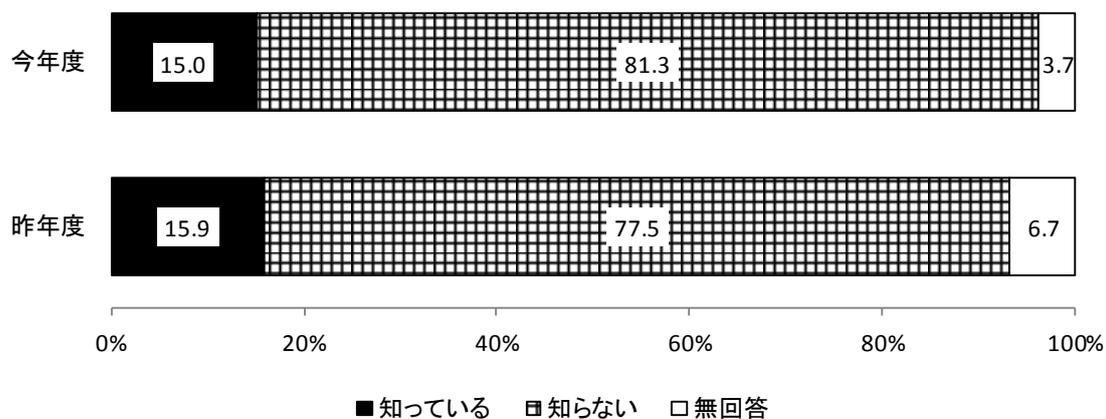
Q 8-2 あなたは、人権問題に関する知識や情報を何から得ていますか。(〇はいくつでも)



人権問題に関する知識や情報の入手媒体について、「報道(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌)」が89.4%と最も高く、次いで「インターネットやメールマガジン等」が23.7%、「家族・友人との会話」が18.7%などの順となっている。昨年度と比較すると、ポイントが上昇している媒体は、「報道(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌)」のみである。

8-3. 「山口県人権推進指針」の認知状況

Q8-3 山口県では、「山口県人権推進指針」を策定し、人権に関する諸施策を総合的に推進しています。あなたは、この「山口県人権推進指針」をご存じですか。(〇は1つ)

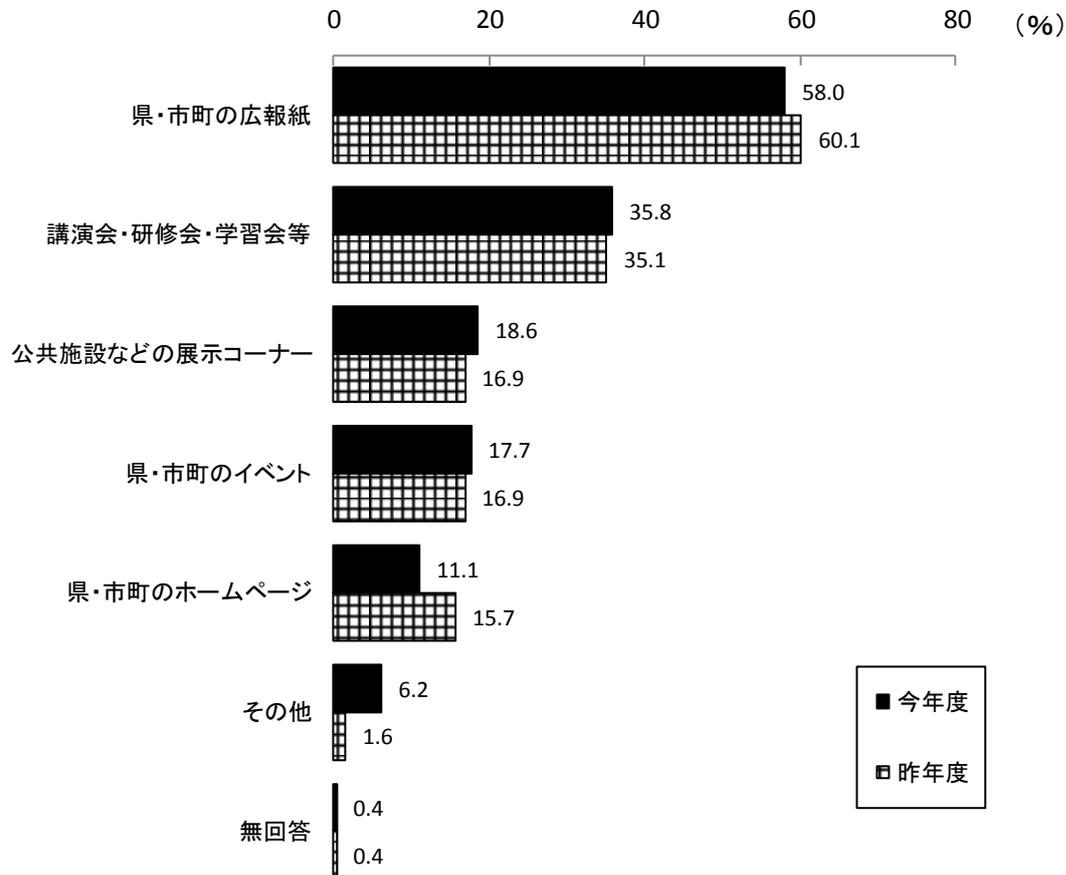


「山口県人権推進指針」の認知状況について、「知っている」が15.0%、「知らない」が81.3%となっている。昨年度と比較すると、「知っている」が0.9ポイント低下し、「知らない」が3.8ポイント上昇している。

8-4. 「山口県人権推進指針」の認知媒体

【Q8-3で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=226)

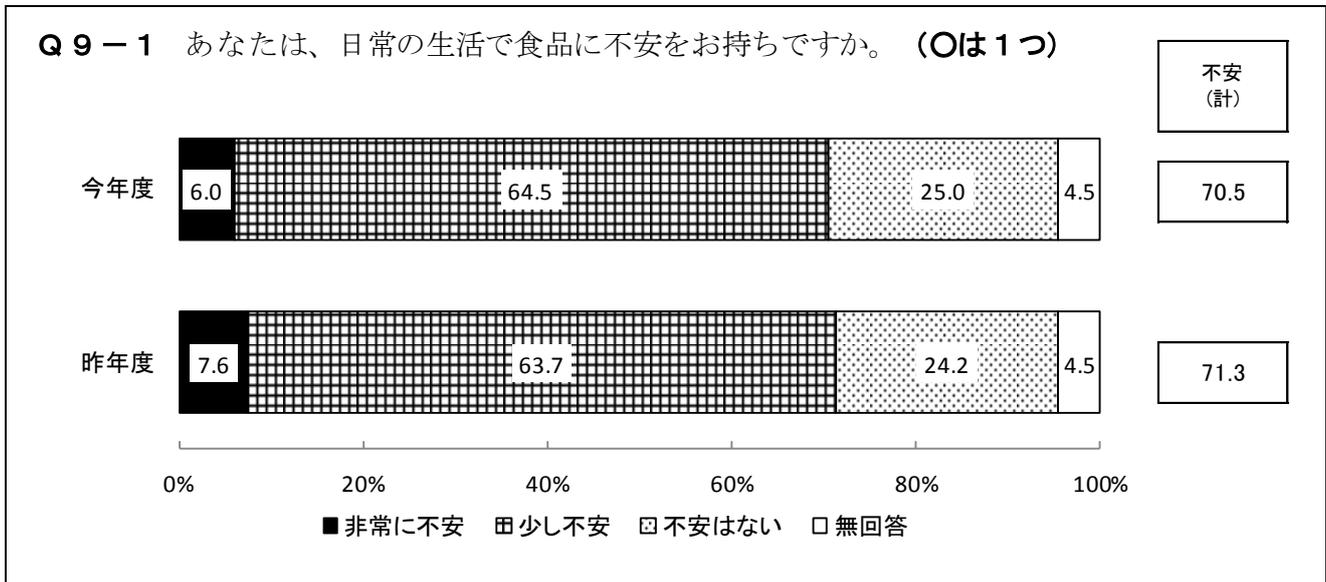
Q8-4 それは、何を通じてお知りになりましたか。(〇はいくつでも)



「山口県人権推進指針」を何を通じて知ったかについて、「県・市町の広報紙」が58.0%と最も高く、次いで「講演会・研修会・学習会等」が35.8%、「公共施設などの展示コーナー」が18.6%、「県・市町のイベント」が17.7%などの順となっている。昨年度と比較すると、「県・市町のホームページ」が4.6ポイント低下している。

9. 食の安心・安全について

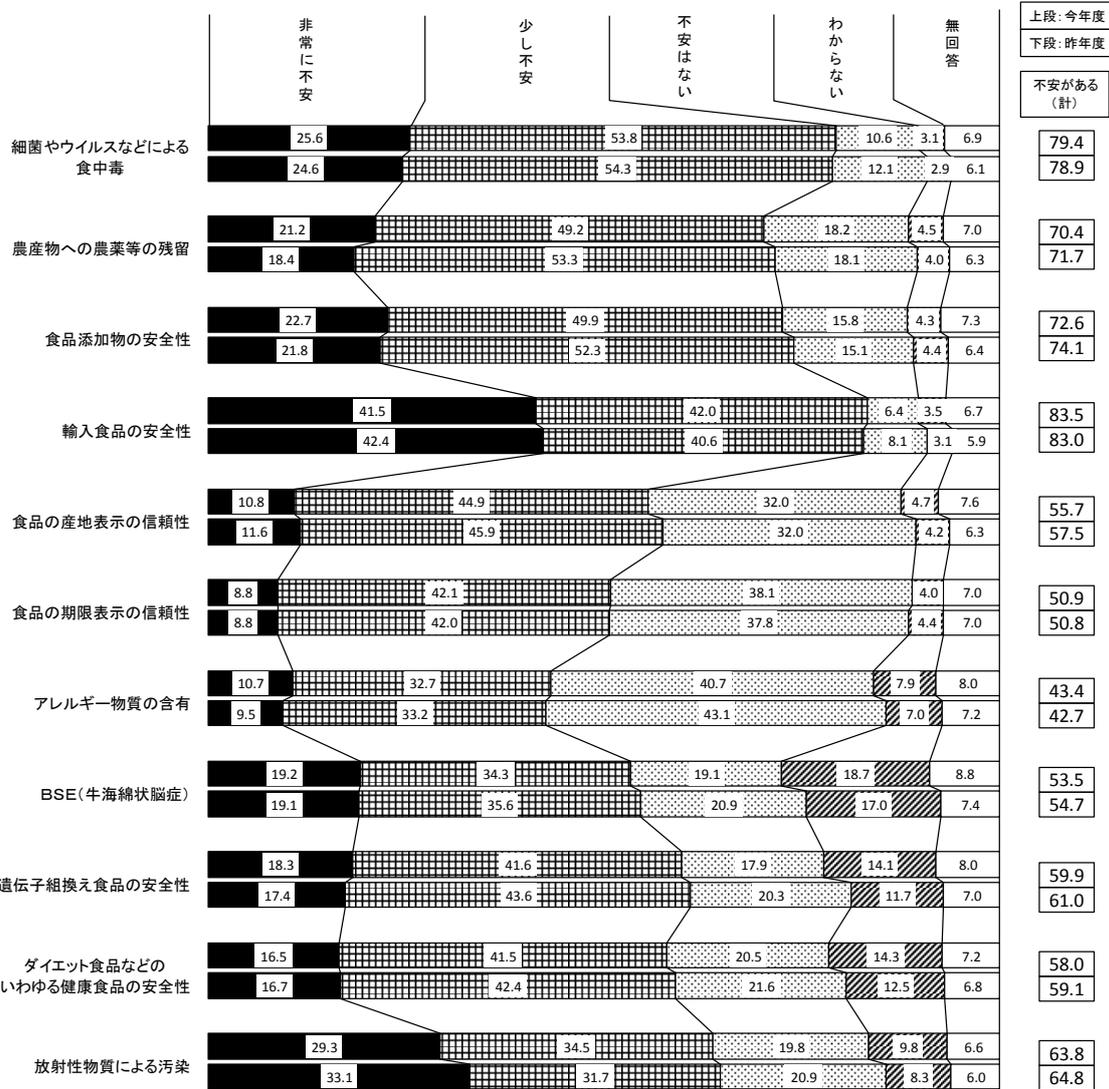
9-1. 食品に対する不安



食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は70.5%と7割を超えている。昨年度と比較すると、『不安(計)』は0.8ポイント低下している。

9-2. 食品に対する不安の要因

Q 9-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。
 いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

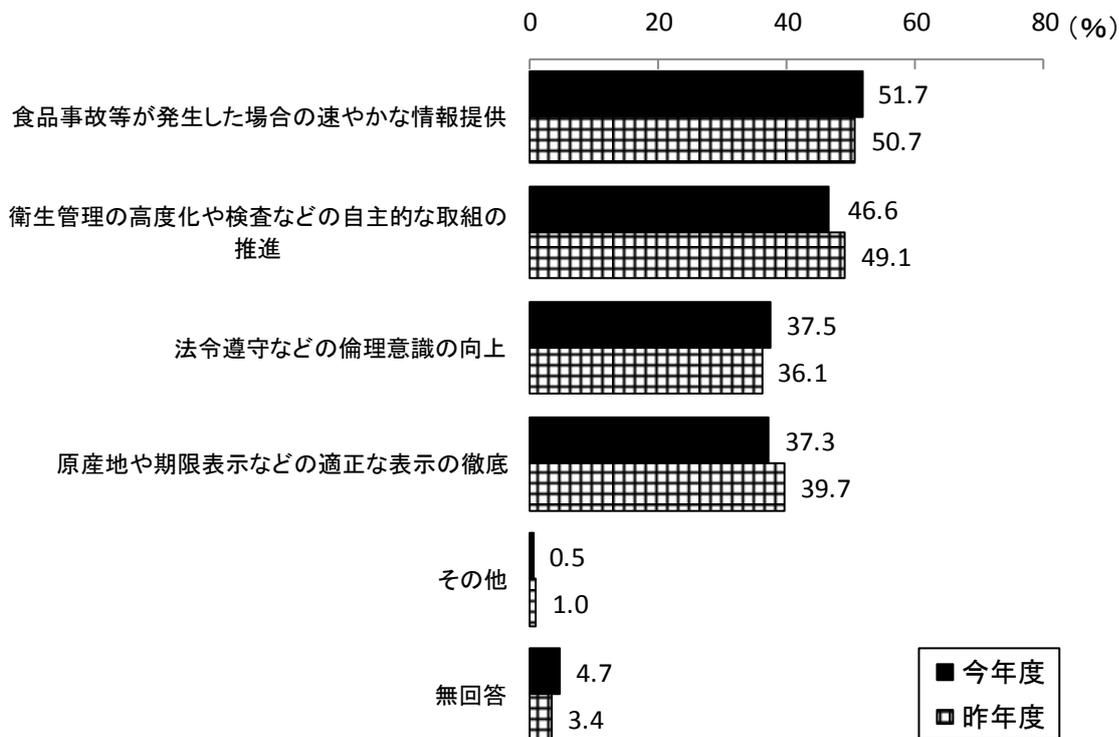


食品に対する不安の要因について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は、「輸入食品の安全性」で83.5%と最も高くなっている。昨年度と比較すると、「食品の産地表示の信頼性」は1.8ポイント、「食品添加物の安全性」は1.5ポイント『不安(計)』が低下している。

9-3. 安全で安心な食生活を送るために必要な取組

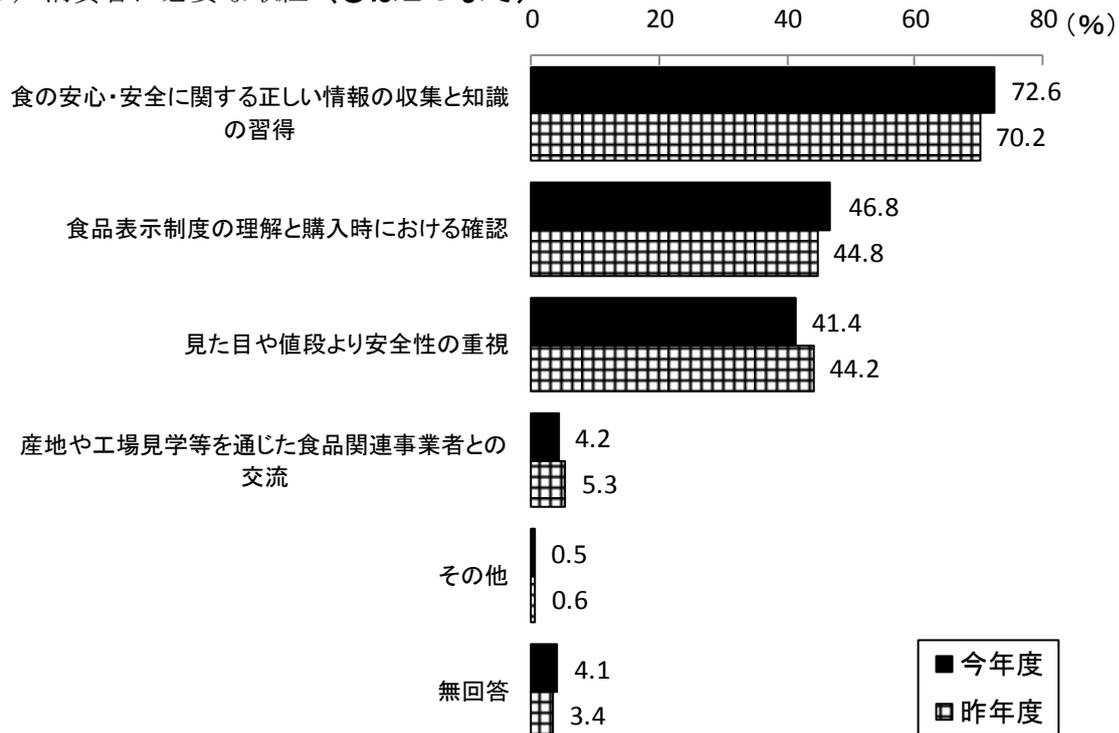
Q9-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」、「消費者」、「県」は、それぞれどのような取組が必要だと思いますか。

(1) 食品関連事業者に望む取組 (〇は2つまで)



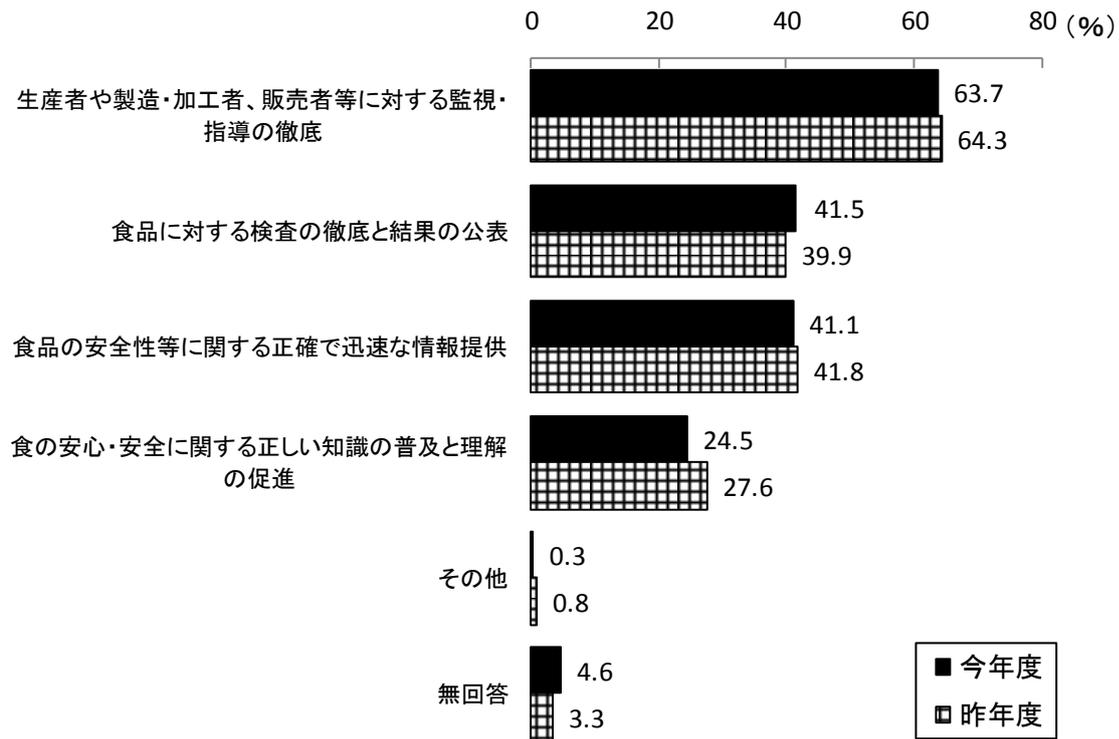
安全で安心な食生活を送るために「食品関連事業者」に望む取組について、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が51.7%と最も高く、次いで「衛生管理の高度化や検査などの自主的な取組の推進」が46.6%、「法令遵守などの倫理意識の向上」が37.5%、「原産地や期限表示などの適正な表示の徹底」が37.3%の順となっている。昨年度と比較すると、「法令遵守などの倫理意識の向上」が1.4ポイント上昇し、「衛生管理の高度化や検査などの自主的な取組の推進」が2.5ポイント低下している。

(2) 消費者に必要な取組 (〇は2つまで)



安全で安心な食生活を送るために「消費者」に必要な取組について、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が72.6%と最も高く、次いで「食品表示制度の理解と購入時における確認」が46.8%、「見た目や値段より安全性の重視」が41.4%、「産地や工場見学等を通じた食品関連事業者との交流」が4.2%の順となっている。昨年度と比較すると、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が2.4ポイント上昇している。

(3) 県に望む取組 (〇は2つまで)

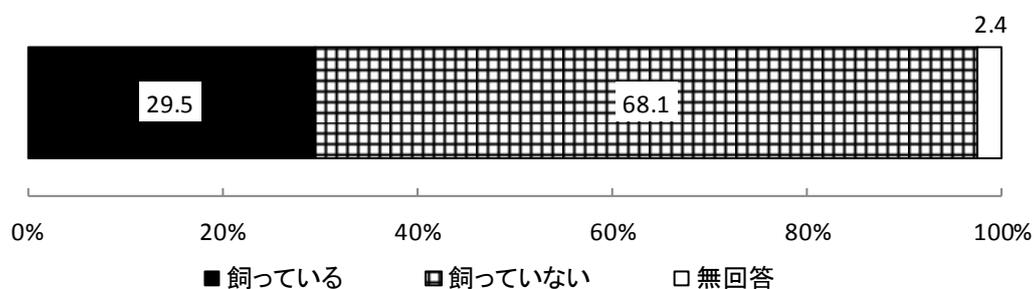


安全で安心な食生活を送るために「県」に望む取組について、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が 63.7%と最も高く、次いで「食品に対する検査の徹底と結果の公表」が 41.5%、「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が 41.1%、「食の安心・安全に関する正しい知識の普及と理解の促進」が 24.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「食品に対する検査の徹底と結果の公表」が 1.6 ポイント上昇している。

10. 動物の愛護管理について

10-1. ペット動物の飼育状況

Q10-1 あなたやあなたの家族はペット動物を飼っていますか。(〇は1つ)

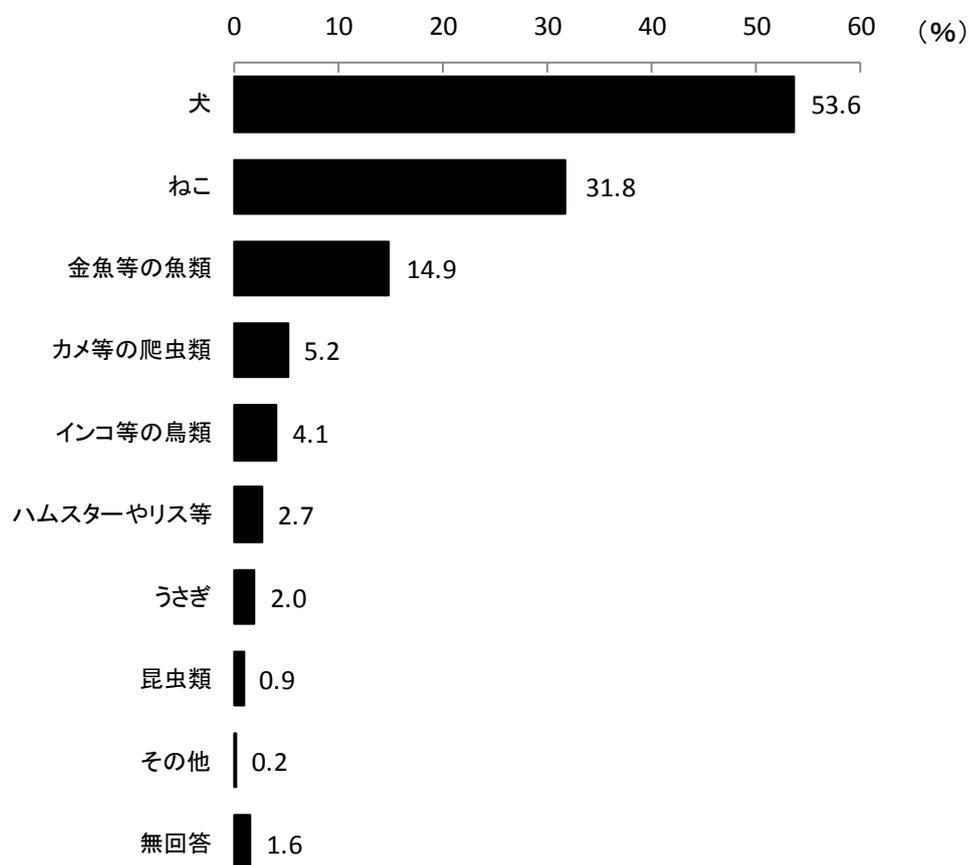


ペット動物の飼育状況については、「飼っている」が29.5%、「飼っていない」が68.1%となっている。

10-2. 飼育している動物

【Q10-1で「1. 飼っている」と回答した方に】 (n=444)

Q10-2 飼育している動物を次の中から選んで下さい (〇はいくつでも)

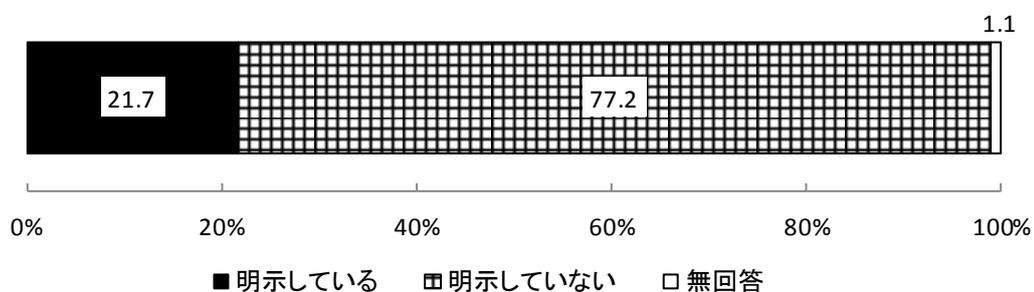


ペット動物を飼っている人が飼育している動物の種類は、「犬」が53.6%と最も高く、次いで「ねこ」が31.8%、「金魚等の魚類」が14.9%、「カメ等の爬虫類」が5.2%、「インコ等の鳥類」が4.1%、「ハムスターやリス等」が2.7%などの順となっている。

10-3. 飼主の氏名や住所など明示の有無

【Q10-2で「1. 犬」又は「2. ねこ」を飼っていると回答した方に】(n=355)

Q10-3 飼育している犬やねこに、名札（迷子札）やマイクロチップ等を装着し、飼主の氏名や住所などが分かるように明示していますか。（○は1つ）

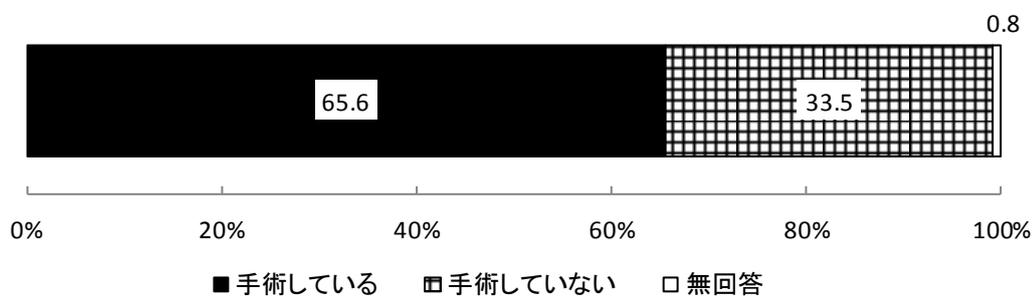


飼育している犬やねこへの、飼主の氏名や住所などの明示は、「明示している」が 21.7%、「明示していない」が 77.2%となっている。

10-4. 去勢又は不妊の手術の有無

【Q10-2で「1. 犬」又は「2. ねこ」を飼っていると回答した方に】(n=355)

Q10-4 飼育している犬やねこは、去勢又は不妊の手術を行っていますか。(○は1つ)

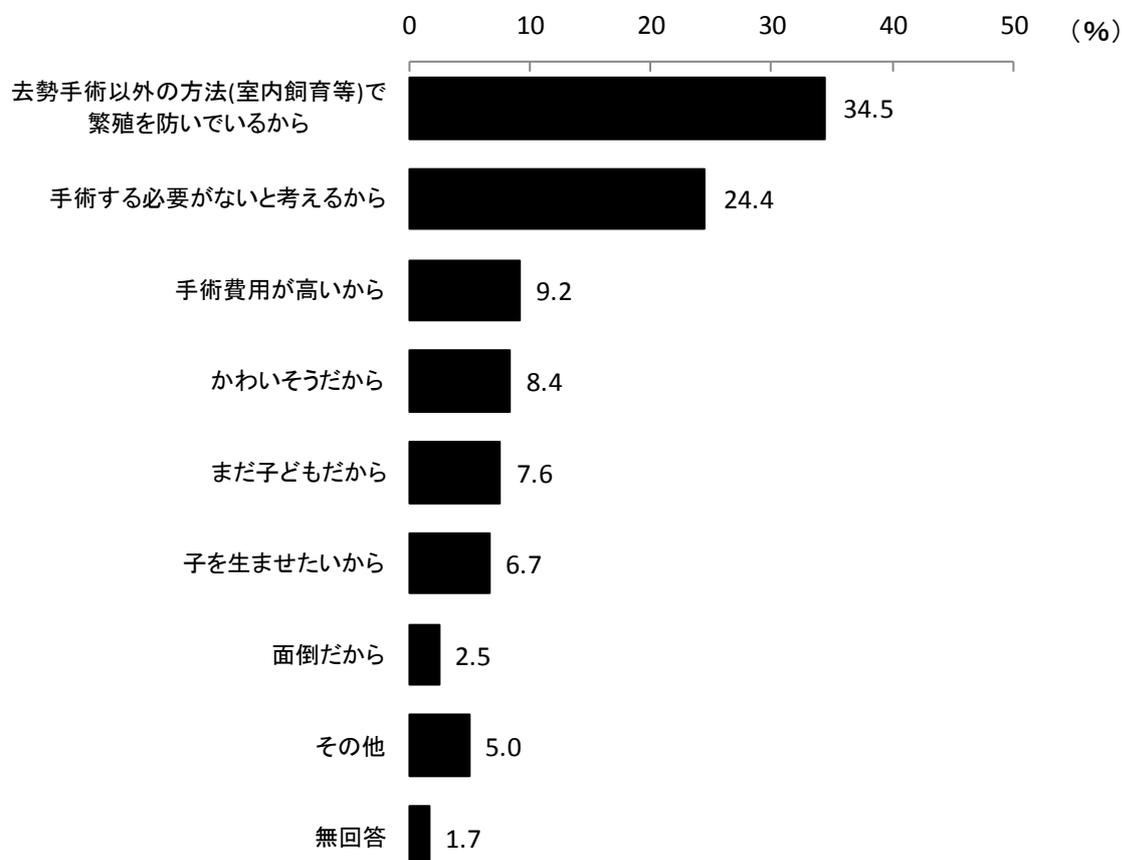


飼育している犬やねこに、去勢又は不妊の手術を行っているかについて、「手術している」が 65.6%、「手術していない」が 33.5%となっている。

10-5. 去勢又は不妊の手術を行わない理由

【Q10-4で「2. 手術していない」と回答した方に】 (n=119)

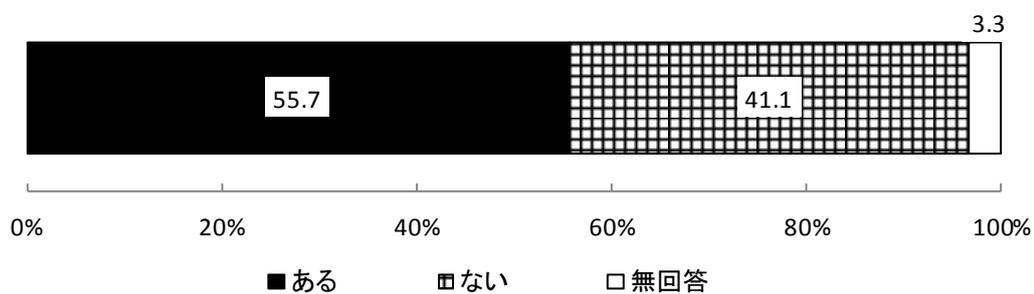
Q10-5 去勢又は不妊の手術を行わない理由は何ですか。(〇は1つ)



去勢又は不妊の手術を行わない理由について、「去勢手術以外の方法(室内飼育等)で繁殖を防いでいるから」が34.5%と最も高く、次いで「手術する必要がないと考えるから」が24.4%、「手術費用が高いから」が9.2%、「かわいそうだから」が8.4%などの順となっている。

10-6. 他人のペットの飼育に迷惑を感じたことの有無

Q10-6 あなたは、他人がペット動物を飼っていることによって、迷惑を感じたことがありますか。(〇は1つ)

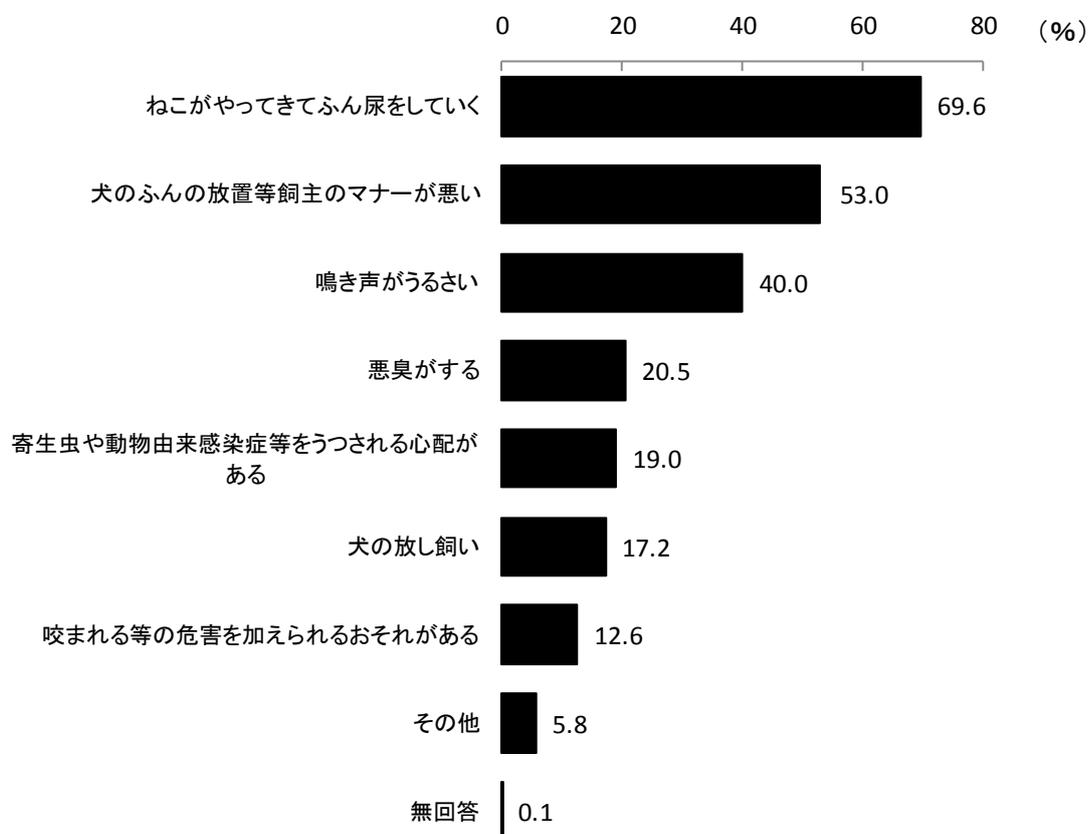


他人のペット動物の飼育について、迷惑を感じたことが「ある」が 55.7%、「ない」が 41.1%となっている。

10-7. 他人のペットの飼育に感じた迷惑

【Q10-6で「1. ある」と回答した方に】 (n=838)

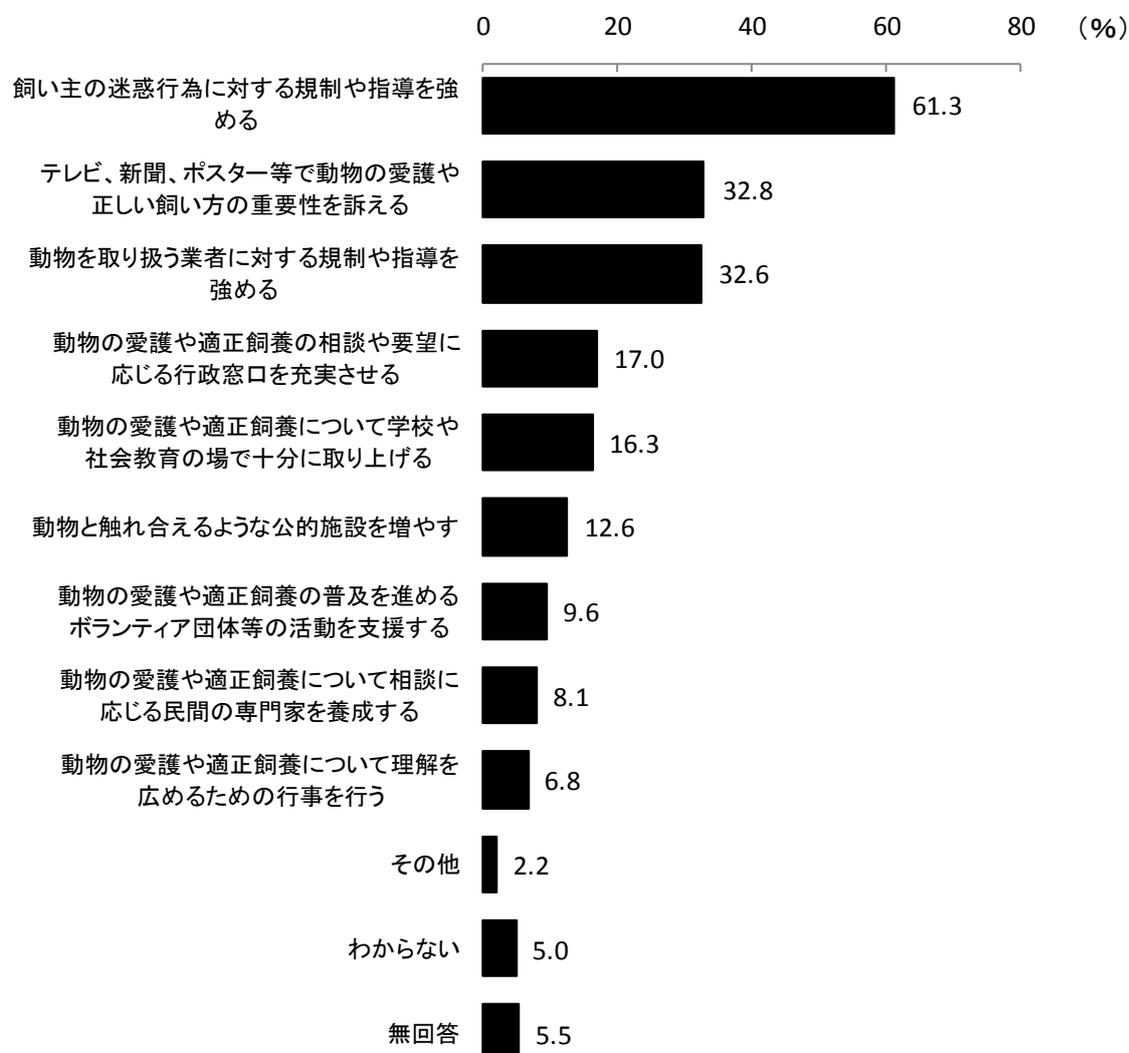
Q10-7 どのようなことに迷惑を感じましたか。(〇はいくつでも)



迷惑を感じたことは、「ねこがやってきてふん尿をしていく」が 69.6%と最も高く、次いで「犬のふんの放置等飼主のマナーが悪い」が 53.0%、「鳴き声がうるさい」が 40.0%、「悪臭がする」が 20.5%などの順となっている。

10-8. 動物の愛護や適正な飼育の推進のために、行政が取り組むべきこと

Q10-8 あなたは、動物の愛護や適正な飼育の推進のために、行政が取り組むべきことは何だと思いますか。(〇は3つまで)



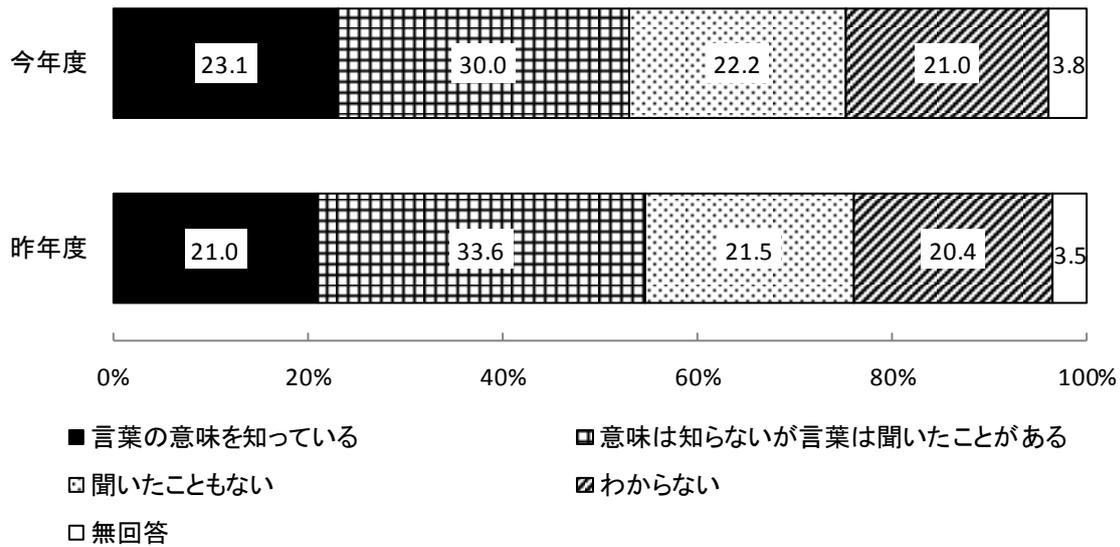
動物の愛護や適正な飼育の推進のために、行政が取り組むべきことは、「飼い主の迷惑行為に対する規制や指導を強める」が61.3%と最も高く、次いで「テレビ、新聞、ポスター等で動物の愛護や正しい飼い方の重要性を訴える」が32.8%、「動物を取り扱う業者に対する規制や指導を強める」が32.6%などの順となっている。

1 1. 生物多様性について

「生物多様性」とは、様々な生き物がいたり、山・川・海など生き物が暮らせる豊かな自然があることです。この生物多様性は、私たちの豊かな暮らしに欠かせない多くの自然の恵みをもたらしてくれます。

1 1 - 1. 「生物多様性」の認知状況

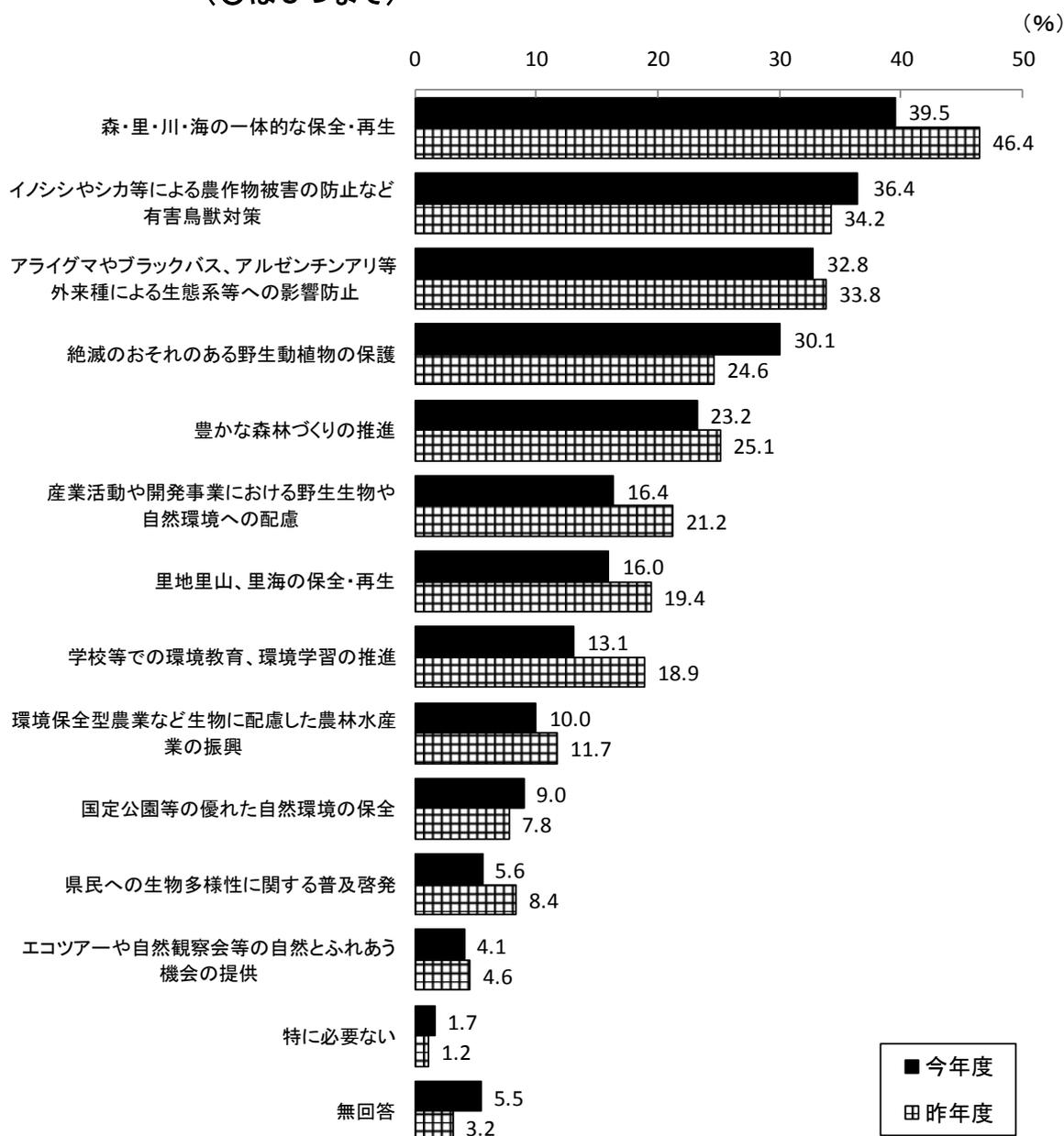
Q 1 1 - 1 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。(〇は1つ)



「生物多様性」の認知状況について、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が 30.0%と最も高く、次いで「言葉の意味を知っている」が 23.1%、「聞いたこともない」が 22.2%、「わからない」が 21.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「言葉の意味を知っている」が 2.1 ポイント上昇している。

11-2. 生物多様性を守るために必要な取組

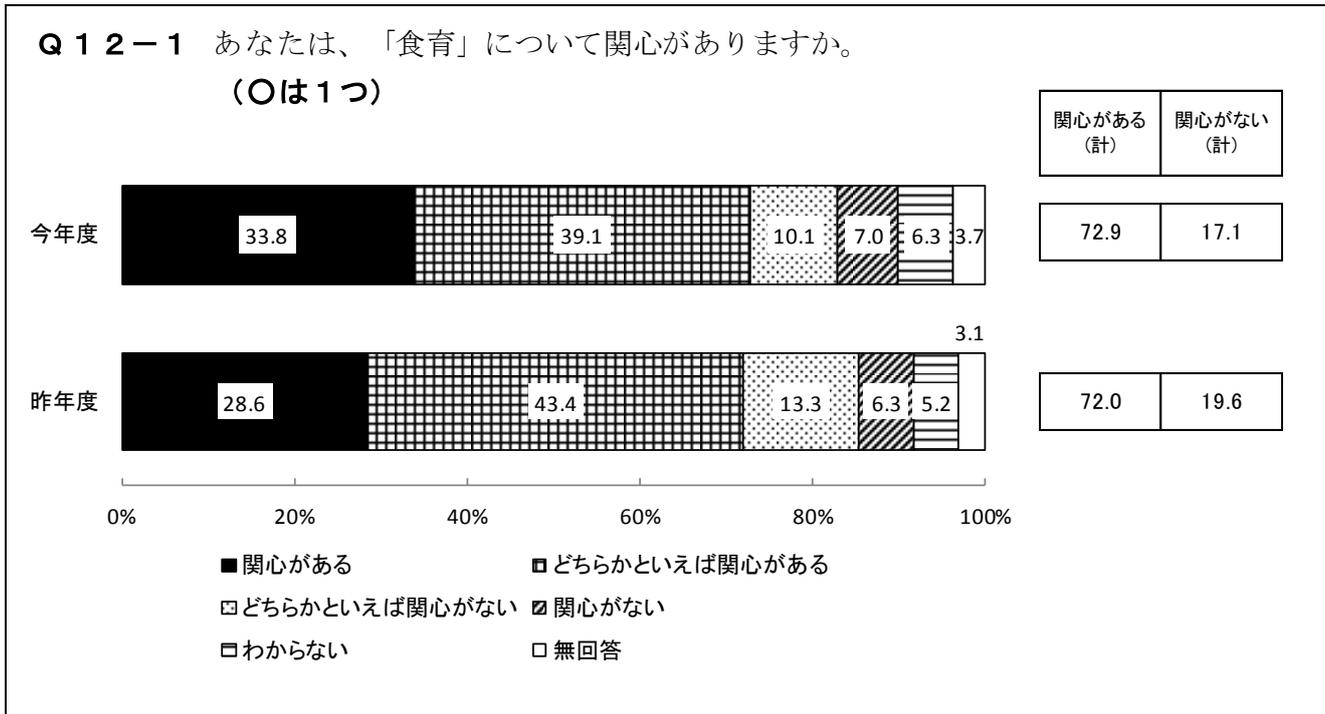
Q 11-2 生物多様性を守っていくために、どのような取組が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)



生物多様性を守るための必要な取組について、「森・里・川・海の一体的な保全・再生」が 39.5%と最も高く、次いで「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」が 36.4%、「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」が 32.8%、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が 30.1%、「豊かな森林づくりの推進」が 23.2%などの順となっている。昨年度と比較すると、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」は 5.5 ポイント上昇している。

12. 食育について

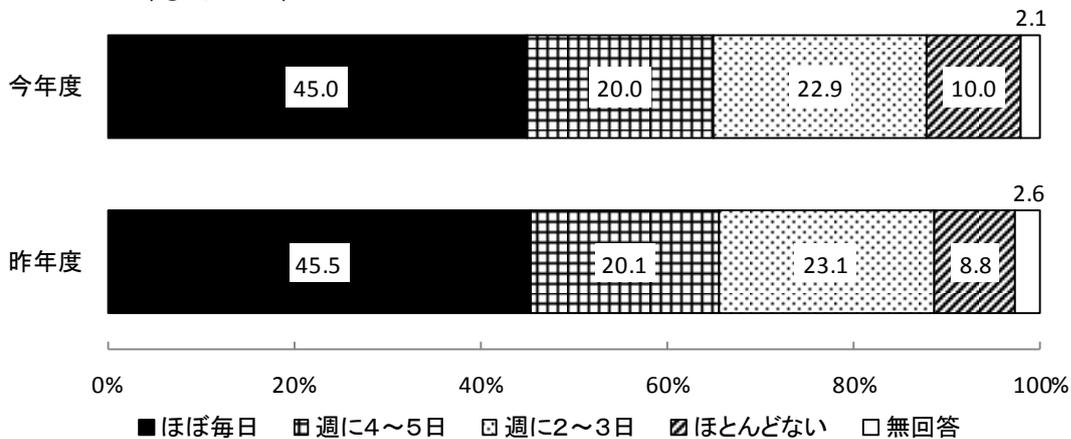
12-1. 「食育」に対する関心度



食育に対する関心度について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が72.9%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が17.1%となっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は0.9ポイント上昇、『関心がない(計)』は2.5ポイント低下している。

12-2. 主食・主菜・副菜を揃えて食べる頻度

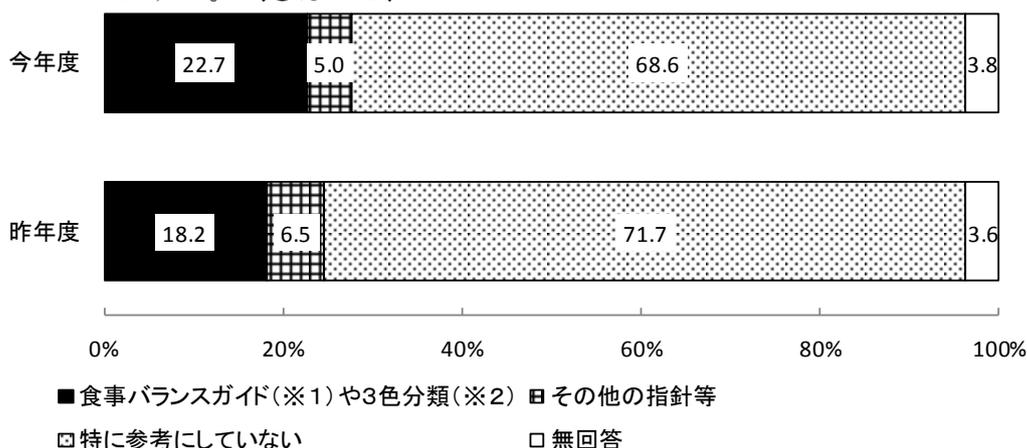
Q12-2 主食（ごはん、パン、麺など）・主菜（肉、魚、卵、大豆製品などを使ったメインの料理）、副菜（野菜、きのこ、いも、海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を3つ揃えて食べるのが1日2回以上あるのは、週に何日ありますか。
（○は1つ）



主食・主菜・副菜を揃えて食べる頻度について、「ほぼ毎日」が45.0%と最も高く、次いで「週に2~3日」が22.9%、「週に4日~5日」が20.0%、「ほとんどない」が10.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「ほとんどない」が1.2ポイント上昇している。

12-3. 日頃参考にしている指針等

Q12-3 あなたは、日頃の健全な食生活を実践するため、どのような指針等を参考にしていますか。（○は1つ）

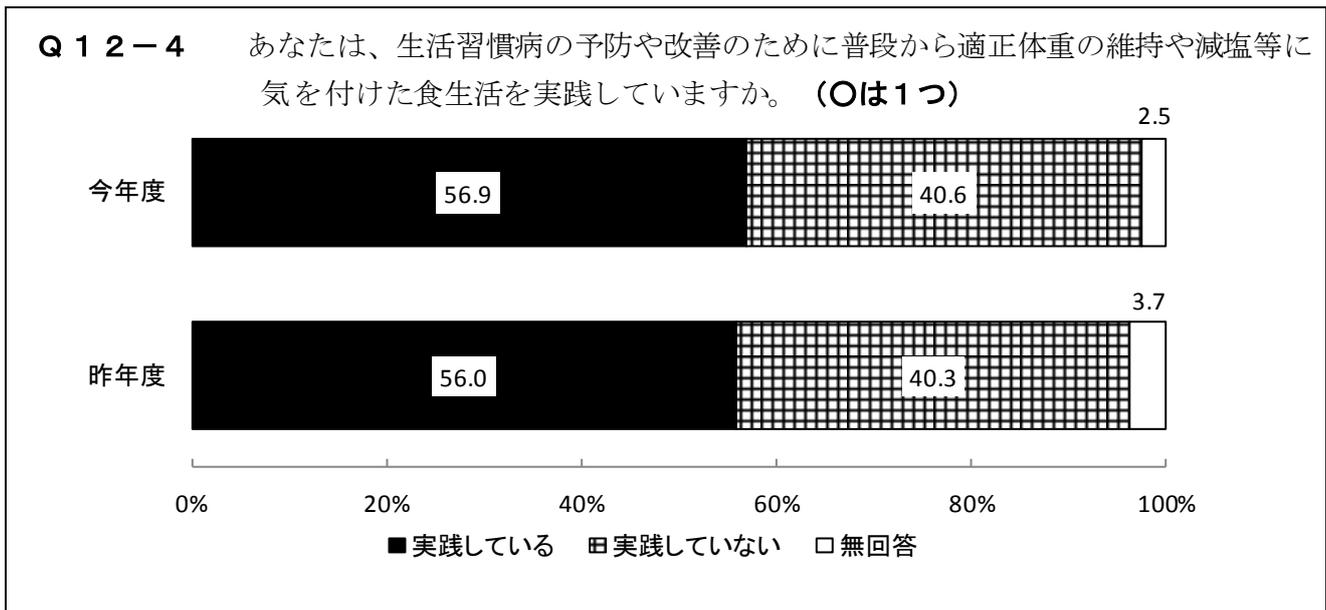


※1 「食事バランスガイド」：「何を」「どれだけ」食べたらよいかをわかりやすくコマで示したもの

※2 「3色分類」：食品の体内での主な働きを3つに分けて、主な食品を分類したもの

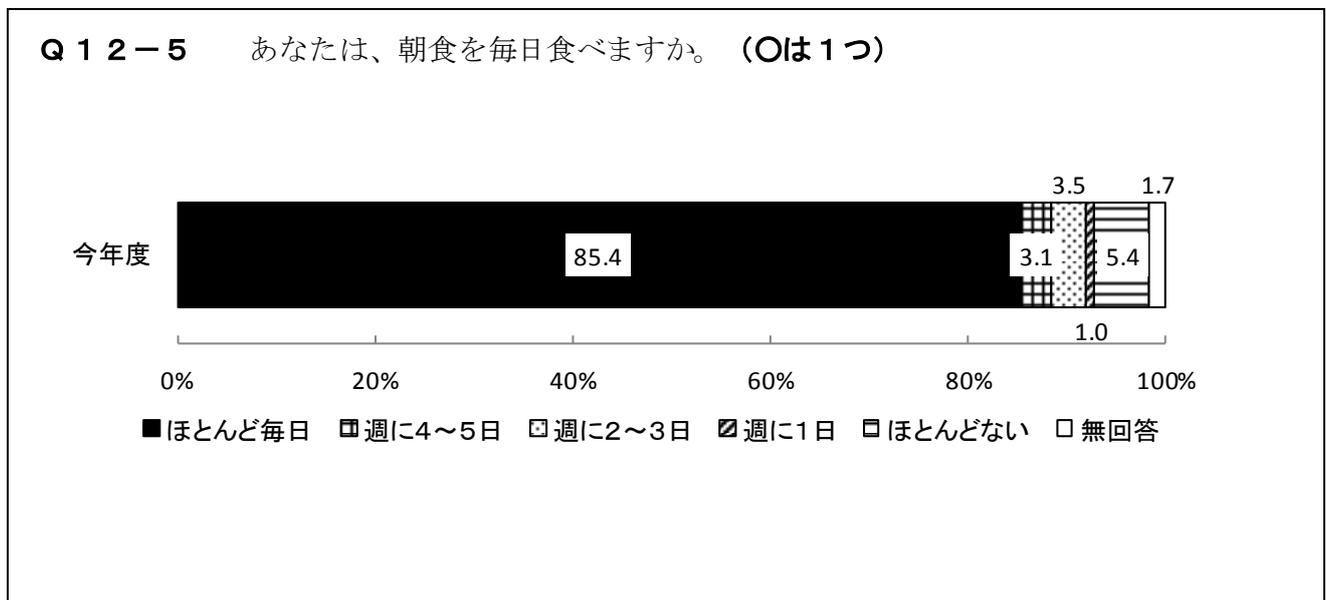
日頃参考にしている指針等について、「特に参考にしていない」が68.6%と最も高く、次いで「食事バランスガイドや3色分類」が22.7%、「その他の指針等」が5.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「食事バランスガイドや3色分類」を参考にしている人が4.5ポイント上昇している。

12-4. 生活習慣病の予防や改善のための食生活等の実践状況



生活習慣病の予防や改善のための食生活等の実践状況について、「実践している」が56.9%、「実践していない」が40.6%となっている。昨年度と引き続き、過半数の人が「実践している」と答えている。

12-5. 朝食をとる頻度

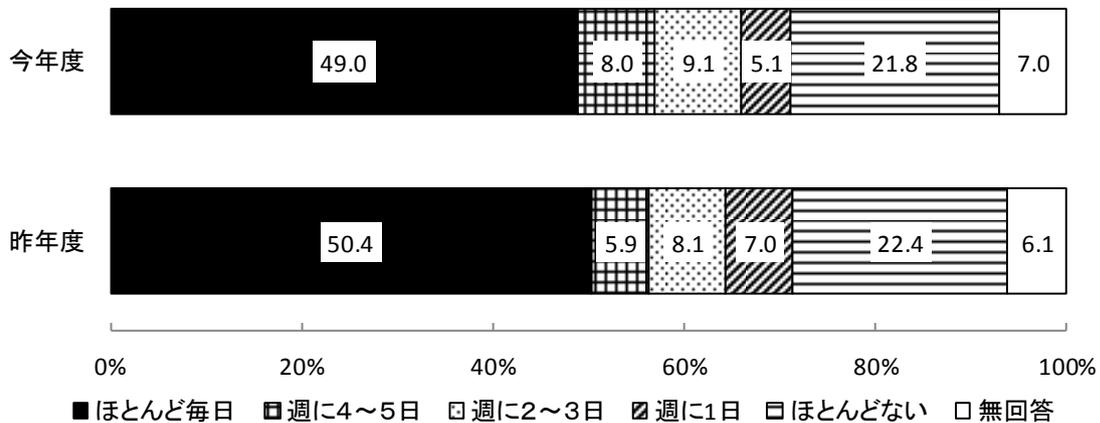


朝食をとる頻度について、「ほとんど毎日」は85.4%と大半を占めている。「ほとんどない」は5.4%となった。

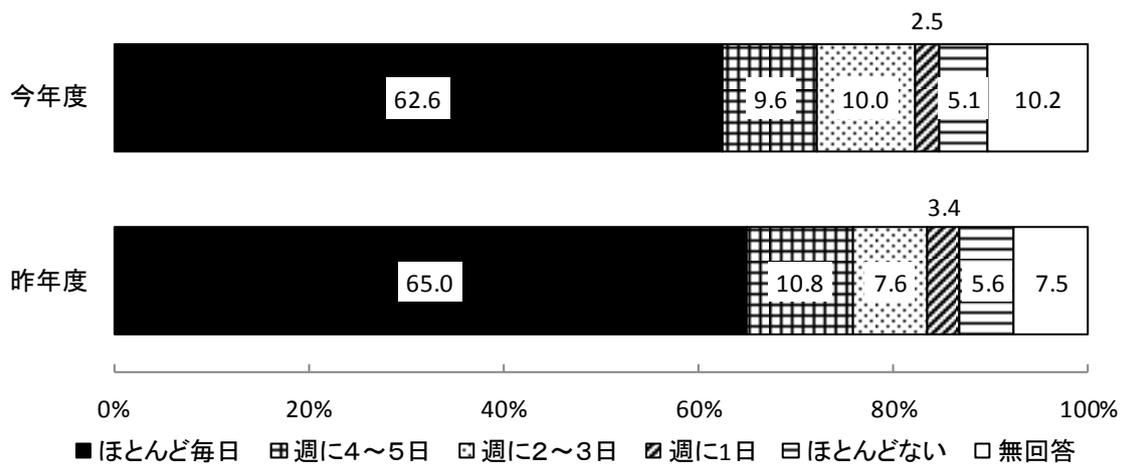
12-6. 朝食・夕食を家族と一緒に食べる頻度

Q12-6 家族と同居している方のみお答えください。(〇はそれぞれ1つつ) (n=1,239)

(ア) 朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか



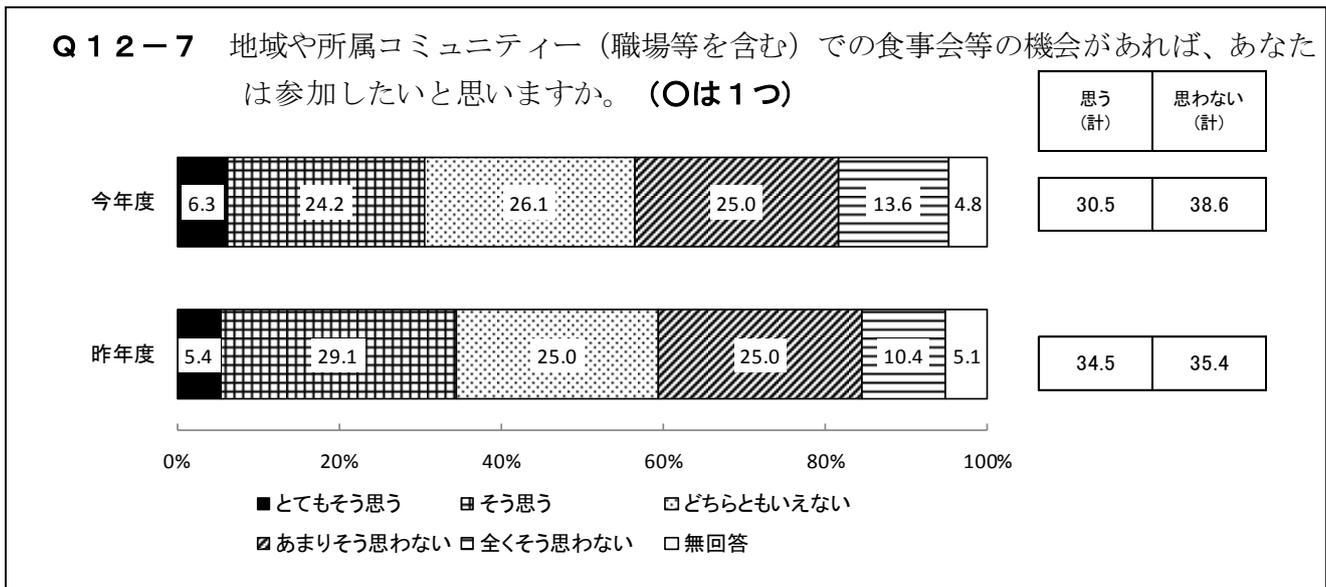
(イ) 夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか



朝食を家族と一緒に食べる頻度について、「ほとんど毎日」が49.0%と最も高く、次いで「ほとんどない」が21.8%、「週に2~3日」が9.1%などの順となっている。昨年度と比較すると、週の半分以上は朝食と一緒に食べる人が増加している。

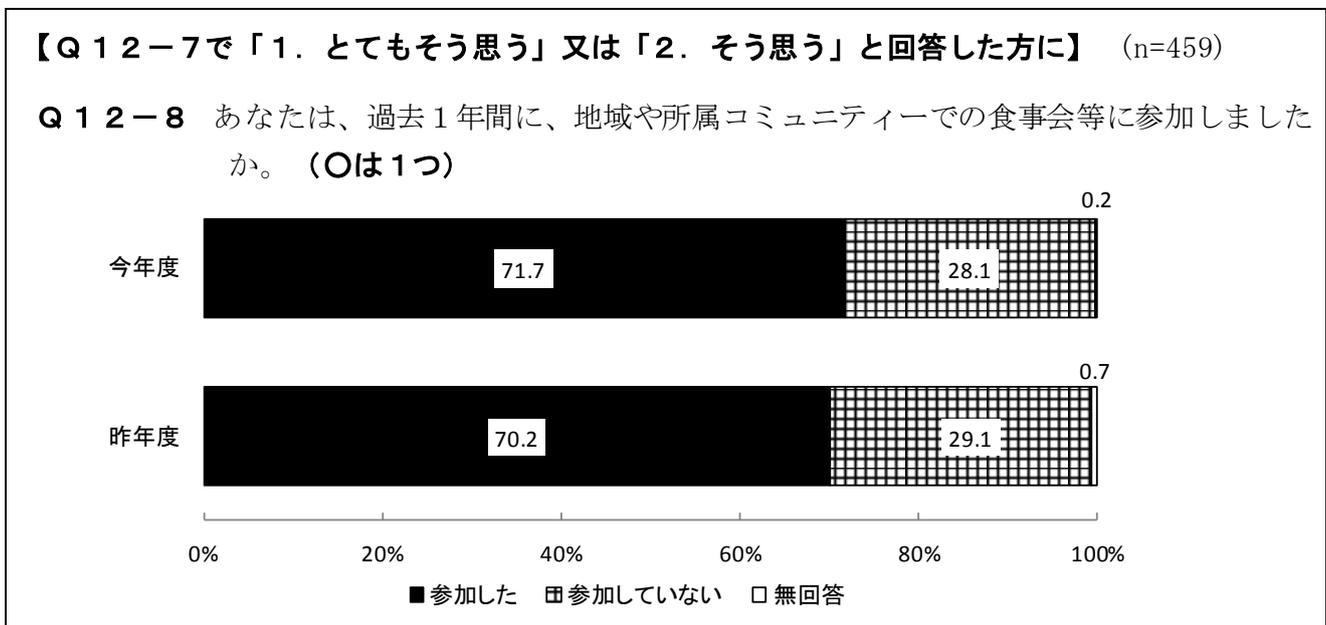
夕食を家族と一緒に食べる頻度について、「ほとんど毎日」が62.6%と最も高く、次いで「週に2~3日」が10.0%、「週に4~5日」が9.6%などの順となっている。昨年度と比較すると、朝食と異なり、週の半分以上は夕食と一緒に食べる人が減少している。

12-7. 地域や所属コミュニティでの食事会等の参加意向



地域や所属コミュニティでの食事会等の参加意向について、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『思う (計)』は30.5%、「全くそう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『思わない (計)』は38.6%となっている。昨年度と比較すると、『思う (計)』は4.0ポイント低下している。

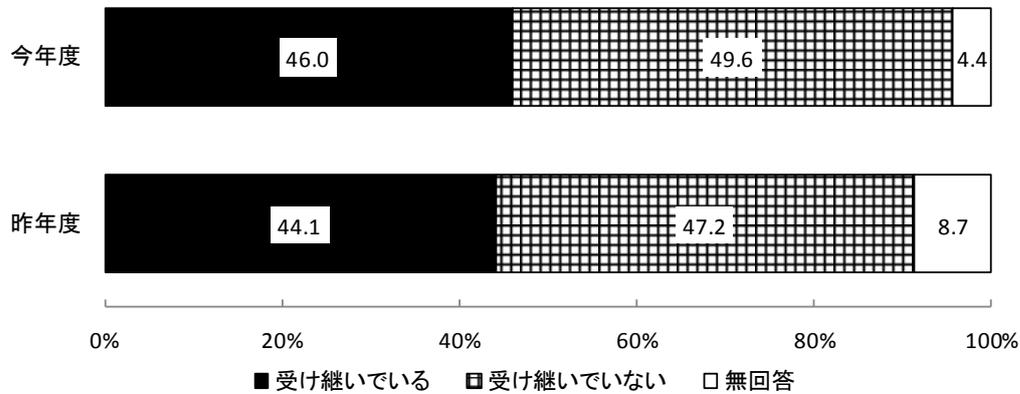
12-8. 地域や所属コミュニティでの食事会等の参加状況



Q12-7で「とてもそう思う」又は「そう思う」と回答された方に過去1年間の地域や所属コミュニティでの食事会等の参加状況について質問すると、「参加した」は71.7%、「参加していない」は28.1%となっている。昨年度と比較すると、「参加した」は1.5ポイント上昇している。

12-9. 料理や味、食べ方・作法の伝統の受け継ぎ状況

Q12-9 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(〇は1つ)

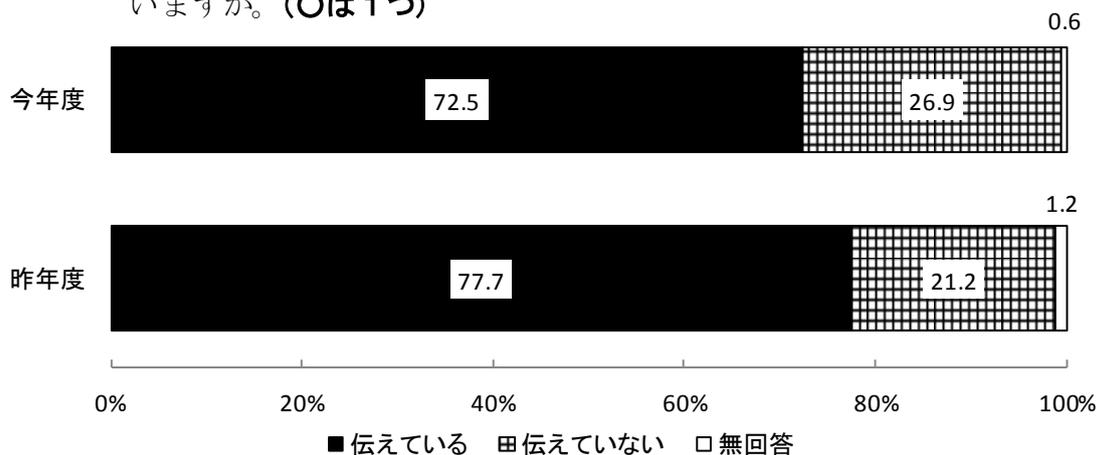


料理や味、食べ方・作法の伝統の受け継ぎ状況について、「受け継いでいる」が46.0%、「受け継いでいない」が49.6%となっている。昨年度と比較すると、無回答が低下したこともあり、「受け継いでいる」「受け継いでいない」ともに上昇している。

12-10. 料理や味、食べ方・作法の伝統の引き継ぎ状況

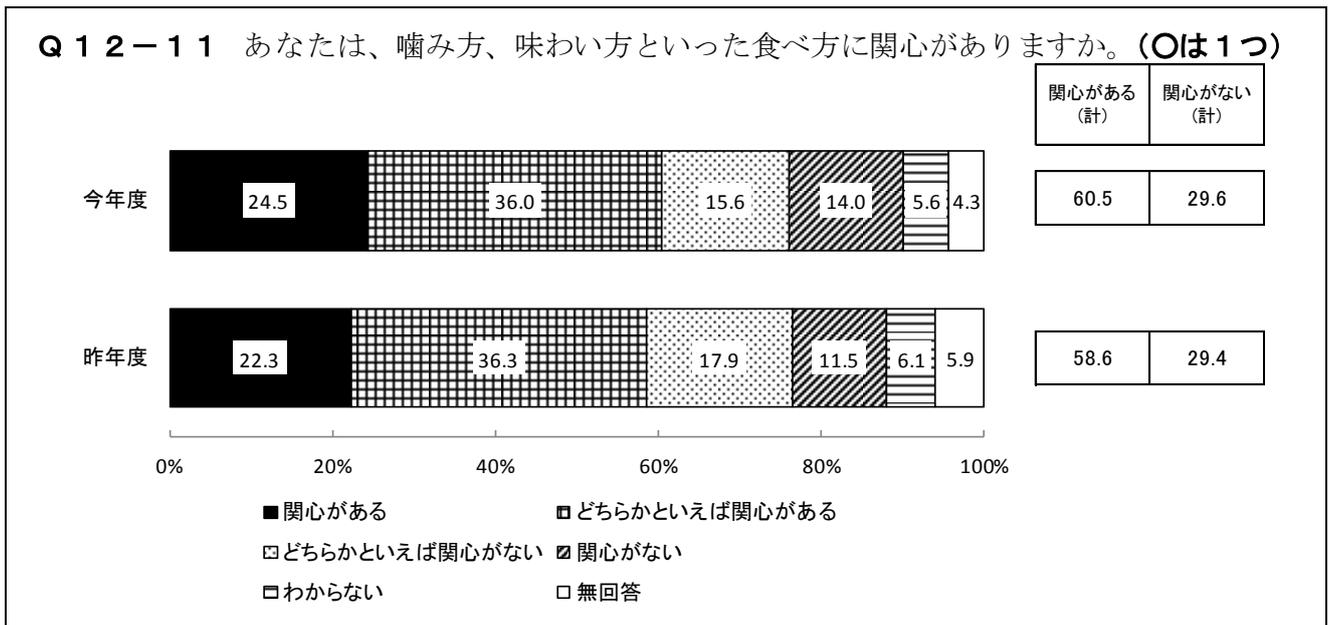
【Q12-9で「1. 受け継いでいる」と回答した方に】 (n=692)

Q12-10 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を、地域や次世代(子供や孫を含む)に対して伝えていきますか。(〇は1つ)



Q12-9で「受け継いでいる」と回答された方に、料理や味、食べ方・作法の伝統の引き継ぎ状況について質問すると、「伝えている」が72.5%、「伝えていない」が26.9%となっている。昨年度と比較すると、「伝えている」は5.2ポイント低下している。

12-11. 食べ方への関心度



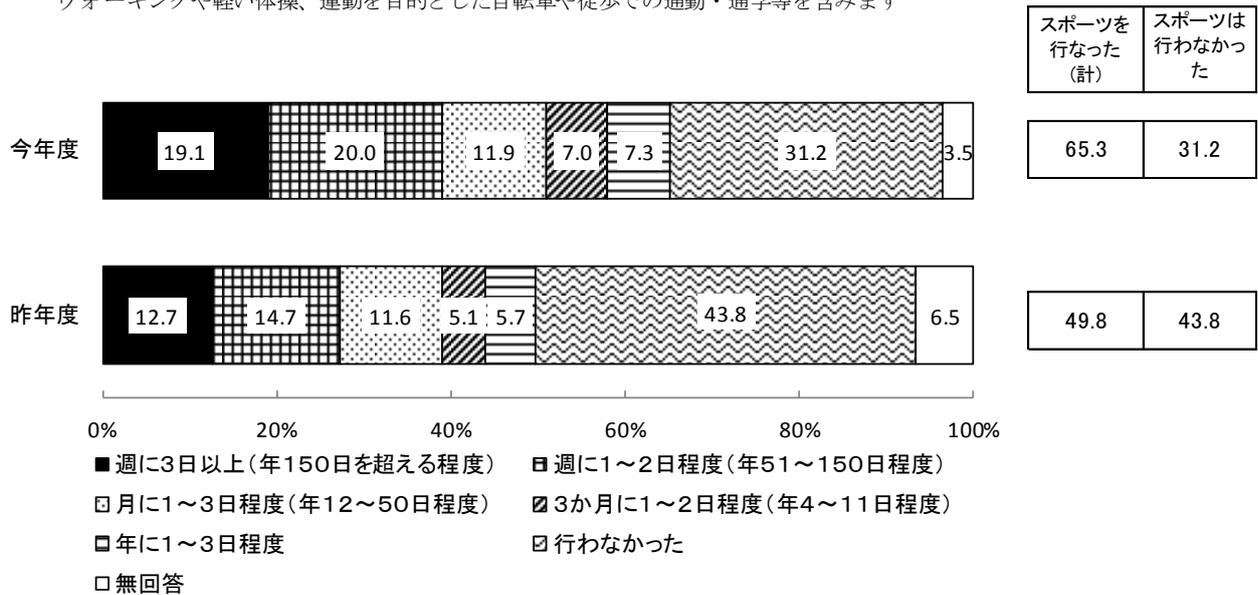
噛み方、味わい方といった食べ方への関心度について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 60.5%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 29.6%となっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 1.9 ポイント上昇している。

13. 運動・スポーツ活動の実施状況について

13-1. 運動・スポーツの実施頻度

Q13-1 あなたは、過去1年間に、どの程度、「運動・スポーツ」を行いましたか。(〇は1つ)

※「運動・スポーツ」：陸上競技・水泳・球技・武道・マリンスポーツ、ウインタースポーツ等の他、グラウンドゴルフ・ソフトバレー等のレクリエーションスポーツ、サイクリング、トレッキング・釣り等のアウトドアスポーツ、ウォーキングや軽い体操、運動を目的とした自転車や徒歩での通勤・通学等を含みます

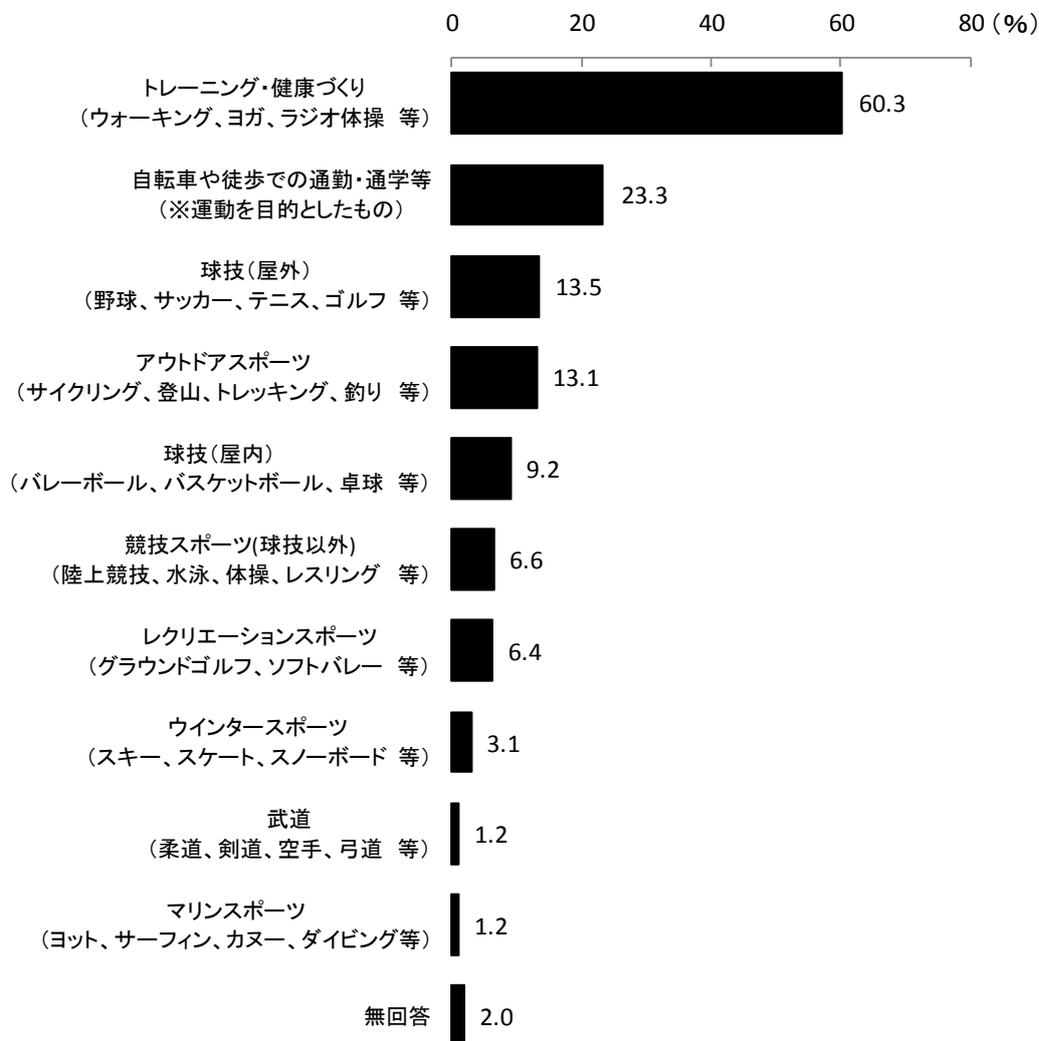


運動・スポーツ実施頻度について質問すると、「行わなかった」が31.2%であるが、昨年度と比較して12.6ポイント低下している。次いで、「週に1~2日程度(年51~150日程度)」が20.0%、「週に3日以上(年150日を超える程度)」が19.1%などとなっている。

13-2. どのような運動・スポーツを行ったか

【Q13-1で「1～5と回答した方に】 (n=983)

Q13-2 どのような「運動・スポーツ」を行いましたか。(〇はいくつでも)

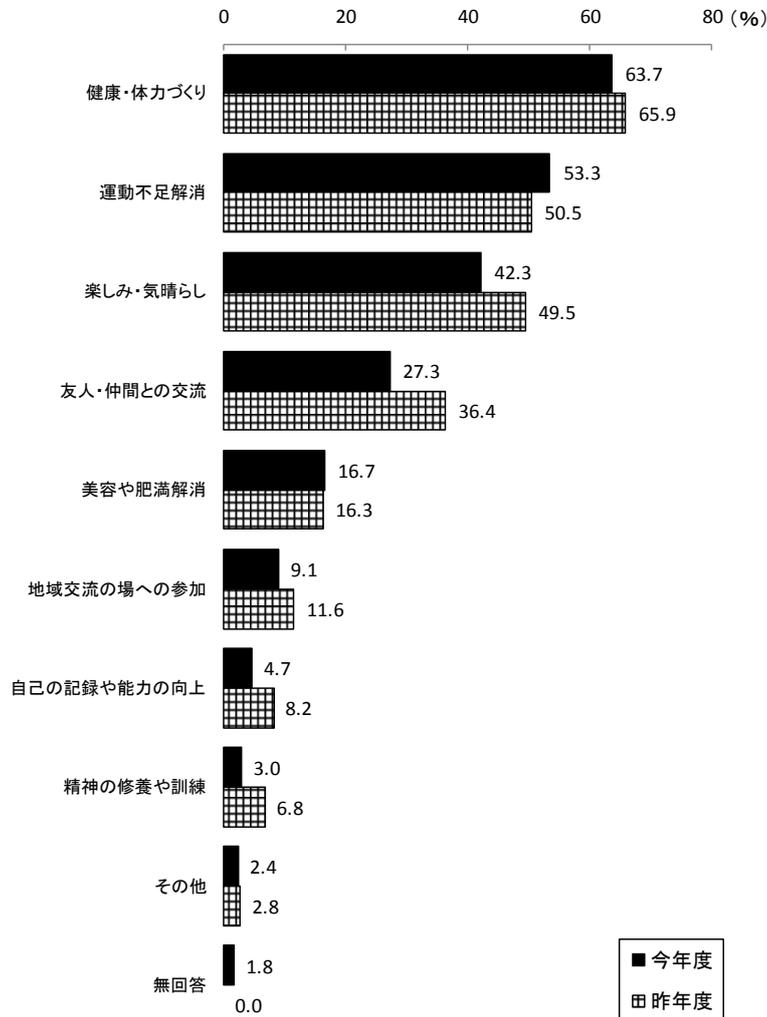


Q13-1で「1～5」と回答した人に、どのような運動・スポーツを行ったか質問すると、「トレーニング・健康づくり」が60.3%と最も高く、次いで「自転車や徒歩での通勤・通学等」が23.3%、「球技(屋外)」が13.5%、「アウトドアスポーツ」が13.1%などの順となっている。

13-3. 運動・スポーツを行った理由

【Q13-1で「1～5」と回答した方に】 (n=983)

Q13-3 「運動・スポーツ」を行った理由は何ですか。(〇はいくつでも)

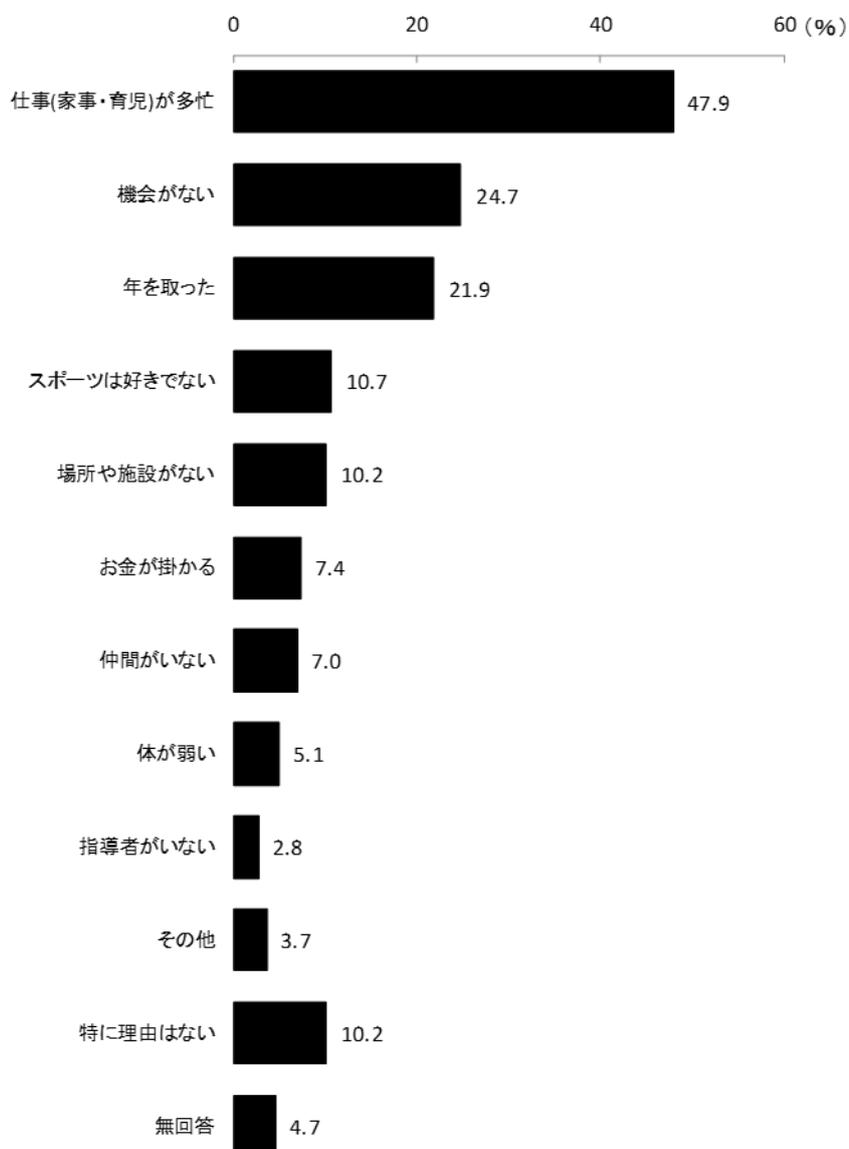


Q13-1で「1～5」と回答した人に、運動・スポーツを行った理由について質問すると、「健康・体力づくり」が63.7%と最も高く、次いで「運動不足解消」が53.3%、「楽しみ・気晴らし」が42.3%、「友人・仲間との交流」が27.3%などの順となっている。昨年度と比較すると、「友人・仲間との交流」は9.1ポイント低下している。

13-4. 運動・スポーツを行う回数が少なかった理由

【Q13-1で「4. 3ヶ月に1~2程度」「5. 年に1~3日程度」と回答した方に】 (n=215)

Q13-4 「運動・スポーツ」を行う回数が少なかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

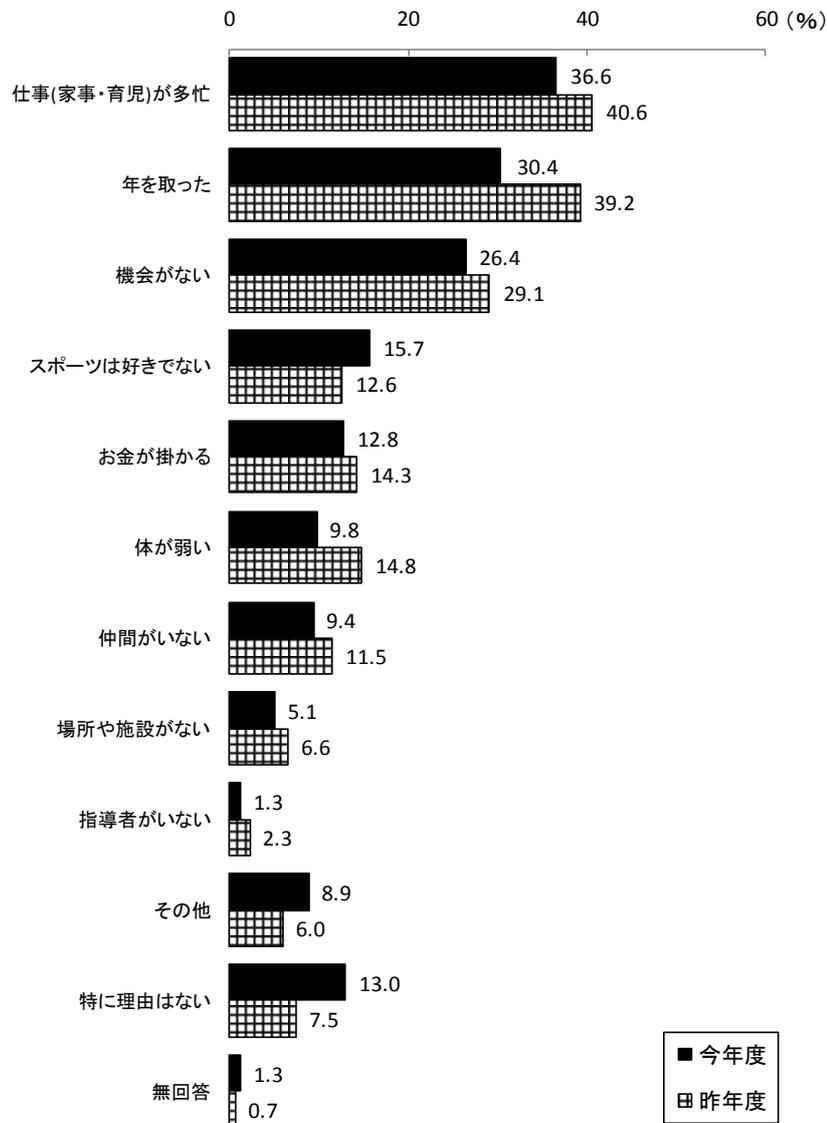


Q13-1で「4. 3ヶ月に1~2程度」「5. 年に1~3日程度」と回答した人に、運動・スポーツを行わなかった理由について質問すると、「仕事（家事・育児）が多忙」が47.9%で最も高く、次いで「機会がない」が24.7%、「年を取った」が21.9%などの順となっている。

13-5. 運動・スポーツを行わなかった理由

【Q13-1で「6. 行わなかった」と回答した方に】 (n=470)

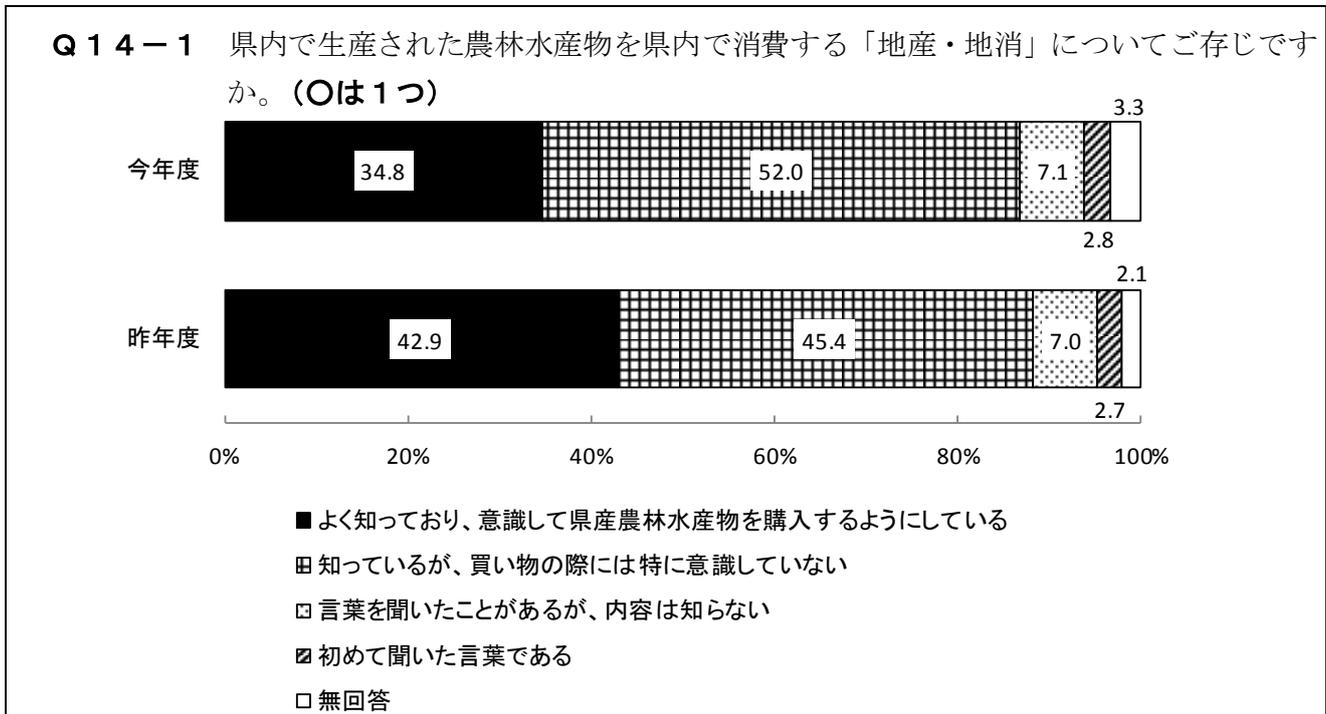
Q13-5 「運動・スポーツ」を行わなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)



Q13-1で「行わなかった」と回答した人に、運動・スポーツを行わなかった理由について質問すると、「仕事(家事・育児)が多忙」が36.6%で最も高く、次いで「年を取った」が30.4%、「機会がない」が26.4%などの順となっている。昨年度と比較すると、「仕事(家事・育児)が多忙」が4.0ポイント、「年を取った」が8.8ポイント、「体が弱い」が5.0ポイント低下したが、「特に理由はない」が5.5ポイント上昇している。

14. 地産・地消の推進について

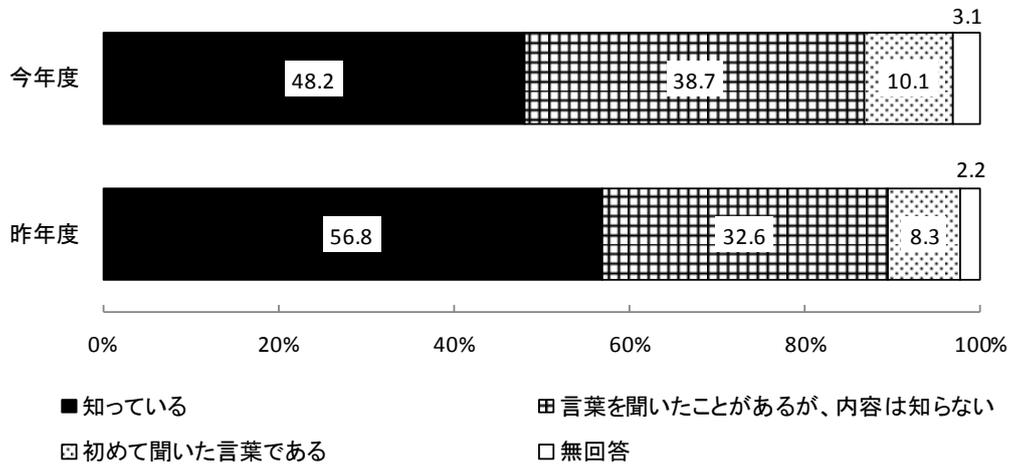
14-1. 「地産・地消」の認知状況



「地産・地消」の認知状況について、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が52.0%と最も高く、次いで「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が34.8%、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が7.1%、「初めて聞いた言葉である」が2.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が8.1ポイント低下し、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が6.6ポイント上昇している。

14-2. 「やまぐちブランド」の認知状況

Q14-2 県産農林水産物等の需要拡大を進めるため、味や品質に優れる「やまぐちブランド」の育成に取り組んでおり、現在、「萩たまげなす」や「やまぐちのあまだい」など約100商品が登録されています。あなたは、この「やまぐちブランド」をご存じですか。(〇は1つ)

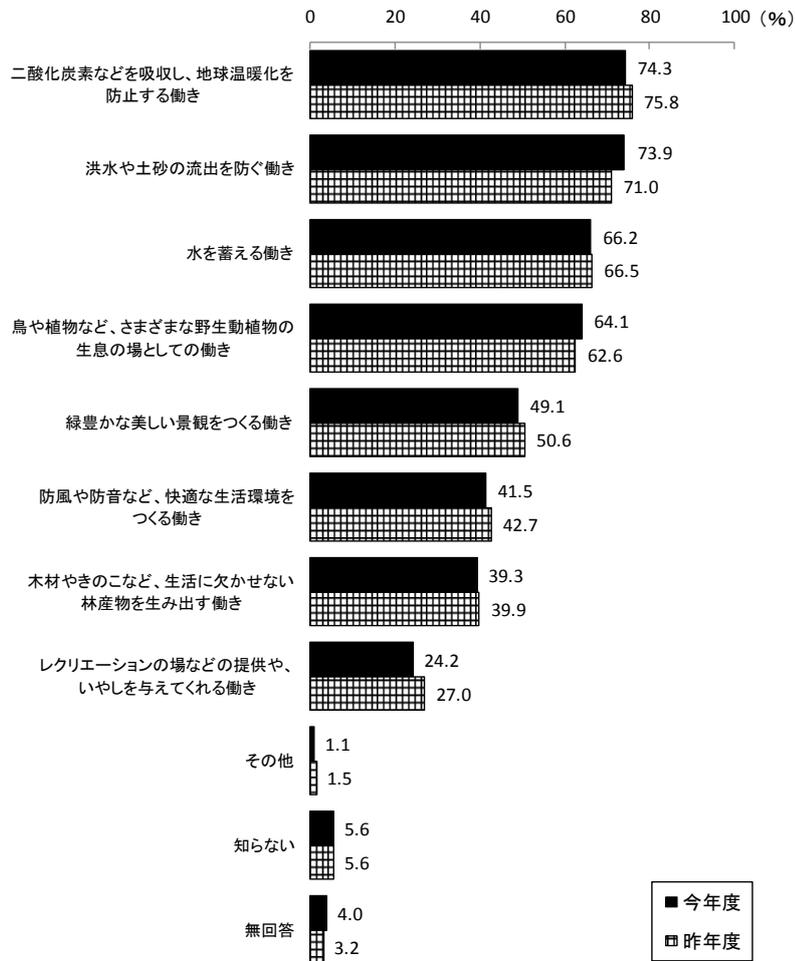


「やまぐちブランド」の認知状況について、「知っている」が48.2%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が38.7%、「初めて聞いた言葉である」が10.1%の順となっている。昨年度と比較すると、「知っている」が8.6ポイント低下し、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が6.1ポイント上昇している。

15. やまぐち森林づくり県民税について

15-1. 森林の持っている働き

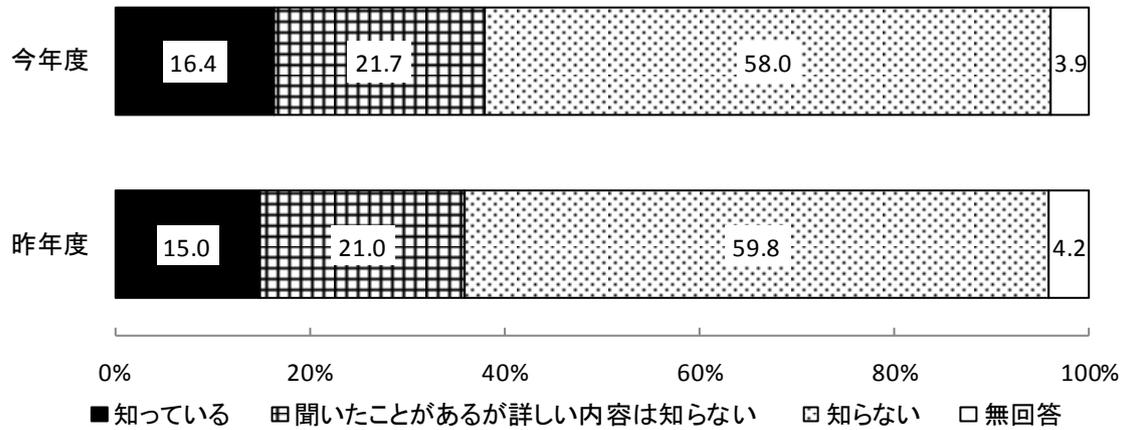
Q15-1 近年、森林の荒廃が問題となっていますが、あなたは、森林の持っているどのような働きをご存じですか。(〇はいくつでも)



森林の持っている働きで知っているものについて、「二酸化炭素などを吸収し、地球温暖化を防止する働き」が74.3%で最も高く、次いで「洪水や土砂の流出を防ぐ働き」が73.9%、「水を蓄える働き」が66.2%、「鳥や植物など、さまざまな野生動植物の生息の場としての働き」が64.1%などの順となっている。昨年度と比較すると、「洪水や土砂の流出を防ぐ働き」は2.9ポイント上昇し、「レクリエーションの場などの提供や、いやしを与えてくれる働き」は2.8ポイント低下している。

15-2. 「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況

Q15-2 山口県では、荒廃した森林の再生を図るため、平成17年度から「やまぐち森林づくり県民税」を導入しました。あなたは、この「やまぐち森林づくり県民税」をご存じですか。(〇は1つ)

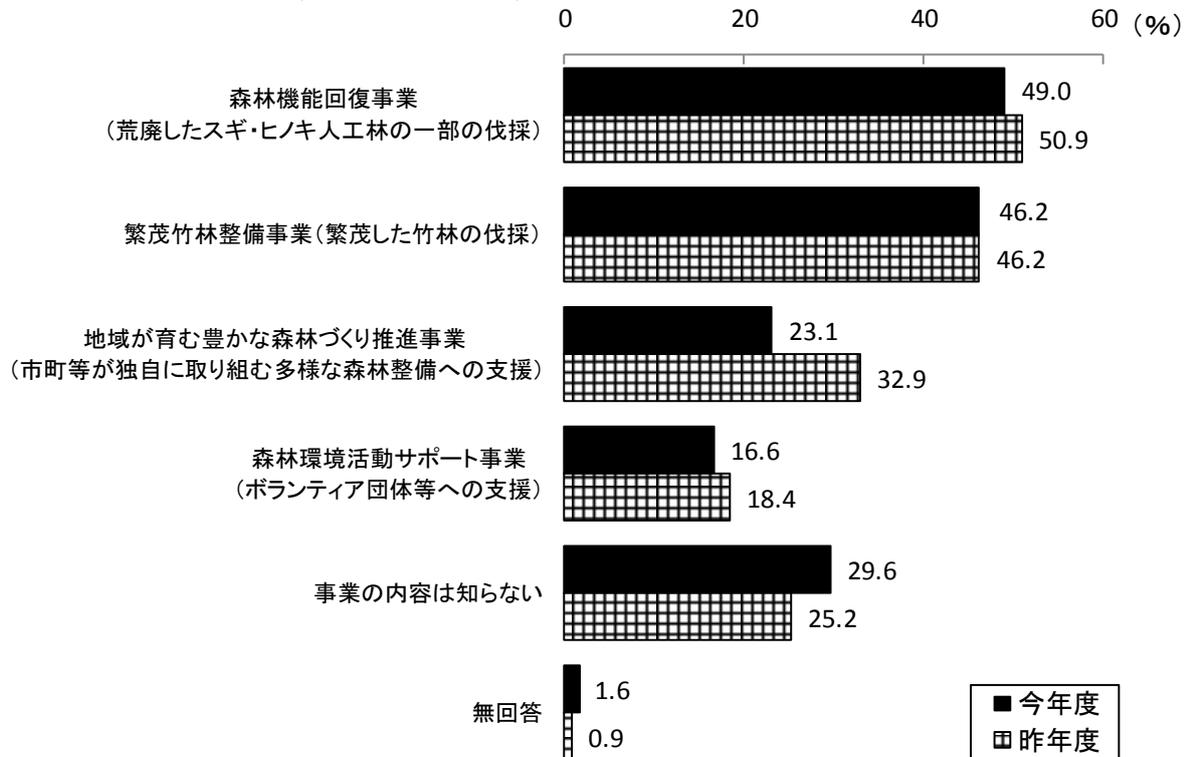


「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況について、「知らない」が58.0%と最も高く、次いで「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が21.7%、「知っている」が16.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「知らない」が1.8ポイント低下している。

15-3. 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容

【Q15-2で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=247)

Q15-3 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、どの事業の内容をご存じですか。(〇はいくつでも)

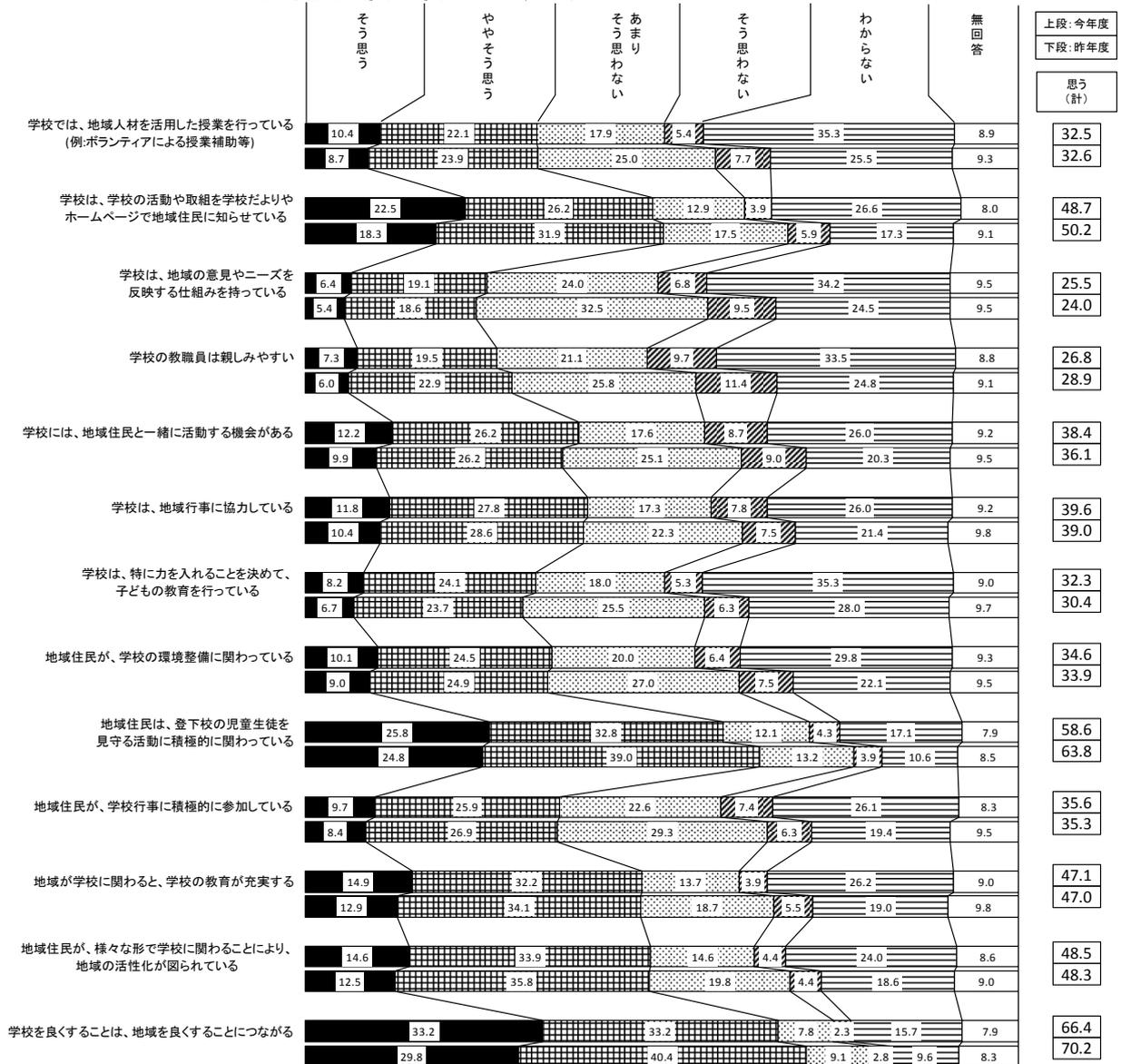


Q15-2で「やまぐち森林づくり県民税」を「知っている」と回答された方に、知っている「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容について質問すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」が49.0%と最も高く、次いで「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」が46.2%、「地域が育む豊かな森林づくり推進事業（市町等が独自に取り組む多様な森林整備への支援）」が23.1%、「森林環境活動サポート事業（ボランティア団体等への支援）」が16.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「地域が育む豊かな森林づくり推進事業（市町等が独自に取り組む多様な森林整備への支援）」は9.8ポイント低下し、「事業の内容は知らない」は4.4ポイント上昇している。

16. コミュニティ・スクールについて

16-1. 地域と学校との関係

Q16-1 あなたがお住まいの地域と地域にある学校（小学校、中学校いずれについてでも可）との関係について、あなたはどの程度そう思いますか。そう思う程度を教えてください。（〇はそれぞれ1つずつ）

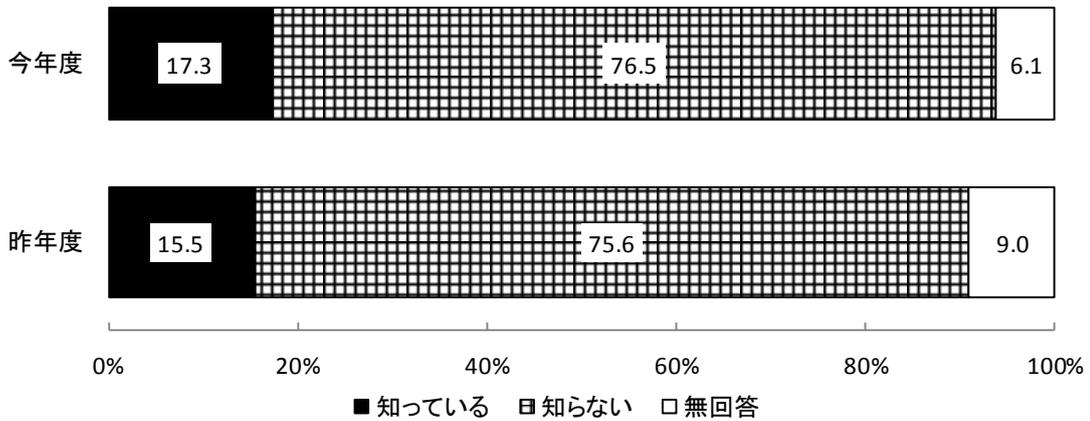


上記のグラフの質問項目は、平成25年度兵庫教育大学「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」の研究テーマ「スクール・コミュニティに向けた学校のマネジメント力強化に関する調査研究」の質問項目を参考とした

地域と学校との関係について、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う(計)』の割合は、「学校を良くすることは、地域を良くすることにつながる」が66.4%と最も高く、次いで、「地域住民は、登下校の児童生徒を見守る活動に積極的に関わっている」が58.6%、「学校は、学校の活動や取組を学校だよりやホームページで地域住民に知らせている」が48.7%などの順になっている。昨年度と比較すると、「学校には、地域住民と一緒に活動する機会がある」が2.3ポイント上昇している。

16-2. コミュニティ・スクールの認知状況

Q16-2 山口県では、コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりを推進しています。あなたは、この「コミュニティ・スクール」をご存じですか。
(〇は1つ)

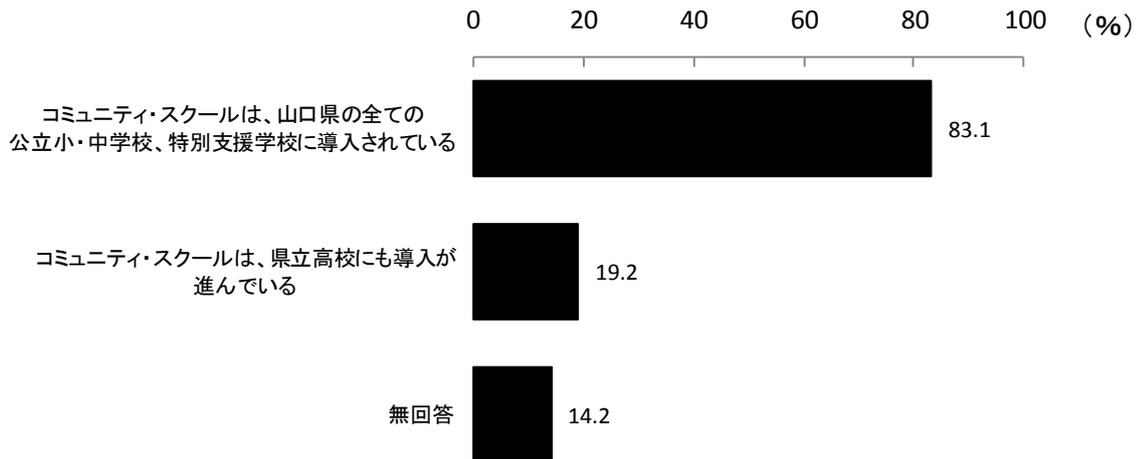


コミュニティ・スクールの認知度について、「知っている」が17.3%となっており、昨年度と比較すると、1.8ポイント上昇している。

16-3. コミュニティ・スクールについて知っていること

【Q16-2で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=261)

Q16-3 「コミュニティ・スクール」について、以下のことをご存じでしたら、〇をつけてください。(複数回答可)



Q16-2で、「コミュニティ・スクールについて知っている」と回答した人で、「山口県全ての公立小・中学校、特別支援学校に導入されていることを知っている」と答えた人は83.1%であり、大半を占めている。